

東京圏、地方での暮らしや移住及び地方への関心に関する意識調査

調査報告書（概要版）

－東京圏在住者の意識調査

－地方移住者（UJ／Iターン者）の意識調査

内閣官房 まち・ひと・しごと創生本部事務局

令和2年9月

目次

1. 調査の目的・概要...P.2
2. 東京圏在住者の意識調査...P.5
 1. 調査方法
 2. 調査結果
3. 地方移住者（UJ／Iターン者）の意識調査...P.33
 1. 調査方法
 2. 調査結果

1.調査の目的・概要

1.調査の目的・概要

本調査の背景・目的

■ 調査の背景

- 地方創生は、人口急減・超高齢化という我が国の直面する大きな課題に対し、政府一体となって取り組み、各地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を創生することを目指し、進められてきた。今般までの概ね5年間で、地域における様々な取組が進められ、地方創生に係る意識や取組は着実に根付いてきてはいるものの、引き続き取り組むべき課題も存在し、地域における有効な取組をより一層押し進めていく必要がある。
- 一方で、東京圏への一極集中については依然として改善傾向に至っていない。地方から東京圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）への転入超過数（日本人移動者）は、2019年には前年対比1万人増加し、14.6万人となるなど、東京圏への転入超過に歯止めがかかっていない。また、近年の東京圏における転入超過については、その大半を、10代後半から20代の若者が占めており、傾向としては、女性の転入超過が男性の転入超過を上回っているといった特徴がある。
- 今後、東京圏への一極集中の是正を見据えた地方への移住・定着の促進のためには、ターゲットとなる層（東京圏への転入超過の大部分を占める年齢層等）が有する東京圏、地方での暮らしや移住に関する意識及び地方への関心を把握し、東京圏への転入超過の要因分析をした上で、より効果的かつ総合的な戦略を立案、実施する必要がある。

■ 調査の目的

- 以上を踏まえ、本調査は、東京圏への転入超過の大部分を占める年齢層に対して、アンケート調査、グループインタビュー調査の2段階の調査を実施し、東京圏での暮らしや移住及び地方への関心に関する深掘した意識調査による東京圏への転入超過等の要因分析を行い、今後の施策へ反映することを目的として実施した。

1.調査の目的・概要

本調査におけるタスクの全体構成

タスク項目		タスク概要		
1	アンケート調査	<ul style="list-style-type: none"> 20～30代の若年層を対象として、インターネットを利用したアンケート調査を行うことで、調査対象者の過去の移動の履歴に関する調査並びに東京圏、地方での暮らしや移住及び地方への関心に関する意識を把握した。 2020年7月に実査を行った。総回収標本数は2,918サンプルで、その内訳は「①東京圏への転入者（1,068サンプル）」、「②生まれよりの東京圏在住者（484サンプル）」、「③地方移住者UJ/ターン者（1,366サンプル）」である。 集計・分析は、調査の背景・目的を鑑みて、「①東京圏への転入者」、「③地方移住者UJ/ターン者」を主な対象として実施した。 		
2	グループインタビュー調査	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果に基づき、インタビュー調査候補者を抽出し、グループインタビュー調査（全体で16グループ）を実施した。 		
		<table border="1"> <tr> <td>東京圏転入者 [計6グループ]</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）を把握することを目的にインタビューを実施した。 ①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等） ②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか） ③地方移住促進に必要な施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）等 </td> </tr> <tr> <td>地方移住者 (UJ/ターン者) [計10グループ]</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に実施を予定する広報事業の実施を展望しつつ、実際に地方に移住したUJ/ターン者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見・インサイトの意見（感情の機微）」や行動実態を把握することを目的にインタビューを実施した。 ①地方移住に関心を持った理由/地方に抱いた気持ちやポジティブなイメージ（特に、「誘因カテゴリー」について、詳細な分析を実施。） ②地方移住に関心がある層が実際に移住を検討/決断した理由 ③移住に至るまでの実態（思考/行動/取得した情報等）等 ④移住後の生活に関する満足度・幸せな生活実態 等 </td> </tr> </table>	東京圏転入者 [計6グループ]	<ul style="list-style-type: none"> 東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）を把握することを目的にインタビューを実施した。 ①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等） ②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか） ③地方移住促進に必要な施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）等
東京圏転入者 [計6グループ]	<ul style="list-style-type: none"> 東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）を把握することを目的にインタビューを実施した。 ①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等） ②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか） ③地方移住促進に必要な施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）等 			
地方移住者 (UJ/ターン者) [計10グループ]	<ul style="list-style-type: none"> 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に実施を予定する広報事業の実施を展望しつつ、実際に地方に移住したUJ/ターン者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見・インサイトの意見（感情の機微）」や行動実態を把握することを目的にインタビューを実施した。 ①地方移住に関心を持った理由/地方に抱いた気持ちやポジティブなイメージ（特に、「誘因カテゴリー」について、詳細な分析を実施。） ②地方移住に関心がある層が実際に移住を検討/決断した理由 ③移住に至るまでの実態（思考/行動/取得した情報等）等 ④移住後の生活に関する満足度・幸せな生活実態 等 			
3	有識者へのヒアリング	<ul style="list-style-type: none"> 上記のアンケート調査及びグループインタビュー調査の質問項目、実施方法等について示唆を得るため「小池司朗氏（国立社会保障・人口問題研究所）」「田中輝美氏（ローカルジャーナリスト）」を対象としてヒアリングを実施した。 		
4	とりまとめ	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査及びグループインタビュー調査の結果を踏まえ、東京圏転入者及び地方移住者（UJ/ターン者）の、東京圏での暮らしや移住及び地方への関心に関する意識（≒東京圏への転入超過等の要因）について整理を行った。 		
		<table border="1"> <tr> <td>東京圏転入者</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 性別（2区分）×東京圏転入のきっかけ（3区分）の6ペルソナを設定して整理した。 ペルソナ毎に、アンケート調査結果をもとに概略的傾向を整理するとともに、グループインタビュー調査で得られた意見の傾向を整理した。 </td> </tr> <tr> <td>地方移住者 (UJ/ターン者)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査結果をもとに、UJ/ターン/ターン（2区分）×性別（2区分）の4セグメントについて、移住者を地方暮らし導いた要因（誘因カテゴリー）の傾向を整理した。 また、グループインタビューを実施した地方移住者10グループのそれぞれについて、グループインタビュー調査で聴取された主なコメント（生の声）を整理した。 </td> </tr> </table>	東京圏転入者	<ul style="list-style-type: none"> 性別（2区分）×東京圏転入のきっかけ（3区分）の6ペルソナを設定して整理した。 ペルソナ毎に、アンケート調査結果をもとに概略的傾向を整理するとともに、グループインタビュー調査で得られた意見の傾向を整理した。
東京圏転入者	<ul style="list-style-type: none"> 性別（2区分）×東京圏転入のきっかけ（3区分）の6ペルソナを設定して整理した。 ペルソナ毎に、アンケート調査結果をもとに概略的傾向を整理するとともに、グループインタビュー調査で得られた意見の傾向を整理した。 			
地方移住者 (UJ/ターン者)	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査結果をもとに、UJ/ターン/ターン（2区分）×性別（2区分）の4セグメントについて、移住者を地方暮らし導いた要因（誘因カテゴリー）の傾向を整理した。 また、グループインタビューを実施した地方移住者10グループのそれぞれについて、グループインタビュー調査で聴取された主なコメント（生の声）を整理した。 			

2.東京圏在住者の意識調査

2.1.東京圏在住者の意識調査_調査手法

東京圏在住者の意識調査の目的、及びアンケート調査・FGI調査の実施手法

■ 調査目的

- 東京圏転入者の地方移住の各意思決定要因プロセス（非関心層⇒関心層⇒検討/計画層）における「移住者の本質的な意見、表面上ではなくインサイトの意見」を抽出し、東京圏転入超過の要因分析（なぜ東京圏に来たのか/なぜ地方に戻らないのか/どうすれば地方に戻るのか）に活用する。具体的には以下の項目を調査することを目的とした。
 - ①東京圏に転入した理由（なぜ東京圏の大学・企業なのか等）
 - ②地方移住を妨げている理由（なぜ地方に戻らないのか）（東京圏へのポジティブ/地方へのネガティブな要素）
 - ③地方移住促進に必要な条件・施策（どうすれば地方に戻るのか/意識が変わるのか）

■ 調査方法

□ インターネット・アンケート調査（2020年7月）

- サンプル設計/対象者条件
 - 現在の居住地が東京圏（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県）。
 - 出身地（概ね18歳までに最も長く暮らした地域）が東京圏以外。
※なお、一部設問については、生まれよりの東京圏在住者を対象とし、地方への移動に係る意識把握を実施
 - 年齢が20～39歳。
 - 東京圏へ転入した年齢が18歳以降（複数回転入の場合は最後の転入が18歳以降）。
 - 東京圏への転入の時期が直近10年以内（複数回転入の場合は最後の転入が直近10年以内）。

● 回収標本数

		東京圏への転入者	生まれよりの東京圏在住者	東京圏在住者計
1	20代 男性	268	119	387
2	20代 女性	266	118	384
3	30代 男性	264	125	389
4	30代 女性	270	122	392
性年代計		1,068	484	1,552

□ FGI調査（フォーカス・グループ・インタビュー調査）（2020年8月）

● Gr.の区分方法、対象者抽出条件

Gr.	性別	東京圏に転入したきっかけ	東京圏に転入した理由	人数
1	男性	進学・教育・職業訓練 (計5名)	①漠然とした東京圏へのあこがれ	3名
			②進学先の選択肢・質	2名
			③キャリアアップ	0名
2	男性	就職（新卒） (計5名)	①漠然とした東京圏へのあこがれ	1名
			②就職先の選択肢の豊富さ	3名
			③やりたい・待遇の良い就職先の存在	1名
3	男性	就職・転職・求職（新卒以外） (計5名)	①漠然とした東京圏へのあこがれ	1名
			②就職先の選択肢の豊富さ	3名
			③キャリアアップ	1名
4	女性	進学・教育・職業訓練 (計5名)	①漠然とした東京圏へのあこがれ	2名
			②進学先の選択肢・質	3名
			③キャリアアップ	0名
5	女性	就職（新卒） (計5名)	①漠然とした東京圏へのあこがれ	1名
			②就職先の選択肢の豊富さ	1名
			③やりたい・待遇の良い就職先の存在	1名
			④余暇・文化/生活利便性の存在	2名
6	女性	就職・転職・求職（新卒以外） (計5名)	①漠然とした東京圏へのあこがれ	1名
			②就職先の選択肢の豊富さ	2名
			③キャリアアップ	2名

2.1.東京圏在住者の意識調査_調査手法

(ご参考) アンケート調査の設問項目

■ インターネット・アンケート調査_設問票

調査票_設問項目
SC1.あなたの性別をお答えください。(ひとつだけ)
SC2.あなたの現在の満年齢をお答えください。(半角数値)
SC3.あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。(ひとつだけ)
SC4_1.あなたが現在お住まいの場所は、次のうちのどちらですか。(ひとつだけ)
SC4_2.あなたが現在お住まいの市区町村名をご記入ください。
SC5.あなたの現在のご職業をお答えください。(ひとつだけ)
SC6.あなたの婚姻の有無をお答えください。(ひとつだけ)
SC7.あなたの子供の有無をお答えください。(ひとつだけ)
SC8.あなたの出身地(生まれてから18歳までの間で、最も長く暮らした地域)をお答えください。(ひとつだけ)
SC9.あなたは地方から東京圏に移り住んだ経験がありますか。(ひとつだけ)
SC12.あなたが、最後に東京圏から地方に移り住んだのは、どのくらいの年齢の時ですか。(ひとつだけ)
SC.13あなたが、18歳以降で最後に東京圏から地方に移り住んだのはいつですか。(ひとつだけ)
Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。 あなたの前に梯子(はしご)があるとします。 「あり得る最悪の人生」を梯子の0段目、「あり得る最高の人生」を梯子の10段目と考えた場合、あなたは今、はしごの何段目にいると思いますか。 0~10段でお答えください。(ひとつだけ)
Q2.あなたの両親の出身地についてお答えください。(ひとつだけ)
Q3.あなたのきょうだい(兄弟・姉妹)構成とあなたの位置付けについてお答えください。(ひとつだけ)
Q4.あなたが地方から東京圏に移り住んだ主なきっかけをお答えください。(ひとつだけ)
Q5.あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。(それぞれひとつずつ)
Q6.東京圏を居住地として決定した際、東京圏以外の地域に居住しなかった理由について、最もあてはまるものをお答えください。(ひとつだけ)

調査票_設問項目
Q7.東京圏に移り住むことは、当時のあなたの希望に沿うものでしたか。(ひとつだけ)
Q8.あなたは地方で暮らすことについて関心がありますか。(ひとつだけ)
Q9.あなたが地方での暮らしを最初に意識したきっかけについてお答えください。(ひとつだけ)
Q10.あなたは地方での暮らしのどのような点(魅力)に関心を持ったのか、あてはまるものをすべてお答えください。(いくつでも)
Q11_1.あなたは、「結婚」をきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。(それぞれひとつずつ) 「地方で暮らすことへの関心が高まった」 「都市部で生活することへのこだわりが減った(郊外での生活も考えるようになった)」
Q11_2.あなたは、「子ども」ができたことをきっかけとして、住まいの場所についての意識は変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。(それぞれひとつずつ) 「地方で暮らすことへの関心が高まった」 「都市部で生活することへのこだわりが減った(郊外での生活も考えるようになった)」
Q11_3.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、住まいの場所や働き方についての意識が変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。(それぞれひとつずつ) 「地方で暮らすことへの関心が高まった」 「都市部で生活することへのこだわりが減った(郊外での生活も考えるようになった)」 「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」
Q12.あなたは地方に暮らすためにどのような情報を収集していますか。あてはまるものをすべてお答えください。(いくつでも)
Q13.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用している手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。(いくつでも)
Q14.地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。(いくつでも)
Q15.あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。(いくつでも)

- 本概要資料で分析の対象とする設問。
- 各設問の集計結果については、調査報告書をご参照のこと。

2.1.東京圏在住者の意識調査_調査手法

(ご参考) FGI調査のインタビュー・フロー

■ FGI調査_インタビュー・フロー

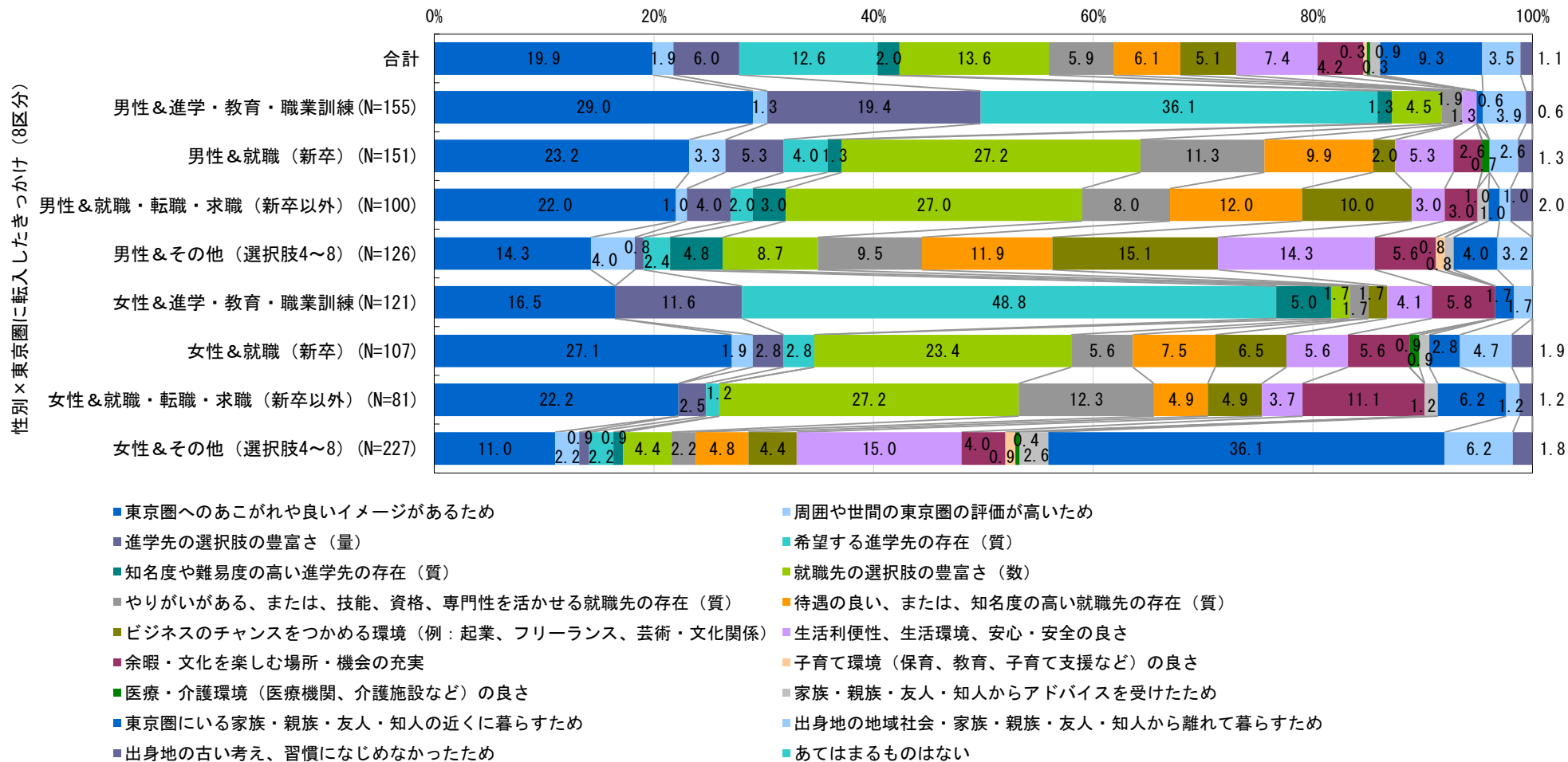
1. ライフスタイル/転入等移住経験	2. 移住の意思決定要因と行動実態	3. 移住を妨げている要素と移住促進に向けた支援策ニーズ	4. 理想とする移住後の生活
<p>【現在のライフスタイル】 ※生き方への価値観を把握</p> <ul style="list-style-type: none">現在の1日の生活パターン現在の生活に満足しているか現在の仕事に満足しているか <p>【生まれてから今までのライフヒストリー】 ※どのような理由で東京圏に来たかを把握し、地方移住しない理由との関連を分析</p> <ul style="list-style-type: none">出生以降の移住経験東京圏移住までの経緯<ul style="list-style-type: none">-東京圏移住を意識した理由・きっかけ-東京圏以外の選択肢/決定した理由-東京圏移住は希望していたものか両親やきょうだいの居住地、出身地東京圏移住前後のギャップ/イメージ	<p>【移住を検討する理由】</p> <ul style="list-style-type: none">地方移住への関心・検討状況地方移住に関心を持った理由地方移住を検討/計画し始めた理由新型コロナウイルス感染拡大による意識変化移住についての両親やきょうだいの意向 <p>【地方移住に向けた行動実態】</p> <ul style="list-style-type: none">移住先について、どの程度検討しているか(候補がある場合) 移住先との関わりどのように情報収集をしているか	<p>【移住を妨げている要素】 ※なぜ地方に戻らないのかを東京圏へのポジティブ/地方へのネガティブの両面から深堀</p> <ul style="list-style-type: none">なぜ移住をしないのか、地元に戻らないのか地元に戻るのが嫌な場合、地元以外の地方をどう思うか東京圏の生活のどのような点が気に入っているのか地方への移住に関心が湧かない理由/不安に感じていること女性の生き方に対する地域独特の偏見があるイメージがあるか地方移住に踏み切れない理由意思決定プロセスごとの意識の違いと要因 <p>【移住促進に必要な支援策ニーズ】 ※どうすれば地方に戻るのかを深堀</p> <ul style="list-style-type: none">地方移住促進に必要な情報のニーズ地方移住促進に必要な国・地方公共団体の支援策のニーズ	<p>【理想とする移住後の生活】</p> <ul style="list-style-type: none">「理想の移住先」とその条件「理想の移住先」でどのような生活をしたいか「理想の移住先」での仕事や働き方についてどのようにイメージしているか

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

ペルソナ別のクロス集計結果_①東京圏に転入した理由

■ アンケート調査結果（100%棒グラフ）

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA_MATRIX]・1位



※全体標本（合計）は、東京圏転入者の平均を集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

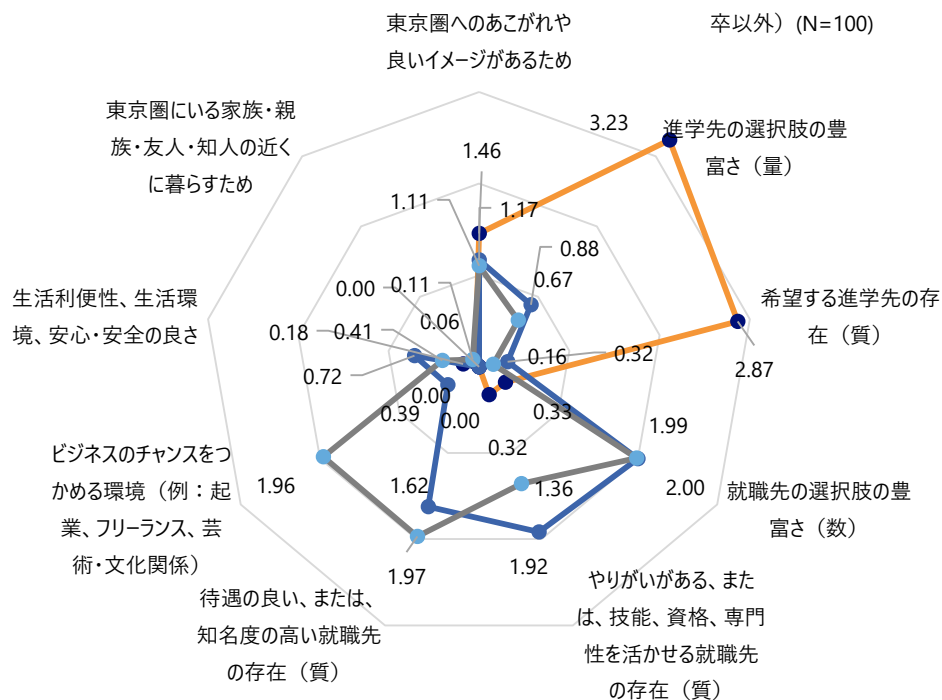
ペルソナ別のクロス集計結果_①東京圏に転入した理由

■ アンケート調査結果（東京圏転入者全体の単純集計値=1.00とした相対指数）

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA_MATRIX]・1位

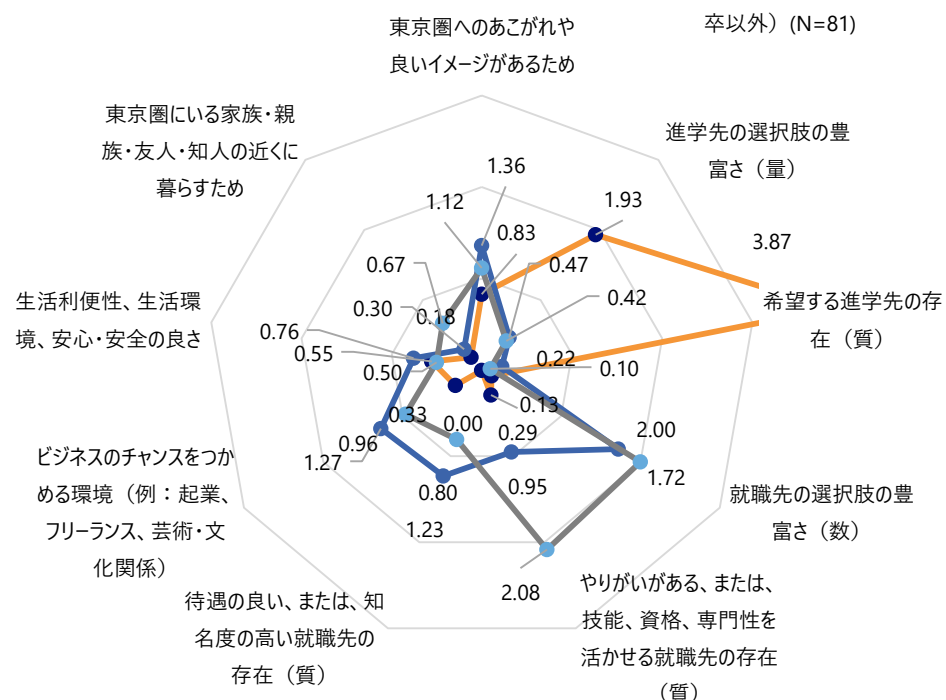
男性×進学・教育・職業訓練、就職（新卒）、就職・転職・求職（新卒以外）
指数：単純集計値 = 1.00

● 男性 & 進学・教育・職業訓練 (N=155)
● 男性 & 就職（新卒） (N=151)
● 男性 & 就職・転職・求職（新卒以外） (N=100)



女性×進学・教育・職業訓練、就職（新卒）、就職・転職・求職（新卒以外）
指数：単純集計値 = 1.00

● 女性 & 進学・教育・職業訓練 (N=121)
● 女性 & 就職（新卒） (N=107)
● 女性 & 就職・転職・求職（新卒以外） (N=81)



※単純集計値は、東京圏転入者の全体集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

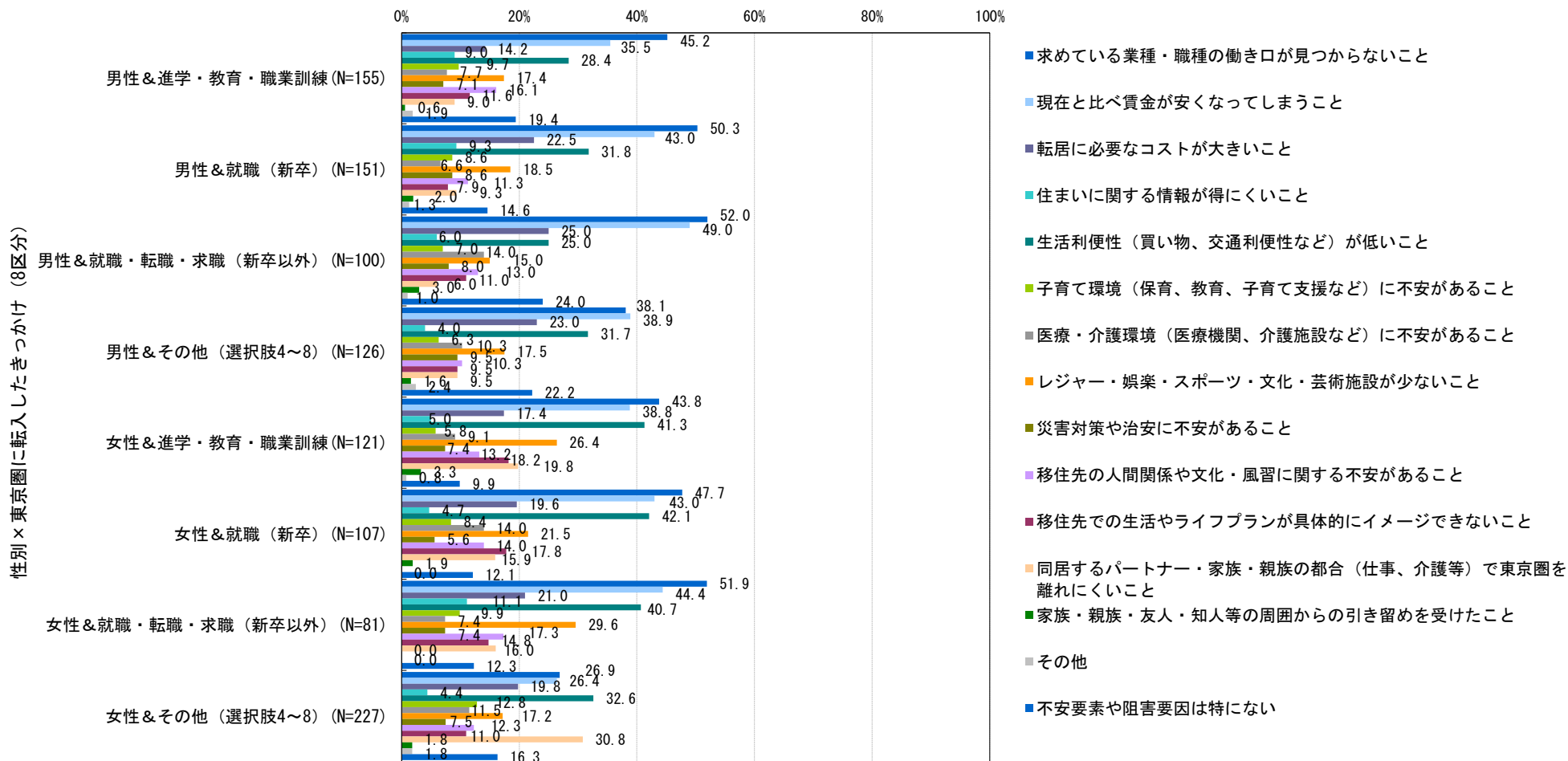
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：5%超の選択肢について分析

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

ペルソナ別のクロス集計結果_①地方への移動を妨げる要因

■ アンケート調査結果（100%棒グラフ）

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。[MA]



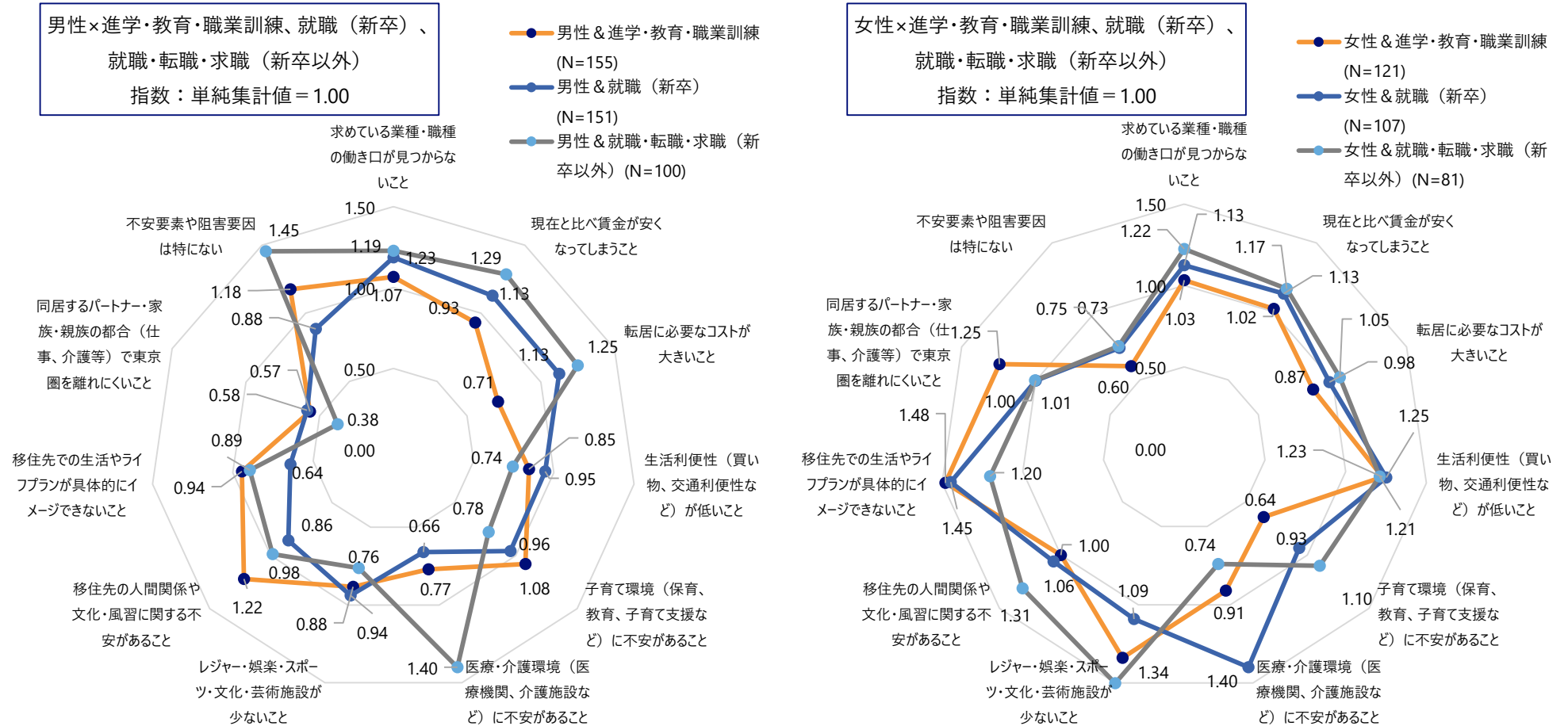
※全体標本（合計）は、東京圏転入者の平均を集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

ペルソナ別のクロス集計結果_②地方への移動を妨げる要因

■ アンケート調査結果（東京圏転入者全体の単純集計値=1.00とした相対指数）

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持ってない理由があればお答えください。[MA]



※単純集計値は、東京圏転入者の全体集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

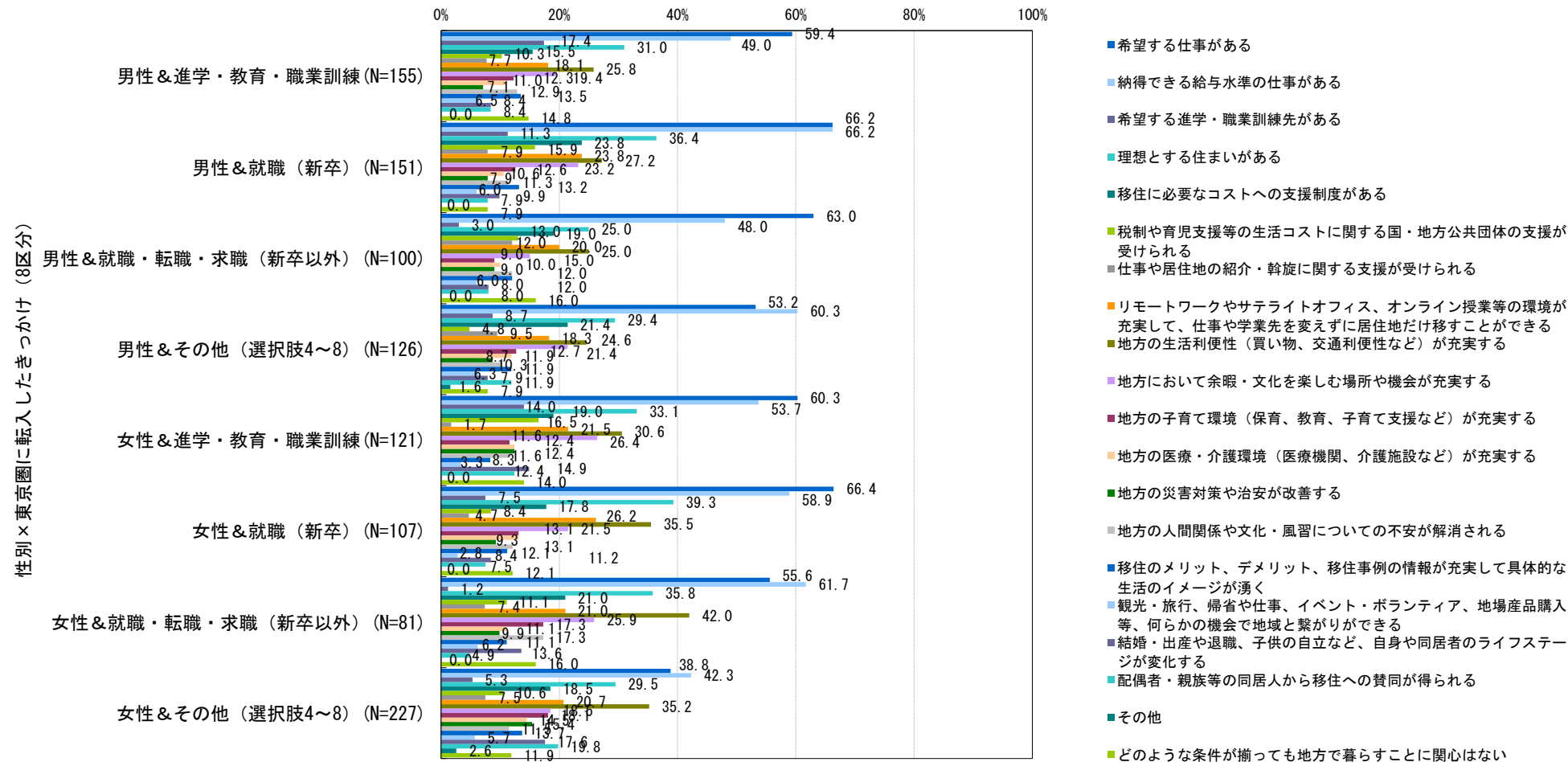
※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：8%超の選択肢について分析

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

ペルソナ別のクロス集計結果_③地方への移動に必要な条件

■ アンケート調査結果（100%棒グラフ）

あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



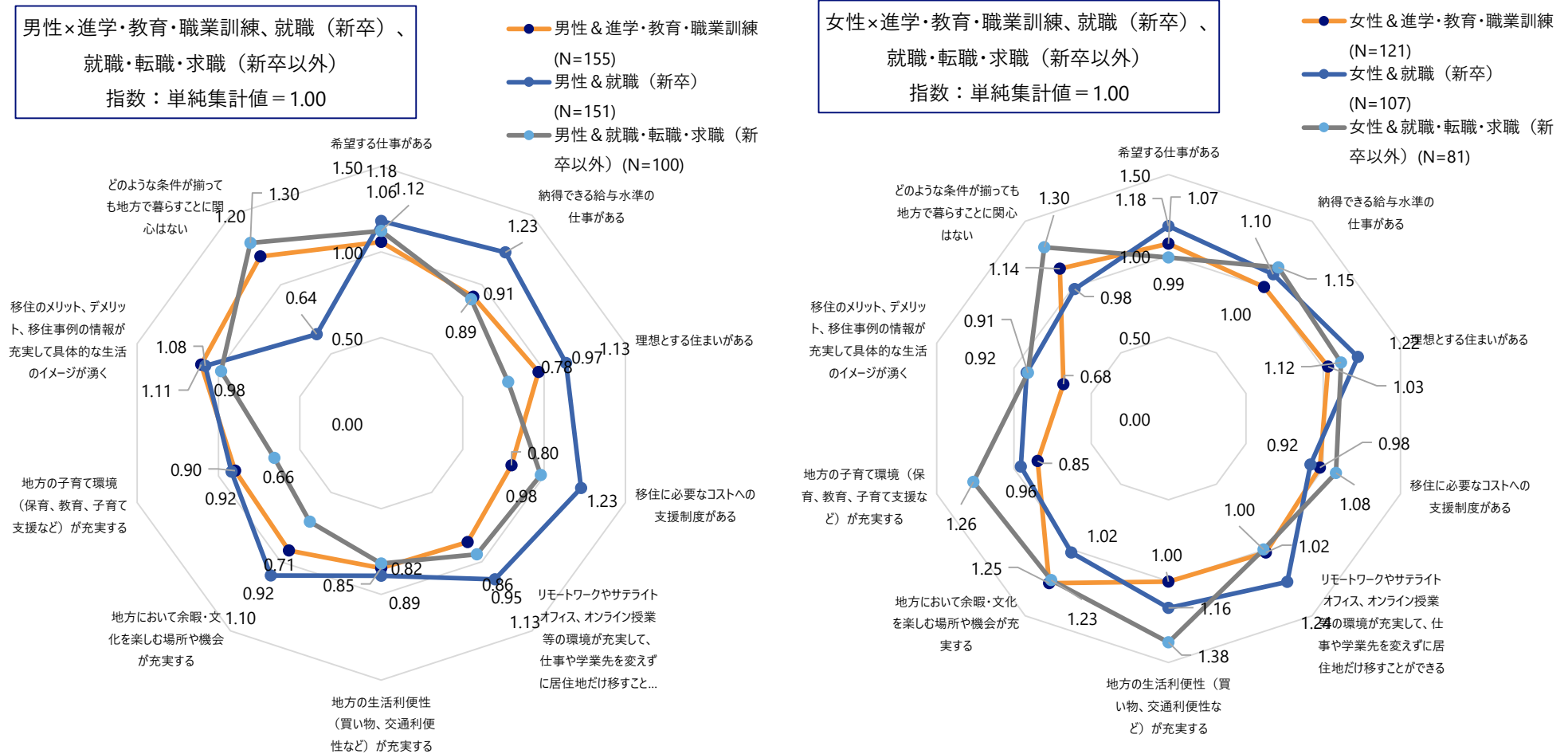
※全体標本（合計）は、東京圏転入者の平均を集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

ペルソナ別のクロス集計結果_③地方への移動に必要な条件

■ アンケート調査結果（東京圏転入者全体の単純集計値=1.00とした相対指数）

あなたは以下のどの条件が揃えば、地方に居住してもいいと思いますか。あてはまるものをすべてお答えください。[MA]



※単純集計値は、東京圏転入者の全体集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

※レーダーチャートについては、単純集計における回答率：13%超の選択肢について分析

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

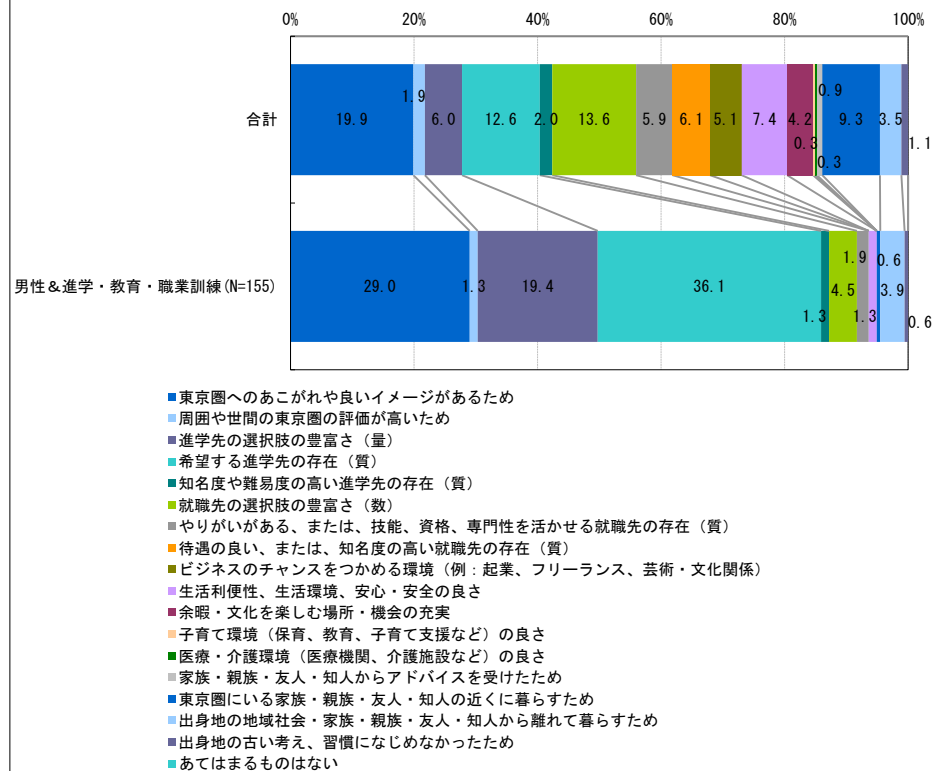
Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練

①東京圏に転入した理由

アンケート調査結果

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「希望する進学先の存在（質）」(36.1%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(29.0%)、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(19.4%)と続く。

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA_MATRIX]・1位



※全体標本（合計）は、東京圏転入者の単純集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

	A	B	C	D	E
年齢	22歳	29歳	36歳	22歳	21歳
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	大学4年生	正社員IT関連・SE	アルバイト(イベント会社)	大学4年生	大学3年生/アルバイト
出身地	大阪府	静岡県	静岡県	群馬県	愛知県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在（質）	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在（質）

FGI調査で抽出した生声

東京圏への転入を意識した理由

- 田舎だったので、周りも東京や福岡に進学していたし、[東京は憧れがあって、ちょっと遊びたいな、みたいな感じで選んだ。](#)（C:あこがれ系）
- [地元には魅力的な進学先がなかった。](#)当時、地球環境に興味があって、その辺りの学問をやられているところがいくつかあって、それが東京圏だった。（B:進学先・質）

東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

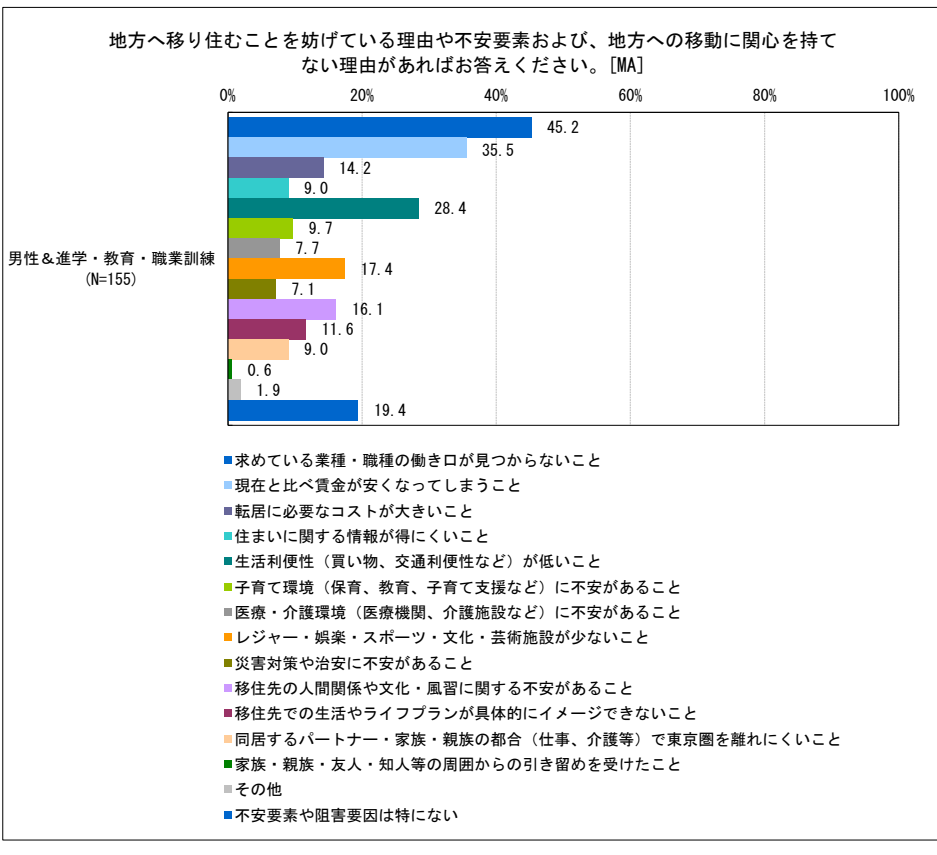
- 関西で大学に行く予定だったが、それがうまくいかなくて、浪人してもう1年頑張るか、東京の大学に行くかを考えて、自分が大学4年生のときに東京オリンピックも決まっていたので、経済が盛り上がっているだろうと思い、自分の目で見てみたかった。（A:あこがれ系）
- キラキラした東京の感じとか、[どこに行っても遊べる憧れみたいなのもあって、行きたい大学もこっちに偏っていたので、こっちに決めた。](#)東京に決めて、親からもいいよと言われていたので他の地方は考えなかった。（E:進学先・質）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練_②地方への移動を妨げる要因

アンケート調査結果

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持っていない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(45.2%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(35.5%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(28.4%)と続く。



FGI調査で抽出した生声

東京圏へのポジティブな想い

- 大学生のうちには遊べる場所の選択肢が多いのはメリット。就職活動をしていたときも、いろんな企業を見やすいのでメリットがあった。（A:関心層、あこがれ系）
- 実際に生活してみると、イベントもプライベートとか公的、学問的なイベントも多いので、勉学とプライベートと両方で東京に住んで良かったと思った。あと魅力的な個性豊かな店やイベントは、東京圏でないと難しい。（B:関心層、進学先・質）

地方への移住に関心が湧かない理由

- 10年くらいは東京にいたい。若いときは東京で走り抜けたいと思っている。地方に移り住めるだけの仕事力を、今つけたいと思う。（A:関心層、あこがれ系）
- ここで暮らすことに困っていない。遊びに行くにしても、どこにでも行けて、自分は飽きやすいので、いろんなところに行けるのはありがたと思う。地方に行きたい欲求は旅行で済む。京都に行きたいとしても、何泊かすれば満たされる。憧れの場所に住むと憧れの場所ではなくなって特別感がなくなる。（E:関心層、進学先・質）

地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

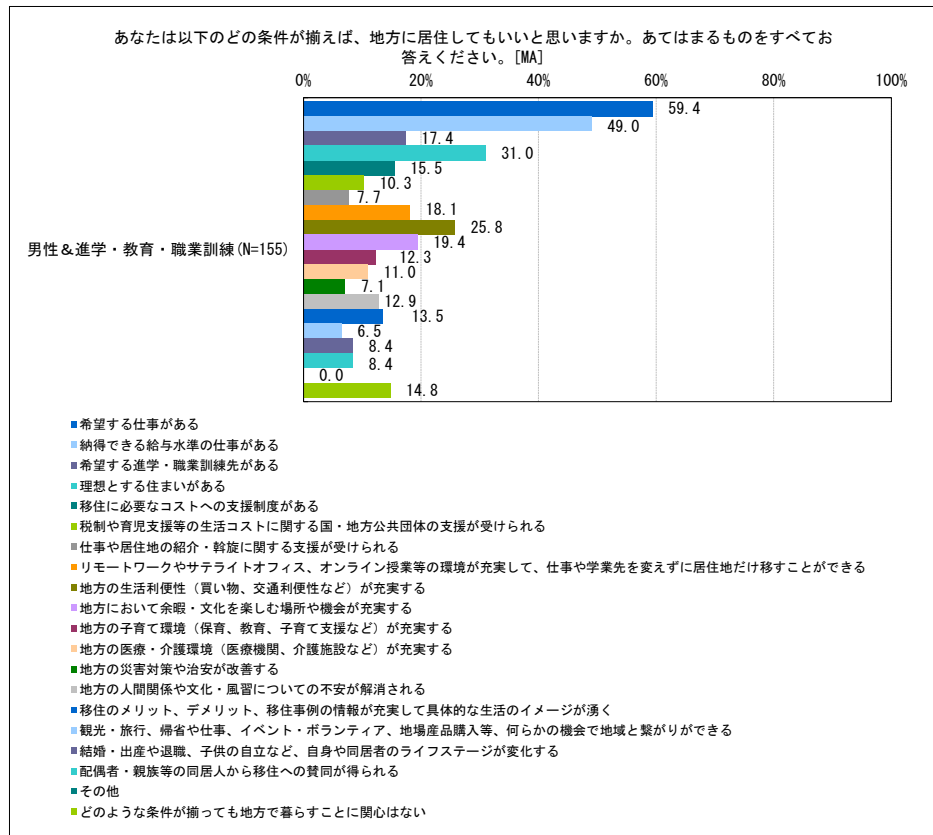
- 仕事はもちろんだが東京でいろんなコミュニティを広げたい。東京は、いろんな多様な働き方をしている人がいるので、そういう方と出会って、自分の中に多様性を持っていきたい。地方は東京よりも簡単に人間関係を作り上げるのが難しいと思うので、流動性がないと感じる。（A:関心層、あこがれ系）
- 1つは趣味、雇用を提供するところが少ないのが懸念される。東京圏は趣味も雇用も選べる選択肢が多い。2つ目は初めて行くところだと、知り合いも少ないし、助けになる人が誰もいないと心配という部分がある。都心は知り合いが多いので、いざというときに話をしたり、集まったりしやすい。地方は知り合いが少ないので、集まりたいときに集まらないし、コミュニティも作りにくい。（B:関心層、進学先・質）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.1 男性×進学・教育・職業訓練_③地方への移動に必要な条件

アンケート調査結果

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(59.4%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(49.0%)、「理想とする住まいがある」(31.0%)と続く。



FGI調査で抽出した生声

移住を検討するために必要な条件

- 住んでみないとよくわからないし、情報が足りない。(A:関心層、あこがれ系)
- 偏差値の高い学校はかなり都心に集中するし、仕事でも機会の格差はあるので、都会と地方の差を感じた状態で、また地方に戻るのはいや。(B:関心層、進学先・質)
- 気候が温暖で、災害が少なく、やりたい仕事があって、そこにいろんなものが揃っているのが条件。(B:関心層、進学先・質)
- 都市のインフラが整っている。地方であっても寂れすぎでない。自治体がちゃんと支えているところなら、地方であっても住みやすいのかと思う。(B:関心層、進学先・質)

国・地方公共団体に求める具体的な支援策

- 地方移住に関する検索型のプラットフォームがあって検索機能があれば、情報を集めやすい。例えば、自分が希望する気候が暖かいとか寒いとか、人口はどれくらい、電車はあるのかいないのか、病院や医者の数、介護に力を入れているのかとか検索して、ヒットすれば後押しする要因になると思う。もっと多くの人が、気軽にフラッと検索して考えられるようになると思う。(A:関心層、あこがれ系)
- 1つは、地方の暮らしのいろんなパターンを、ある家庭やある人の働き方とか暮らし方とかいくつか例を挙げて、その中で不安に思いそうなところを紹介してくれるようなのがあればいい。自分も自治体のサイトを見たときに、こんなのがありますと羅列してあったが文字ばかりでよくわからなかったり、どういうときに使うのかピンと来なかったりした。就活などで企業とか1日の働き方とかあると思うが、あんな感じで、もしここで暮らしたらこうなりますと、いろいろパターンがあれば、イメージがわかりやすい。2つ目は、いずれは持ち家をもつイメージなので、自治体で地方の土地を提供するとか、補助とかしてくれれば住みやすい。大きな買い物になるので、一部貸付でもいいのでしてくれれば、暮らしたいが今はお金がないという人にもいいのかなと思う。老後になってから行く人は増えているようだが、若い人が行きにくいネックの1つは、そこなのかなと思う。都心より安価に住宅が手に入るが、そのお金がない人のために貸し付けがあるとか。(B:関心層、進学先・質)

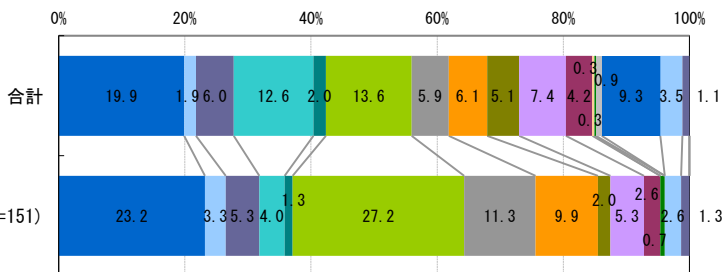
3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.2 男性×就職（新卒）_①東京圏に転入した理由

アンケート調査結果

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(27.2%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(23.2%)、「やりがいのある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」(11.3%)と続く。

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものの上から順に最大5つまでお答えください。[SA_MATRIX]・1位



- 東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため
- 周囲や世間の東京圏の評価が高いため
- 進学先の選択肢の豊富さ(量)
- 希望する進学先の存在(質)
- 知名度や難易度の高い進学先の存在(質)
- 就職先の選択肢の豊富さ(数)
- やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在(質)
- 待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在(質)
- ビジネスのチャンスをつかめる環境(例:起業、フリーランス、芸術・文化関係)
- 生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実
- 子育て環境(保育、教育、子育て支援など)の良さ
- 医療・介護環境(医療機関、介護施設など)の良さ
- 家族・親族・友人・知人からアドバイスを受けたため
- 東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため
- 出身地の地域社会・家族・親族・友人・知人から離れて暮らすため
- 出身地の古い考え、習慣になじめなかったため
- あてはまるものはない

※全体標本(合計)は、東京圏転入者の単純集計(生まれよりの東京圏在住者は除外)

	A	B	C	D	E
年齢	32歳	27歳	25歳	23歳	29歳
未婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正職員 官公庁・事務	アルバイト 医療業・放射線技師	正社員 薬品製造業・開発	正社員 化粧品日用品製造業・貿易事務	正社員 商社・営業
出身地	茨城県	愛知県	富山県	群馬県	兵庫県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在(質)	就職先の選択肢の豊富さ(数)	就職先の選択肢の豊富さ(数)	就職先の選択肢の豊富さ(数)

FGI調査で抽出した生声

東京圏への転入を意識した理由

- 大学の友人がみんな都内の会社に就職すると言うので、流れでという感じ。もともと東京の華やかさに憧れはあった。茨城は本当に田舎なので華やかな所で暮らしてみたいというのはあった。一人暮らしにも憧れた。(A:あこがれ系)
- ずっと富山の方で働こうと思っていたのだが、給与面や自分の資格を活かせる場所が東京にしかなかった。富山とかだと公務員になるしかないと思うのだが、資格を持っていても特段給与面でプラスがなかった。東京は公務員じゃなくて資格を活かせる働き口がいっぱいあった。(C:就職先・質)
- 就職を機に埼玉の寮に引っ越した。就職先は、関東と関西を中心に日本各地でいろいろ調べた。自分の働きたい事業理念だったり、社会へどういう貢献をしているのを見て選んだ。(D:就職先・数)

東京圏への転入を決断した理由/他の地域に移住しなかった理由

- 就職は東京以外全く考えていなかった。全国転勤がある仕事はイヤだった。見知らぬ土地に行くのは好きなのだが、そこに住むのはあまり好きじゃない。旅行とかで行くのは好きなのだがそこに定住するのはあまりイメージできない。ずっと住んでいる関東圏内にい続けたい。(A:あこがれ系)
- 北海道も結構いいところだったので、そのまま住み続けるのもアリかなと思ったのだが、10年後とかを考えたときに、道内の辺鄙な東の釧路とか旭川では札幌から遠く交通が不便なので、現実的じゃないかなと思った。(C:就職先・質)

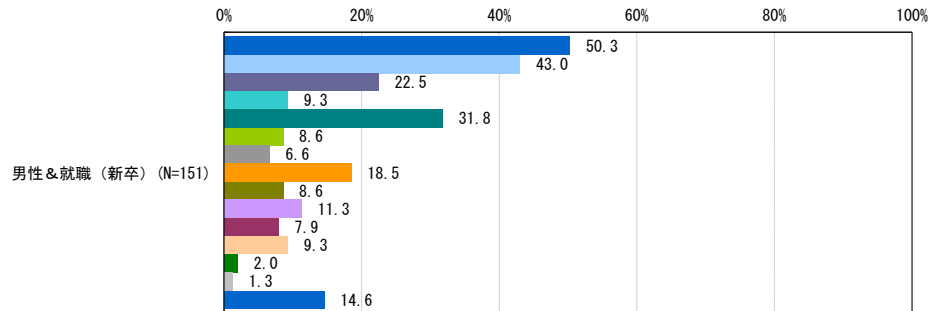
3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.2 男性×就職（新卒） ②地方への移動を妨げる要因

アンケート調査結果

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持っていない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(50.3%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(43.0%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(31.8%)と続く。

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持っていない理由があればお答えください。[MA]



- 求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
- 現在と比べ賃金が安くなってしまうこと
- 転居に必要なコストが大きいこと
- 住まいに関する情報が得にくいこと
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に不安があること
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること
- レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと
- 災害対策や治安に不安があること
- 移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること
- 移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと
- 同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと
- 家族・親族・友人・知人等の周囲からの引き留めを受けたこと
- その他
- 不安要素や阻害要因は特にない

FGI調査で抽出した生声

東京圏へのポジティブな想い

- 東京には夢がある。いろんな人がいて、将来の夢とかいろんな話を聞けるのでそれが一番面白い。子供が巣立ったあとに、東京を離れてコーヒー屋でもやって暮らしたい。それまでは東京がいい。満足ポイントは教育環境では大学が多かったり、中高保育園もある点。また、もともと大都会のイメージしかなかったが蔵前は徒歩圏内に秋葉原とか浅草、上野とか下町だったり、独特の文化がある。東京にもいろんな場所があるなと思って、単純に面白いと思った。（A:あこがれ系、関心層）
- やりたい仕事があるところに行く。それでいうと多分東京。おそらく地方にはない。やりたいことがあれば福岡でも札幌でも仙台でもいい。（B:就職先・質、非関心層）

地方への移住に関心が湧かない理由

- 仕事を辞めたら考える。同じくらい好きになれる仕事があれば考える。（D:就職先・数、関心層）
- ある程度栄えているところに住みたいので、富山であれば（地元ではなく）県庁所在地の富山市になると思う。そうすると実家を離れてしまい土地とかもないし、そういう意味じゃ、結構お金がかかるのかなと思う。（C:就職先・質、非関心層）
- 妻の実家が都内（田端）なので、それがネック。（A:あこがれ系、関心層）

地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

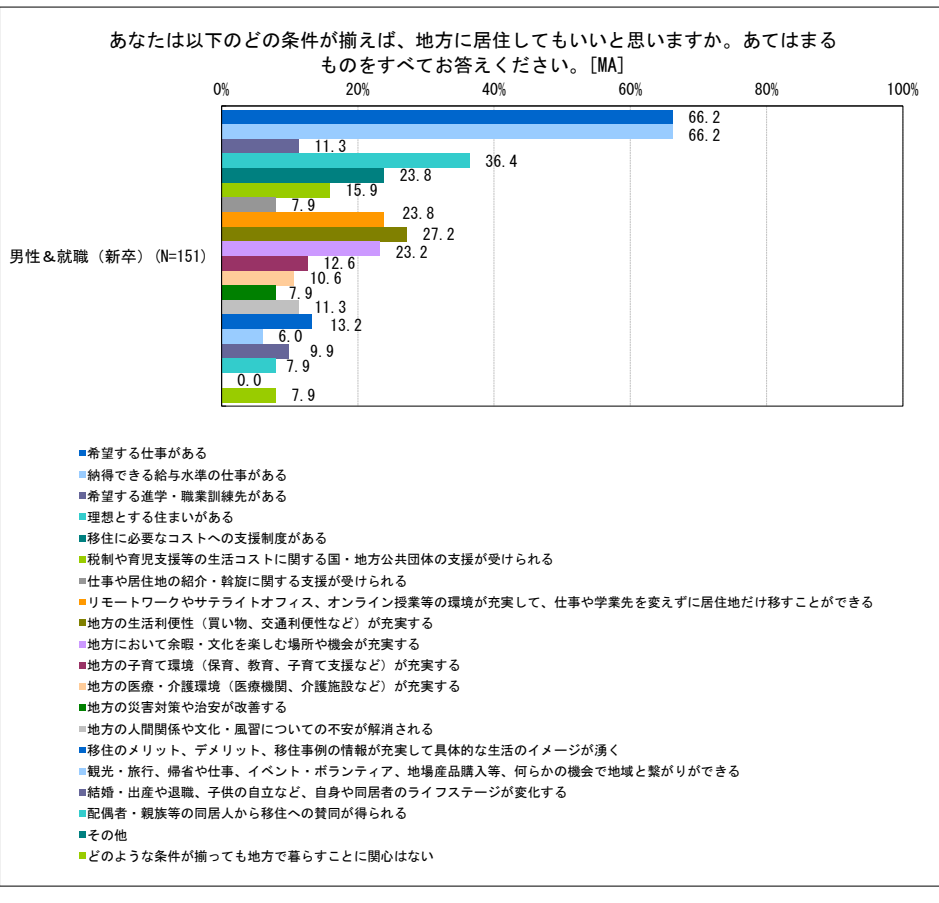
- 給与面。見ていたら圧倒的に首都圏が高い。また、（就職情報を見ると）条件の要綱を見るとやっぱり地方に比べると1割が1.5割は全然違うなという感じがする。（E:就職先・数、関心層）
- 新しいところだとコミュニティとか一から探すのはまた大変だろうなというのが一番。地元だったら友達とか知り合いもいる。新しいところだと大変。（B:就職先・質、非関心層）
- 地方でも一軒家を建てるとなると、土地とかを買ったりとか、一から始めないといけないのでお金がかかると思う。富山は持家率がナンバー1なので、多分帰るとなると家を建てる。それが普通。あと、車社会。車がないと生きて行けないかなと思うほど交通の便が悪い。お酒を飲んだりしたら... バスとかも田舎だと多分8時とかに終わってしまうと思うので不安。（C:就職先・質、非関心層）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.2 男性×就職（新卒） ③地方への移動に必要な条件

アンケート調査結果

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(66.2%)、「納得できる給与水準の仕事がある」(66.2%)が最も高く、「理想とする住まいがある」(36.4%)と続く。



FGI調査で抽出した生声

移住を検討するために必要な条件

- 完全に在宅で入社頻度がさらに減ったらすぐにでも戻りたい。仕事を変えることはまだ考えていない。家賃が安いところ。スーパーが近ければいい。あとできれば山で空気がキレイなところ。自然遊びができるところ。北とか南は関係なくどこでもいい。（D:就職先・数、関心層）
- 将来性。「今はこういう地域だが、これからこんなことをやって、こんな社会を目指している」とかなら、行く。閉鎖的な地域は、「一見お断り」みたいな雰囲気がある。排他的な印象があるところは行きたくない。地方都市ならいいが、大きな病院が近くにないと不安。（A:あこがれ系、関心層）
- 土地柄とか特産とかそういうのも全般的に気になる。豊田で言うところのように地域にまつわる面白い話も知ると愛着がわく。やりたい仕事があって、自然がそこそこあって自然と子供を触れ合わせられるようなぐらいの環境下で、かつ車で30分か1時間ぐらいのところに大型スーパーやショッピングモール（イオン）があればいい。（B:就職先・質、非関心層）

国・地方公共団体に求める具体的な支援策

- 引越して来たら住宅を無償であげますよとか。自治体が趣味のコミュニティを作ってそれに応募してほしい。スポーツとか。ネットでも調べられるが、自治体が行っていると安心感がある。（A:あこがれ系、関心層）
- 地元全体に恩を感じている。中学校のときに交換留学があったのだが、玉村町の施策で50万円もらった。そういったことがいくつかあって、恩を感じている。子育て支援とか、引越しの費用がかかるので、引越し費用の負担とかがあればいい。（D:就職先・数、関心層）
- 子育て支援とか。江戸川区がその辺に力を入れていると聞いて、自治体が力を入れて施策をしているのは印象がいい。独身であってもいい町だという印象になる。（E:就職先・数、関心層）
- 将来性の話とか。今さいたま市が人口に対する病床数がめちゃくちゃ少ないと聞いた。でも「こういう方向に進もうとしている」と教えてもらえれば、「なるほどな、こういういい方向に進もうとしているのね」と思う。（B:就職先・質、非関心層）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

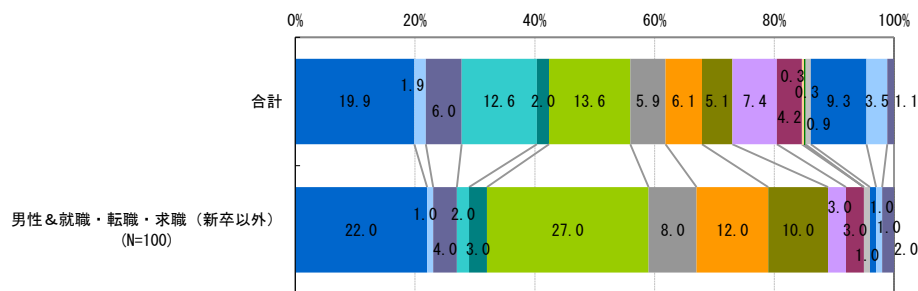
Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外）

①東京圏に転入した理由

アンケート調査結果

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(27.0%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(22.0%)、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」(12.0%)と続く。

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものから順に最大5つまでお答えください。[SA_MATRIX]・1位



- 東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため
- 周囲や世間の東京圏の評価が高いため
- 進学先の選択肢の豊富さ（量）
- 希望する進学先の存在（質）
- 知名度や難易度の高い進学先の存在（質）
- 就職先の選択肢の豊富さ（数）
- やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）
- 待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）
- ビジネスのチャンスをつかめる環境（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）
- 生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）の良さ
- 家族・親族・友人・知人からアドバイスを受けたため
- 東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため
- 出身地の地域社会・家族・親族・友人・知人から離れて暮らすため
- 出身地の古い考え、習慣になじめなかったため
- あてはまるものはない

※全体標本（合計）は、東京圏転入者の単純集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

	A	B	C	D	E
年齢	37歳	34歳	35歳	25歳	25歳
未婚	未婚	未婚	既婚	未婚	未婚
本人職業	契約社員 通信業・エンジニア	派遣 運送業・作業員	正社員 サービス・介護リハビリ	正社員 IT情報通信業・システム開発	正社員 IT情報処理サービス業・研究
出身地	大阪府	愛知県	大阪府	山形県	熊本県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	就職先の選択肢の豊富さ（数）

FGI調査で抽出した生声

東京圏への転入を意識した理由

- 就職してからしばらくは大阪にいて、3～4年ぐらい働いて、首都圏の方が給料とか待遇がいいし勉強になるかなと思って出てきた。（C:就職先・質）
- 仕事とかもちょっと大変で愛知県で転職活動もしていたのだが、ことごとく不採用が続いたので、1回東京圏で探してみようかなと思ったのがきっかけ。（B:就職先・数）
- 目指している職種の中での仙台では選択肢が少なく、比べると条件も首都圏の方が良かった。給料とか年間休日うんぬんが。（D:就職先・数）
- 2～3年間は熊本で働いていたのだが、あまりスキルが身に付かない。例えばデータ入力はただ打つだけなので、今後活かすににくい。幅の広さを考えると、東京だったらいろいろあるかなと思った。（E:就職先・数）

東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

- たまたま縁あって入社できる会社があったので移住した。（B:就職先・数）
- 他の地域でも良かったが、東北はそもそも範囲外。そうすると手近なところで関東になった。それ以上は遠すぎる。札幌だと海を渡るし。（D:就職先・数）
- もともと人や建物が多いため募集が間違いなく多い。あと車の免許がないのだが、熊本は免許必須だったりするので困る。東京ではそういうことはあまりないと思う。（E:就職先・数）

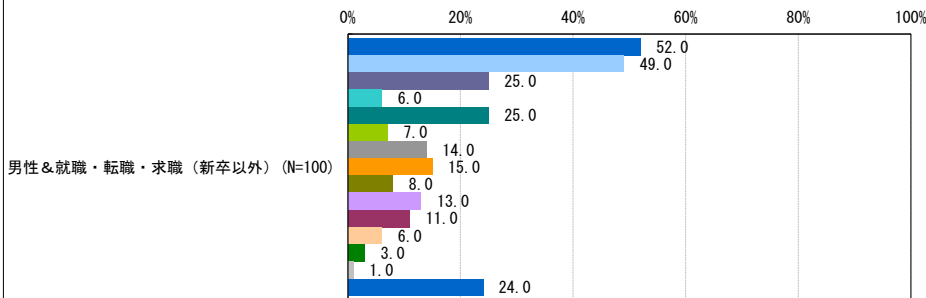
3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外） ②地方への移動を妨げる要因

アンケート調査結果

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持っていない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(52.0%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(49.0%)、「転居に必要なコストが大きいこと」(25.0%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(25.0%)と続く。

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持っていない理由があればお答えください。[MA]



- 求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
- 現在と比べ賃金が安くなってしまうこと
- 転居に必要なコストが大きいこと
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に不安があること
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること
- レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと
- 災害対策や治安に不安があること
- 移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること
- 移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと
- 同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと
- 家族・親族・友人・知人等の周囲からの引き留めを受けたこと
- その他
- 不安要素や阻害要因は特になし

FGI調査で抽出した生声

東京圏へのポジティブな想い

- 携われるプロジェクトの規模感や得られるものが全然違うと思う。まずはそのための力をつける段階かなと考えている。（D:就職先・数、関心層）
- 給料もいいので、働けるうちは動いて、それからでもいいかなと思う。子供を預けられる環境とか、会社の託児所とかもこっちの方が体制が整っているかなと思う。（C:就職先・質、関心層）
- 電車に乗ればある程度のところに行けるので、それはすごくラク。熊本は車がないと移動が難しいが、その点都内はお金はかかるがラク。（E:就職先・数、非関心層）

地方への移住に関心が湧かない理由

- こっちでやるのがなくなったら地元に戻るぐらいはいいかな。（E:就職先・数、非関心層）
- 子供が成人するぐらいのタイミングかな。今ではないかなと思う。大学は関西にもそこそこあるが数は東京の方が多し、就職もこっちの方が都合がいいのかなということはやっと考えてしまう。（C:就職先・質、関心層）

地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

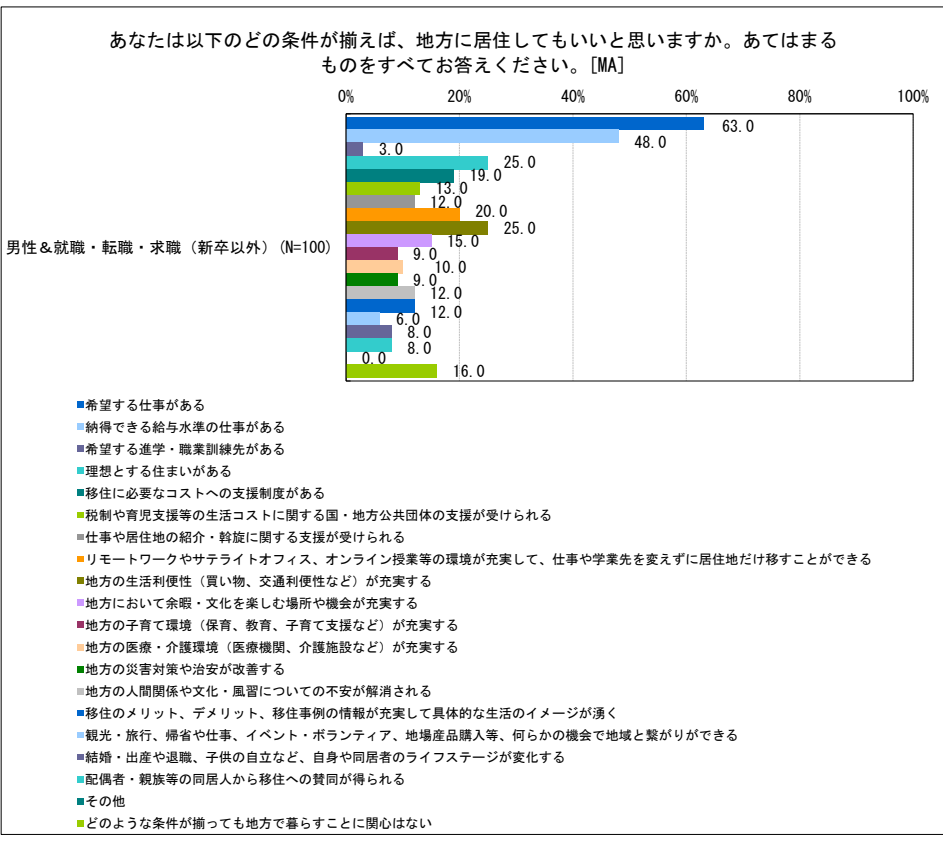
- 自分の持病の関係で自動車運転は避けるよう指導を受けているが、山形は圧倒的な車社会。地方に移住したいが車は避けたいという事情がある。（D:就職先・数、関心層）
- 実家では親がやってくれたがゴミ出しの当番や掃除、町内会費集めなどが結構あった。もしかしたらそういうところもストレスになるのではないかなと思う。（B:就職先・数、関心層）
- ゴミ当番とか、大阪の河内長野に住んでいる友達は溝の掃除が当番で回ってくるという。休みの日を別のことに使われるのはハッキリ言ってイヤ。（A:あこがれ系、関心層）
- 地元の顔見知りというのがある。代々そこに住んでいて顔見知り同士で仲良くやっていて、蚊帳の外になるみたいなのが思い浮かんだ。（D:就職先・数、関心層）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.3 男性×就職・転職・求職（新卒以外） ③地方への移動に必要な条件

アンケート調査結果

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(63.0%) が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(48.0%)、「理想とする住まいがある」(25.0%)、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」(25.0%)と続く。



FGI調査で抽出した生声

移住を検討するために必要な条件

- コロナで仕事がなくなったりとか、緊急的な、戻らざるを得ない状況に陥ったときだけかな。（E:就職先・数、非関心層）
- お金の余裕ができれば仙台や福岡にも住んでみたい。引っ越しや仕事をしない間の生活にかかるまとまったお金がいると思う。宝くじの1等が当たれば一番いい。（A:あこがれ系、関心層）
- 移住する手間。引っ越しやいろいろなことの解約、お金がかかったり様々ある。仕事も探し直したりしないといけない。それを考えるとわざわざ戻らなくてもいいかなと思う。面倒くさい。とっても簡単でめっちゃ安いなら戻るかもしれない。（E:就職先・数、非関心層）

国・地方公共団体に求める具体的な支援策

- 発展具合と就職情報。以前とどれくらい変わって発展しているか。盛り上がっている感じであれば戻っても楽しめる部分があるのかなと思う。新鮮味や新しさを感じるので興味がわくと思う。（E:就職先・数、非関心層）
- その地域にどういふ人が主に住んでいるかを知りたい。外国人などが多くと偏見かもしれないがマナーや治安が悪くなる印象があるので、移住するとしたら重要。若い人が多かったですら、これからもどどん人が増えるかな、生活インフラが整っていくかなというイメージが付きやすい。（C:就職先・質、関心層）
- 同年代の人が都会に行きたいと思っている人が多いのか、住んでいて満足しているのかなど知りたい。（A:あこがれ系、関心層）
- 移住者向けの総合ポータル。地域それぞれの補助制度や優遇制度を集約して検索するとパツと出るような、ポータルみたいなものがあるといい。自治体の生活課とか、かなり生活に根差したところなら多少信用できそう。（D:就職先・数、関心層）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

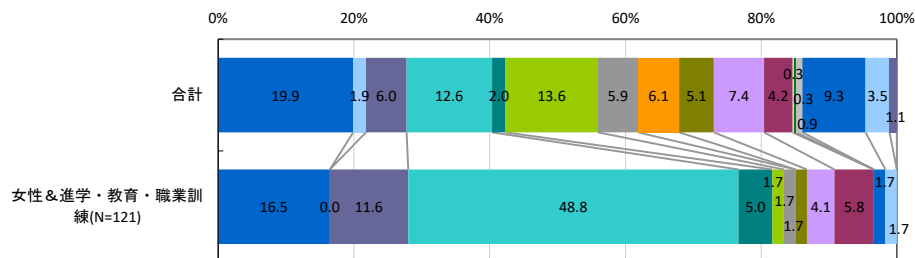
Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練

①東京圏に転入した理由

アンケート調査結果

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「希望する進学先の存在（質）」(48.8%)が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(16.5%)、「進学先の選択肢の豊富さ（量）」(11.6%)と続く。

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA_MATRIX]・1位



※全体標本（合計）は、東京圏転入者の単純集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

	A	B	C	D	E
年齢	24歳	28歳	28歳	28歳	28歳
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 不動産業・事務	正社員 IT業・事務	正社員 教育業・事務	正職員 官公庁・事務	正社員 運送業・営業企画
出身地	愛媛県	茨城県	山口県	福岡県	長野県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	希望する進学先の存在（質）	希望する進学先の存在（質）	進学先の選択肢の豊富さ（量）

FGI調査で抽出した生声

東京圏への転入を意識した理由

- 高校の友達は地元に残っている人が多く、皆と同じなのがイヤで東京に出てきた。18で専門学校に出て来たのだが、東京がいいなという感じで東京に来て、茨城に帰りたいとは思ってなくて、実家にも帰らなくていいやという感じ。（B:あこがれ系）
- 目指していた大学が東京にあるのと、情報も近いほうが集まるし、その大学向けのクラスがきちんとあるので効率よく目指すところに入れるかなと思ったから。母が京都の大学に行っていて旅行でもよく行っていたから最初は京都の大学でもいいかなと思っていた。（C:進学先・質）

東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

- 東京なら何かしらできるって思った。どこにでも遊びに行けるし、音楽が好きでライブが好きだったので、東京に来たらライブハウスにたくさん行けるという、浅はかな考え。（B:あこがれ系）
- 高2のときに京都の志望校のオープンキャンパスに行ったらちょっと思っていたものと違い、それまで頑張っていたのでレベルは落としたくないのでどこかと考えたら東京だなと思った。それと、当時マスコミ関係に就職したいと思ったこともあって、テレビとか出版とかエンタメ系などの制作の方に興味があったから、それなら東京だなと思った。（C:進学先・質）

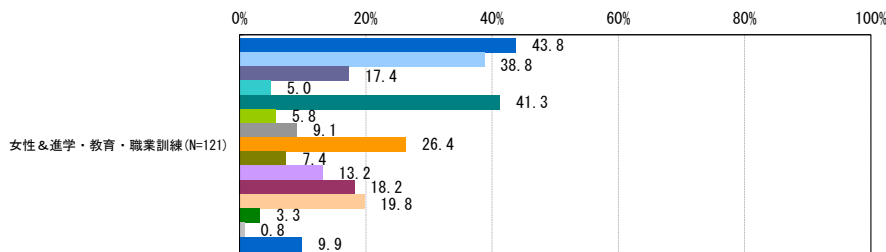
3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練_②地方への移動を妨げる要因

アンケート調査結果

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持っていない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(43.8%)が最も高く、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(41.3%)、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(38.8%)と続き、全体の傾向と同じく仕事関連のマイナス要素等が上位回答に挙がる。

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持っていない理由があればお答えください。[MA]



- 求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に不安があること
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること
- レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと
- 災害対策や治安に不安があること
- 移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること
- 移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと
- 同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと
- 家族・親族・友人・知人等の周囲からの引き留めを受けたこと
- その他
- 不安要素や阻害要因は特になし

FGI調査で抽出した生声

東京圏へのポジティブな想い

- 今のこの便利な生活をしてしまうと元に戻れない。地方にずっといればこの便利な生活は知らなくて一生を送れたと思うけど、一度来たらもう手放せない。Uber Eatsとか、家を出ればコンビニはすぐそばに絶対あるし、電車に乗ればどこにでも行けて、車は不要だし、店も夜遅くまでやっている。（A:あこがれ系、非関心層）
- 横浜に住んでいるところによると東京は子育て面で幼稚園から受験とかで大変そうだが、今のところ結婚予定もないし、美容院とかピアノの教室などはずっと同じところだし、友達も首都圏の方が多くなったので、なかなか離れる選択はできないかなと思う。（C:進学先・質、関心層）

地方への移住に関心が湧かない理由

- 結婚相手が地方転勤なら行く決心ができるけど、今は子供もいないし、何不自由なく暮らしているので、この状況で地方に行くことは考えてない。（A:あこがれ系、非関心層）
- 選択肢が狭まること。地方に住み始めた後に生活スタイルが変わり、親の介護とかがあったら、転職をしたくても探すのが格段に難しいと思う。それに子育てしていて、自分の子供が万が一アイドルになりたいとか、音楽大学に行きたいと言われたら、東京まで通わないといけなくなるので、それができなかったらと思うとかわいそうだなと思う。（E:進学先・質、関心層）

地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

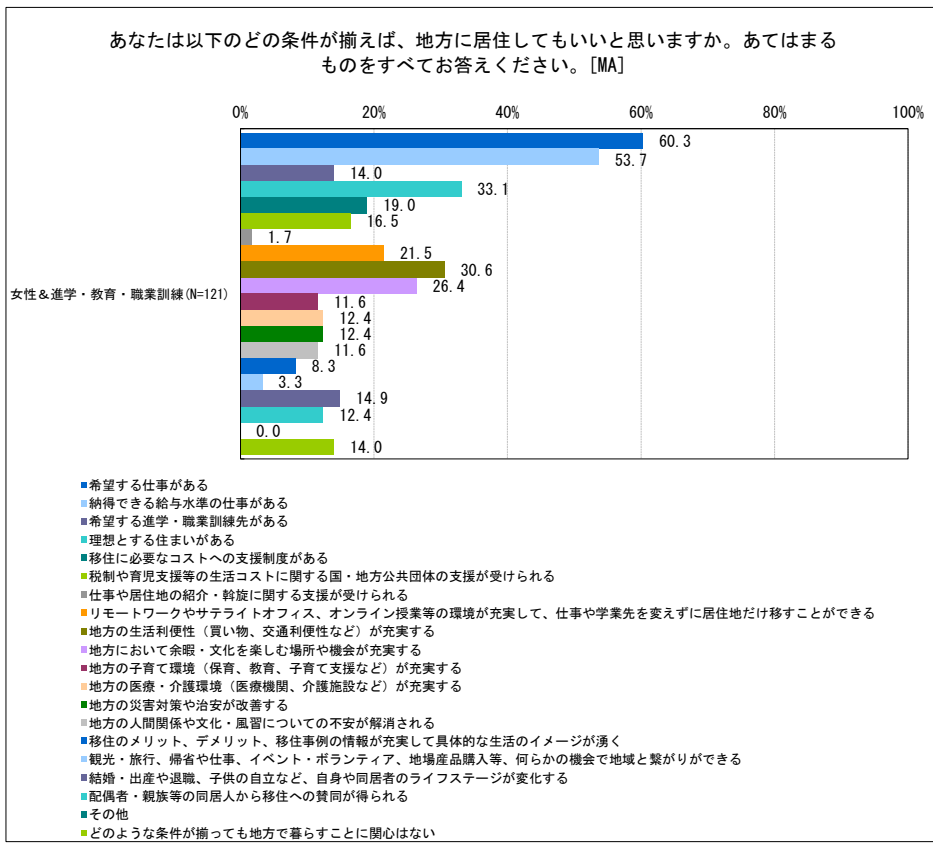
- また一から人間関係を作ることになり、今みたいに気心の知れた友人達と疎遠になるのは不安。逆に東京から大阪に行くと、東京もんが来た、気取ってるよねと言われたらしくて恐ろしいなと思った。地方のコミュニティがあって、そこに入るのは勇気がいる。（A:あこがれ系、非関心層）
- C:コミュニティが心配なのと、夫の転勤だったら、自分の仕事はどうしようかなと思う。地方なら専業主婦でいいのかわ、仕事をしたくてもいい仕事があるのかわ心配。（進学先・質、関心層）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.4 女性×進学・教育・職業訓練_③地方への移動に必要な条件

アンケート調査結果

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(60.3%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(53.7%)、「理想とする住まいがある」(33.1%)と続く。



FGI調査で抽出した生声

移住を検討するために必要な条件

- 東京大阪に引けを取らない地方なら問題ない。人の多さは仕事の多さにつながるの
で、人の多さ、アクセスの良さ、施設があってという感じ。（A:あこがれ系、非関心層）
- 田舎度（が高すぎないこと）。理想では長野市以上。岐阜などはダメ。上はどこでも
いい。施設数、新幹線がとまる、自宅とコンビニとか、自宅と都会とかにアクセスが良い
こと。（E:進学先・質、関心層）
- 天候の変化が得意ではないので、北陸、東北、北海道、ちょっと憧れはあるけど沖縄
と九州南部はないかな。個人的に中国四国、特に瀬戸内海側は気候もいいし、台風
の被害も少ない。（C:関心層、進学先・質）
- 全部の地方が東京と同じくらいならいいなと思う。東京と同じ電車の本数、店の多さ
なら。（B:非関心層、あこがれ系）

国・地方公共団体に求める具体的な支援策

- 移住者情報SNSがあったらいいかも。その地域限定の移住者。より詳しいことが知れる
ので、地域ごとにあったほうがいいと思う。（B:あこがれ系、非関心層）
- 東京じゃなくていいから、移住してきた人が多い地域があれば、入りやすいだろうと思
う。みんな気持ちがわかるし、昔からの繋がりがああるわけではないから...。（C:進学先・
質、関心層）

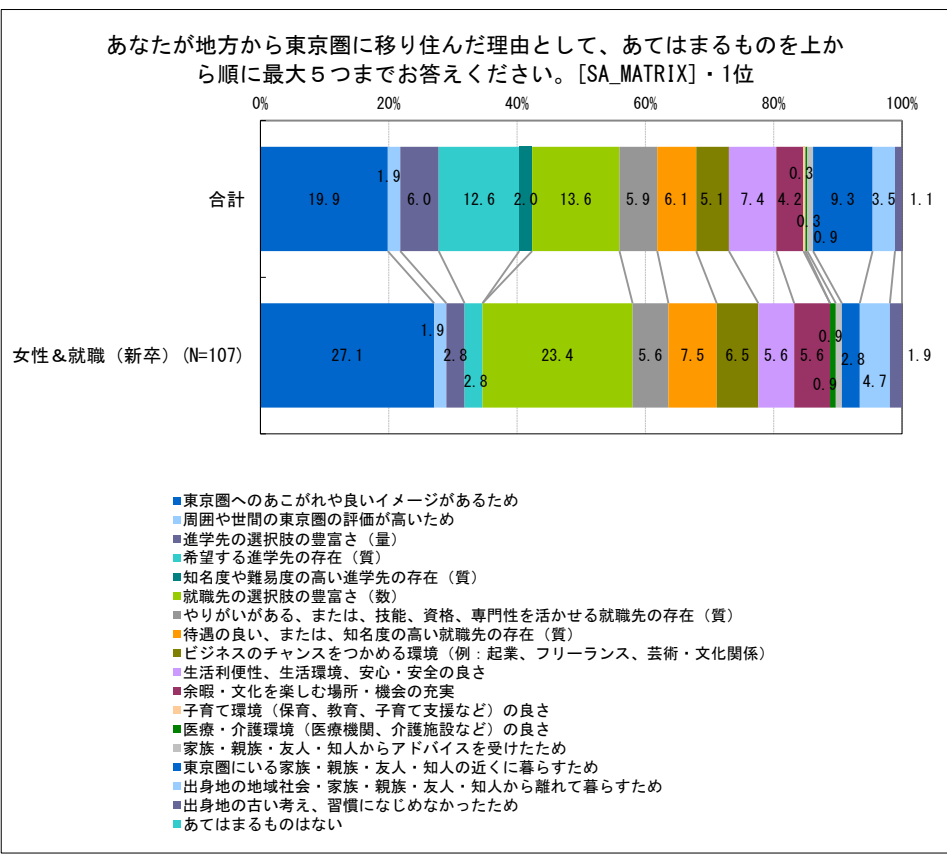
3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.5 女性×就職（新卒）

①東京圏に転入した理由

アンケート調査結果

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(27.1%)が最も高く、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(23.4%)、「待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）」(7.5%)と続く。



※全体標本（合計）は、東京圏転入者の単純集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

	A	B	C	D	E
年齢	30歳	30歳	25歳	24歳	26歳
未婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	専業主婦	正社員 医薬品製造業・研究	正社員 人材紹介サービス業・営業事務	正社員 保育園・看護師	正社員 鉄鋼業・一般事務
出身地	宮城県	長崎県	北海道	北海道	奈良県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実	生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ

FGI調査で抽出した生声

東京圏への転入を意識した理由

- [博士課程まで行って、それを活かせるメーカーの研究とかになると、東京圏に出て来るか、地方の研究所に行くかどうかだが、地元長崎県にはなかった。](#)（B:就職先・質）
- 1回親元を離れてみて、すごく離れて良かったなという面が多かった。（A:あこがれ系）
- [若いうちに東京で遊んでおきたい気持ちはもちろんあった。](#)（C:就職先・数）

東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

- 関西の会社もあったが、行きたい会社ではなかった。[川崎とか都会にある会社は割とグローバルなイメージ。](#)空港からも近いし、いろんな会社からのアクセスがいいというところで、広がっているイメージなのだが、長崎にある会社だとあまりグローバルじゃないからあまり行きたいと思わなかったかもしれない。（B:就職先・質）
- [優秀な人と一緒に働きたい。自分の経験を積むには東京に優秀な人が集まっているというイメージ。あとは大きい企業とか、グローバルな、企業的な地位が高い会社もやっぱり東京に集まっているイメージ。](#)うちは別に大きな会社ではないのだが、優秀な人が集まっている会社とは思っている。そういう基準になると、東京にしかない。（C:就職先・数）
- 仙台も東北の中では都会だと思っただが、それでも仙台以外の東北なんて田舎だし、仙台に近い関東でも、埼玉とか群馬とかは全く考えなかった。それよりも西に行くと、もっと時間がかかってしまうのかなと思った。（A:あこがれ系）

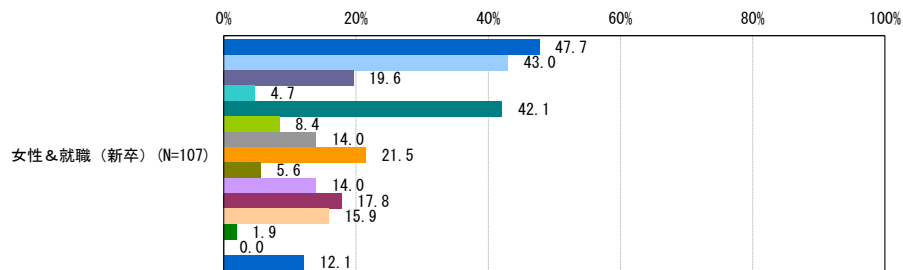
3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.5 女性×就職（新卒） ②地方への移動を妨げる要因

アンケート調査結果

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持っていない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(47.7%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(43.0%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(42.1%)と続く。

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持っていない理由があればお答えください。[MA]



- 求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
- 現在と比べ賃金が安くなってしまうこと
- 転居に必要なコストが大きいこと
- 住まいに関する情報が得にくいこと
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に不安があること
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること
- レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと
- 災害対策や治安に不安があること
- 移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること
- 移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと
- 同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと
- 家族・親族・友人・知人等の周囲からの引き留めを受けたこと
- その他
- 不安要素や阻害要因は特になし

FGI調査で抽出した生声

東京圏へのポジティブな想い

- 今まで田舎に住んでいたので交通手段がたくさんあるということと、遅くまでバスとか電車が通っているということで、結構夜遅くまで遊べるので満足。（B:就職先・質、非関心層）
- とにかく交通の利便性が高いところ。神奈川からは東京も近いし、全部陸続きでつながっている。関西圏にでも行けるというのがすごい。（D:余暇充実、非関心層）
- 交通手段があるので誰かに車に乗せてもらう必要がなくて、すごく便利。（E:利便性、関心層）
- 遊び場所の選択肢が明らかに多くて、新しいものだらけなので飽きない。まだまだ知らないところがあって面白いと思う。（C:就職先・数、非関心層）

地方への移住に関心が湧かない理由

- 単身ではわざわざ新しい仕事を見つけて、住むところを見つけ、コミュニティがないところに飛び込むということは大変なので、そこまでの労力はかけられない。（D:余暇充実、非関心層）
- 知らない土地に移住してそこで結婚相手を探したくない。向こうのテリトリーに無理やり入れられている感じがして、すごくイヤ。公平じゃないというか、向こうの家族問題とかに巻き込まれそう。西方知らない場所だったらいいのだが。（E:利便性、関心層）
- 資格として薬剤師の免許も持っているので仕事は最悪できないことはないと思っている。本当に何かあれば、移住は不可能ではない。でもパートナーとのバランスが将来的にどうなるか分からないので、きっかけがあれば。（B:就職先・質、非関心層）

地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

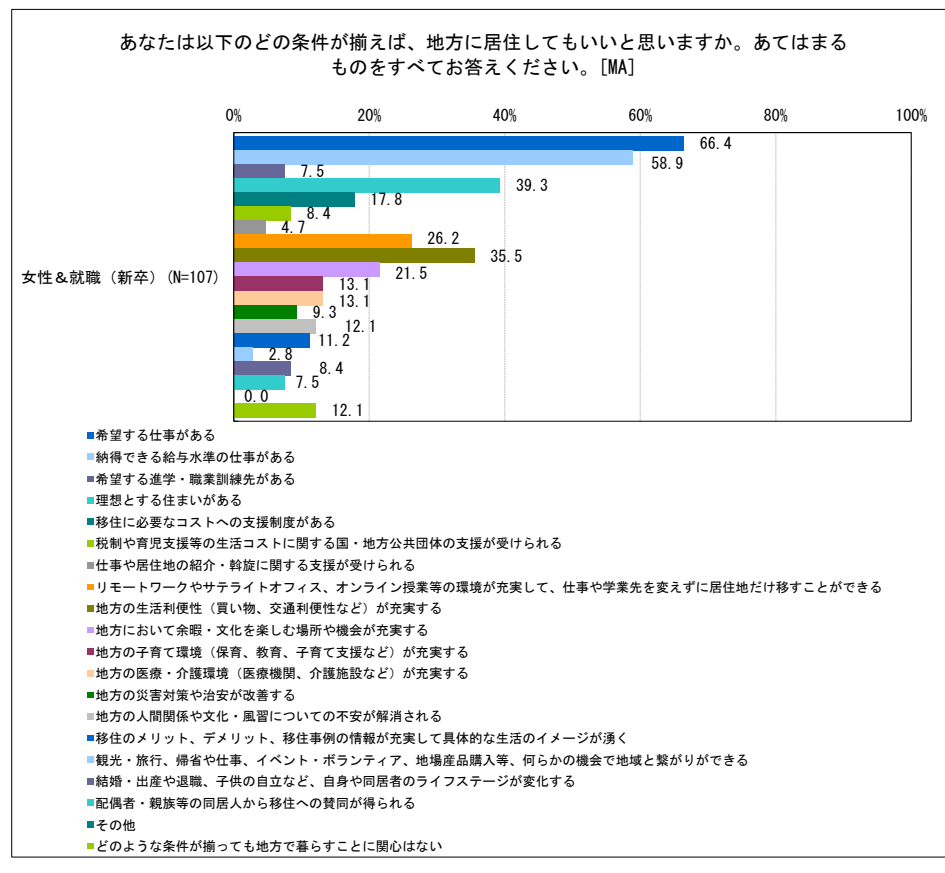
- つながりが強い。大体どこかへ行っただとしても誰かの知り合いしかいない。2人挟んだら大体知り合い。悪いこともできない。（B:就職先・質、非関心層）
- 買い物に行ったら誰かに会うとか、私はそれはイヤだと思っている。買った服は誰かと被るとか、すごくイヤだなと思っていた。（A:あこがれ系、非関心層）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.5 女性×就職（新卒） ③地方への移動に必要な条件

アンケート調査結果

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「希望する仕事がある」(66.4%)が最も高く、「納得できる給与水準の仕事がある」(58.9%)、「理想とする住まいがある」(39.3%)と続く。



FGI調査で抽出した生声

移住を検討するために必要な条件

- 今は自分の暮らしとかを1番に考えたい。家族とかにもしもがあれば分からないが、それ以外は全く考えていない。(C:就職先・数、非関心層)
- 心が折れたと思われたくないなと思うので、帰る理由が欲しい。出るときに、理由もなく無理やり出たので、何かを得て帰って来たということにしたいかなと思う。パートナーが、給料のいい仕事が帰った先でみつかったら帰るかな。(E:利便性)
- パートナーができて、就職先とか、どこかへ異動することになったら、場所にもよるのだが、ついて行こうという気持ちが出てきた。(D:余暇充実、非関心層)
- 自分の老後とか子供ができたときのことを考えると地元に戻って親に手伝ってもらったりするかもしれないが、まだそれもないので今は全く考えていない。(C:就職先・数、非関心層)

国・地方公共団体に求める具体的な支援策

- 引っ越し手当。そこが多分1番大きいかな。(C:就職先・数、非関心層)
- 子育て支援とか制度はあっても整っていないんだなと思った。そういうのが整っているところに住みたいなと思う。(A:あこがれ系、非関心層)
- 子育て支援もありがたいのだが、それを目当てに引っ越して来たんじゃないかと思われるのも…。別にありがたく使えばいいのだが、イーブンに扱って欲しい。こういうところに病院があつてとか、地域のことについて説明してくれるような冊子とか情報サイトはありがたいなと思うが、血税を削って何かをしてもらうのは何か違うかなと思う。(E:利便性、関心層)

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

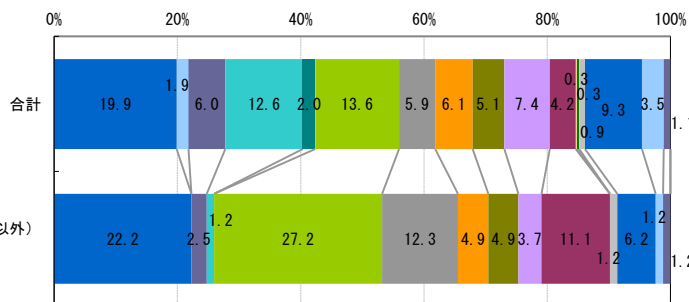
Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外）

①東京圏に転入した理由

アンケート調査結果

- 地方から東京圏に移り住んだ理由の1位回答としては、「就職先の選択肢の豊富さ（数）」(27.2%) が最も高く、「東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため」(22.2%)、「やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）」(12.3%)と続く。

あなたが地方から東京圏に移り住んだ理由として、あてはまるものを上から順に最大5つまでお答えください。[SA_MATRIX]・1位



- 東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため
- 周囲や世間の東京圏の評価が高いため
- 進学先の選択肢の豊富さ（量）
- 希望する進学先の存在（質）
- 知名度や難易度の高い進学先の存在（質）
- 就職先の選択肢の豊富さ（数）
- やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）
- 待遇の良い、または、知名度の高い就職先の存在（質）
- ビジネスのチャンスをつかめる環境（例：起業、フリーランス、芸術・文化関係）
- 生活利便性、生活環境、安心・安全の良さ
- 余暇・文化を楽しむ場所・機会の充実
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）の良さ
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）の良さ
- 家族・親族・友人・知人からアドバイスを受けたため
- 東京圏にいる家族・親族・友人・知人の近くに暮らすため
- 出身地の地域社会・家族・親族・友人・知人から離れて暮らすため
- 出身地の古い考え、習慣になじめなかったため
- あてはまるものはない

※全体標本（合計）は、東京圏転入者の単純集計（生まれよりの東京圏在住者は除外）

	A	B	C	D	E
年齢	27歳	29歳	30歳	27歳	35歳
未婚	既婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	契約社員 決済関連のサービス業・営業	派遣社員 福祉サービス業・保育士	正社員 機械製造業・設計	契約社員 旅行業・事務	正社員 ITサービス業・パッケージ導入
出身地	岩手県	茨城県	静岡県	北海道	奈良県
移住理由	東京圏へのあこがれや良いイメージがあるため	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）	就職先の選択肢の豊富さ（数）	やりがいがある、または、技能、資格、専門性を活かせる就職先の存在（質）

FGI調査で抽出した生声

東京圏への転入を意識した理由

- 転職をしようと思ったときに、LinkedInとかで **声をかけてもらった企業がたまたま東京だった**ので、また東京に出て来た。（E:スキルアップ）
- 全国どこでも良く探したのだが、**ペーパードライバーだったので、本当に田舎で車が必要**というところは避けて電車が通っているところというのでこちらに来た。（C:スキルアップ）
- 学生の頃から**旅行業界に入りたい**と思っていた。札幌でお金を貯めて、**職業訓練校を探したら、東京で「旅行科」**がすぐに出て来た。（D:就職先・数）
- 旅行が好きなのだが、**どこに行くにも東京が1番パスも飛行機も交通量がある**ので、そういう意味でアクセスがいいなと思って東京を選んだ。（A:あこがれ系）

東京圏への転入を決断した理由／他の地域に移住しなかった理由

- 岩手からだ**と帰省するときに東京の方が近い**ので、そういう面を考えると、東京が1番住みやすいかなと思った。（A:あこがれ系）
- 北海道なので西の方というか、関西はなんとなく怖いイメージがあった。西の方はあまり考えなかった。（D:就職先・数）
- 地方のホテルとかも受けていて最後まで迷って、やっぱり旅行会社で働いてみたいというのがあって、東京の旅行会社に決めた。（D:就職先・数）

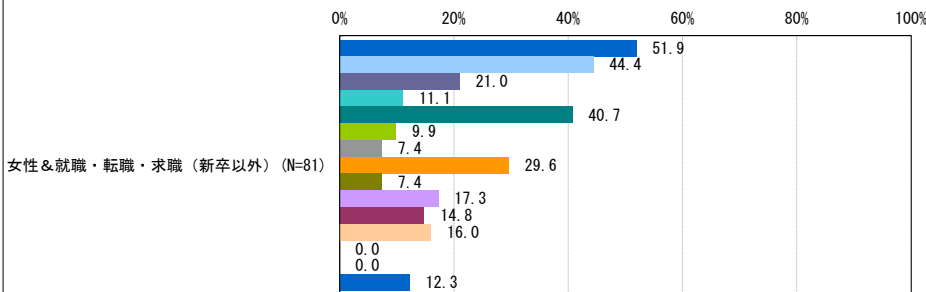
3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外）_②地方への移動を妨げる要因

アンケート調査結果

- 地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素、地方への移動に関心を持っていない理由としては、「求めている業種・職種の働き口が見つからないこと」(51.9%)が最も高く、「現在と比べ賃金が安くなってしまうこと」(44.4%)、「生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと」(40.7%)と続く。

地方へ移り住むことを妨げている理由や不安要素および、地方への移動に関心を持っていない理由があればお答えください。[MA]



- 求めている業種・職種の働き口が見つからないこと
- 現在と比べ賃金が安くなってしまうこと
- 転居に必要なコストが大きいこと
- 住まいに関する情報が得にくいこと
- 生活利便性（買い物、交通利便性など）が低いこと
- 子育て環境（保育、教育、子育て支援など）に不安があること
- 医療・介護環境（医療機関、介護施設など）に不安があること
- レジャー・娯楽・スポーツ・文化・芸術施設が少ないこと
- 災害対策や治安に不安があること
- 移住先の人間関係や文化・風習に関する不安があること
- 移住先での生活やライフプランが具体的にイメージできないこと
- 同居するパートナー・家族・親族の都合（仕事、介護等）で東京圏を離れにくいこと
- 家族・親族・友人・知人等の周囲からの引き留めを受けたこと
- その他
- 不安要素や阻害要因は特にない

FGI調査で抽出した生声

東京圏へのポジティブな想い

- 地元の茨城と比べると電車や交通のアクセスがいい。就職の職場が広がったり、買い物や趣味の場所が近くに行けたり。（B:就職先・数、関心層）
- 転職目的で東京に出て来て仕事の幅が広がり、好きな仕事に就けた。（D:就職先・数、関心層）

地方への移住に関心が湧かない理由

- 仕事がボチボチ楽しいのでまずは見届けたいなという気持ちがある。（C:スキルアップ、非関心層）
- 一人暮らしで、結構やりたいことができている。行きたいところへ行ったりしているので、そういう楽しさがなくなってしまうのかなと思う。（B:就職先・数、関心層）
- 今はまだ転職してこっちに来たばかりなので全然考えてはいない。（D:就職先・数、関心層）

地方移住に踏み切れない理由／移住に当たる不安要素

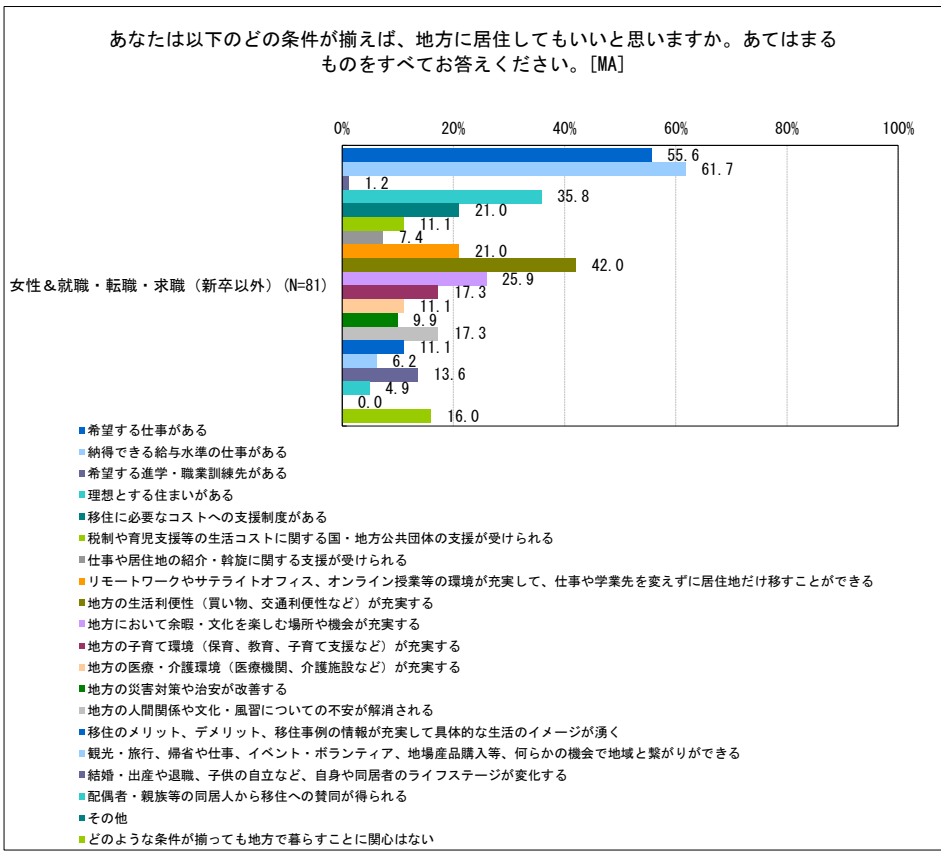
- 田舎だとスーパーが早く閉まるイメージなので生きて行けるだろうか、トイレトーパーとか買えるのだろうか、コンビニまで何時間とかだったらどうしようと思う。（C:スキルアップ、非関心層）
- 虫とか爬虫類とかが怖いなと思っている。地方とかに行くと、ヘビがいたらどう対処したらいいのかとか。（D:就職先・数、関心層）
- 友人との交流が減りそう。あまり車の運転が好きじゃない。地方だと車生活必須みたいなイメージがあるので、そこが不安かなと思っている。悪い噂もいい噂もすぐ広まる。そういう面では知らない地方に飛び込んで行くのは不安。（A:あこがれ系、非関心層）
- 好きな店は地方になかったりするイメージがある。（B:就職先・数、関心層）

3.2.東京圏在住者の意識調査_調査結果

Gr.6 女性×就職・転職・求職（新卒以外） ③地方への移動に必要な条件

アンケート調査結果

- 地方に居住しても良いと思う条件としては、「納得できる給与水準の仕事がある」(61.7%)が最も高く、「希望する仕事がある」(55.6%)、「地方の生活利便性（買い物、交通利便性など）が充実する」(42.0%)と続く。



FGI調査で抽出した生声

移住を検討するために必要な条件

- 会社が事務所をなくしてくれるのを待っているところがある。また転職をして地方というのは多分仕事を見つけるのが難しいと思う。会社の方針として、「特に東京圏に住んでいる必要もない」となれば、多分探し始めると思う。（E:スキルアップ、関心層）
- まだ全然力も付いていないので、夢物語なのだが、もしかすると起業するようなイメージ。 そうなると藤沢にいる必要はなくなるのかなと思う。（C:スキルアップ、非関心層）
- 今のところ、親の介護が必要になったときとか、将来的に結婚をして相手の家のこととか、勤務地のこととかがあれば、そういうきっかけがないと出ないかな。（B:就職先・数、関心層）
- 将来的に子供を授かったときとか、何かそういうきっかけがあれば可能性はゼロではないと思うのだが、今の段階ではほぼ地方には行きたくないという気持ちの方が強い。（A:あこがれ系、非関心層）

国・地方公共団体に求める具体的な支援策

- 転職フェアで鳥取のハローワークのブースがあった。住むプラス仕事を紹介しますというところだったのだが、「やりたい仕事はこういうものです」と言ったら「そういうのも多分あると思います」とHPのURLをもらった。そういうのはとてもいいなと思った。 お店とかもそうだし、趣味で何をしたいときはこういうところがあるよという紹介の情報はあった方がいいかなと思う。（D:就職先・数、関心層）
- 「1年間ここに住んで流れはこうでした」と経験談とかを話すようなYouTubeを見ている。 日々の生活を伝えているものとか、そういうものを見ていて面白いと思う。（B:就職先・数、関心層）
- 移住フェアは定住が前提になっているので、近づかないようにしている。 最終的に実家に帰るまでの間に住んでみたいところに住めたらいいと思う。どこか1つの地方を決めて、そこに移住して一生住もうという考えはない。（E:スキルアップ、関心層）

3.地方移住者（UJ／Iターン者）の意識調査

3.1.地方移住者（UJ／Iターン者）の意識調査_調査手法

地方移住者（UJ／Iターン者）の意識調査の目的、及びアンケート調査・FGI調査の実施手法

■ 調査目的

- 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に実施を予定する広報事業の実施を展望しつつ、実際に地方に移住したUJターン者の地方移住の各意思決定要因プロセスにおける「移住者の本質的な意見・インサイトの意見（感情の機微）」や行動実態を把握し、東京圏在住者に対して広報で打ち出すべきコンテンツへの示唆とすることを目的とした。具体的には、下記のような項目について調査した。
 - ① 地方移住に関心を持った理由/地方に抱いた気持ちやポジティブなイメージ（特に、「誘因カテゴリー※1」について、詳細な分析を実施。）
 - ② 地方移住に関心がある層が実際に移住を検討/決断した理由
 - ③ 移住に至るまでの実態（思考/行動/取得した情報等）等
 - ④ 移住後の生活に関する満足度・幸せな生活実態 等

■ 調査方法

□ インターネット・アンケート調査（2020年7月）

- サンプル設計/対象者条件
 - 現在の居住地が地方（東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県以外）。
 - 東京圏から地方に移住した経験がある（UJターンまたはIターン）。
 - 年齢が20～39歳。
 - 地方へ転出した年齢が18歳以降（複数回転出の場合は最後の転入が18歳以降）。
 - 地方への転出の時期が直近10年以内（複数回転出の場合は最後の転入が直近10年以内）。

		地方在住者 (UJターン者)		地方在住者 (Iターン者)		合計
		都道府県庁所在地	それ以外の市部+町村部	都道府県庁所在地	それ以外の市部+町村部	
1	20代 男性	94	100	55	69	318
2	20代 女性	103	101	72	71	347
3	30代 男性	107	106	70	69	352
4	30代 女性	103	107	71	68	349
	合計	407	414	268	277	1,366

□ FGI調査（フォーカス・グループ・インタビュー調査）（2020年8月）

- Gr.の区分方法、対象者抽出条件

Gr.	対象者区分					人数
	UJ区分	居住地	性別	婚姻状況	子供の有無	
Gr.1	UJターン者	都道府県庁所在地	男性		4名/G	
Gr.2			女性	未婚		
Gr.3		女性	既婚	子供あり2名 子供なし2名		
Gr.4		それ以外の市+町村	男性			
Gr.5			女性	未婚		子供なし
Gr.6			女性	既婚		子供あり2名 子供なし2名
Gr.7	Iターン者		都道府県庁所在地	男性		
Gr.8		都道府県庁所在地	女性			
Gr.9		それ以外の市+町村	男性			
Gr.10		それ以外の市+町村	女性			

※1 地方に関心を持つ/移住を検討するきっかけとなる地方の魅力の類型。詳細は次頁をご参照のこと。

3.1.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査手法

（ご参考）「誘因カテゴリー」に係る調査の背景・調査内容

- 内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局が今秋に広報戦略の一環として制作予定の「地方暮らしの魅力案内サイト（仮称）」では、移住者を地方暮らしに導いた複数の誘因カテゴリーを提示し、それぞれの誘因カテゴリーごとの「地方移住で幸せをつかんだ普通人」へのインタビューをメインコンテンツの一つとすることが予定されている。
- その実施に伴い、地方移住者_FGI調査では、下図に示す誘因カテゴリーを提示し、次のような項目について生の声を抽出した。
 - 「地方のどのような魅力（誘因カテゴリー）が地方に関心を持つ/移住を検討するきっかけとなったか」
 - 「UJ/Iターン者が移住後に実際に感じている魅力（誘因カテゴリー）は何か」

誘因カテゴリー10パターン（案）

自然も便利も両方欲しい！ 自然も便利もある 地方都市での暮らし	趣味に生きたい！ 地元ならではのアウトドア 趣味中心での暮らし	社会の役に立ちたい！ 仕事やボランティアを通して 地域に貢献する暮らし
自分の時間をもっと持ちたい！ ワークライフバランスの良い 職住近接の暮らし	やっぱり地元が好き！ 親や昔の友達の近く にいる暮らし	広くて快適な家に住みたい！ 自分好みの快適で 広い家での暮らし
安心して子育てがしたい！ 親子にやさしい環境での暮らし	何はともあれ自然が一番！ 自然がすぐ近くにある暮らし	歴史・文化を感じたい！ 街の趣きや情緒に触れる暮らし
	『あの人』についていきたい！ 都会では出会えない魅力的な生 き方をしている人の下で働く暮らし	

3.1.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査手法

（ご参考）アンケート調査の設問項目

■ インターネット・アンケート調査_設問票

調査票_設問項目

- SC1.あなたの性別をお答えください。（ひとつだけ）
- SC2.あなたの現在の満年齢をお答えください。（半角数値）
- SC3.あなたが現在お住まいの都道府県をお答えください。（ひとつだけ）
- SC4_1.あなたが現在お住まいの場所は、次のうちのどちらですか。（ひとつだけ）
- SC4_2.あなたが現在お住まいの市区町村名をご記入ください。
- SC5.あなたの現在のご職業をお答えください。（ひとつだけ）
- SC6.あなたの婚姻の有無をお答えください。（ひとつだけ）
- SC7.あなたの子供の有無をお答えください。（ひとつだけ）
- SC8.あなたの出身地（生まれてから18歳までの間で、最も長く暮らした地域）をお答えください。（ひとつだけ）
- SC9.あなたは地方から東京圏に移り住んだ経験はありますか。（ひとつだけ）
- SC12.あなたが、最後に地方から東京圏に移り住んだのは、どのくらいの年齢の時ですか。（ひとつだけ）
- SC.13あなたが、18歳以降で最後に地方から東京圏に移り住んだのはいつですか。（ひとつだけ）
- Q1.あなたが、ご自分で感じている生活全般の幸福度についてお答えください。
あなたの前に梯子（はしご）があるとします。
「あり得る最悪の人生」を梯子の0段目、「あり得る最高の人生」を梯子の10段目と考えた場合、あなたは今、はしごの何段目にいると思いますか。
0～10段でお答えください。（ひとつだけ）
- Q2.あなたの両親の出身地についてお答えください。（ひとつだけ）
- Q3.あなたのきょうだい（兄弟・姉妹）構成とあなたの位置付けについてお答えください。（ひとつだけ）
- Q16.あなたは東京圏から地方に移り住んで、地方での現在の生活に満足していますか。（ひとつだけ）
- Q17.あなたが東京圏から地方に移り住むことを最初に意識したきっかけについてお答えください。（ひとつだけ）
- Q18.あなたは地方に移り住むことを検討する際、地方のどのような暮らしに魅力を感じていましたか。最もあてはまるものをお答えください。（ひとつだけ）

調査票_設問項目

- Q19.あなたが東京圏から地方に移り住むことを検討した際の、移動に対する両親の意向についてお答えください。（ひとつだけ）
- Q20.あなたが東京圏から地方に移り住むために参考になった情報があればお答えください。（いくつでも）
- Q21.あなたが地方で暮らすための情報収集に使用していた手段は次のうちどれですか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q22.あなたは東京圏から地方に移り住む以前、現在の居住地とどのような関わり方をしていましたか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q23_1.あなたが地方に住むという「決断」をした際に、影響を与えた要素をすべてお答えください。（いくつでも）
- Q23_2.また、地方に住むという「決断」をする決め手となった最大のきっかけ・理由をご自由にご記入ください。（最大400文字以内）
- Q24.あなたが地方に移り住むことを決断した際に、実際に利用した国や地方公共団体の取り組みはありますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q25.あなたが実際に地方に移り住んで感じた魅力として、次のうち最もあてはまるものは何ですか。（ひとつだけ）
- Q26.あなたは東京圏から地方に移り住むことを計画する際に、どのような点に苦労しましたか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q27.あなたは地方での暮らしにどのような不満を感じていますか。あてはまるものをすべてお答えください。（いくつでも）
- Q28.あなたは地方で暮らすなかで、結婚や仕事等の女性の生き方に対する地域特有の価値観や偏見があると感じますか。（ひとつだけ）
- Q29.あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大の懸念を受けて、現在の居住地や暮らし方に対する考えはどのように変化しましたか。次のそれぞれについてお答えください。（それぞれひとつずつ）
「引き続き今の場所に住み続けたいと思うようになった」、「より郊外での生活も考えるようになった」、「リモートワーク、オンライン授業等をさらに進めたい・実施したいと感じるようになった」

- 本概要資料で分析の対象とする設問。
- 各設問の集計結果については、調査報告書をご参照のこと。

3.1.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査手法

（ご参考） FGI調査のインタビュー・フロー

■ FGI調査_インタビュー・フロー

1. ライフスタイル/転入等移住経験	2. 移住の意思決定要因と行動実態	3. 移住の阻害要因と克服方法	4. 移住後の生活に関する意識と移住喚起に向けたアドバイス
<p>【現在のライフスタイル】</p> <ul style="list-style-type: none">現在の1日の生活パターン <p>【生まれてから今までのライフヒストリー】</p> <ul style="list-style-type: none">出生以降の移住経験（UJターン者）東京圏移住までの経緯両親や兄弟はどこに住んでいるか、両親の出身地は？過去の居住地（東京圏）への想い・思い出	<p>【移住に至った理由】</p> <ul style="list-style-type: none">地方移住のきっかけ地方移住に関心を持った理由（東京圏への不満/地方の魅力等）地方移住を検討/計画し始めた理由地方移住を決断した理由移住を考える上で、子育て環境を意識したことはあったか（女性）両親の出身地と移住意向/きょうだい構成東京圏の災害リスクがあることが移住の意思決定に影響を与えたか <p>【地方移住の行動実態】</p> <ul style="list-style-type: none">移住決定までの情報収集活動移住決定までの移住先との関わり仕事・住居の具体的な決定方法	<p>【移住の阻害要因】</p> <ul style="list-style-type: none">地方での暮らしに感じていた不安要素地方移住時に苦労した点（移住手続き/情報収集等）地方での暮らしにおいて苦労した点子育て環境について苦労した点（女性） <p>【阻害要因の克服方法】</p> <ul style="list-style-type: none">国・地方公共団体の支援策の認知・活用状況国・地方公共団体に求める支援策・情報	<p>【地方暮らしの魅力】</p> <ul style="list-style-type: none">地方暮らしに対する満足度東京圏暮らしに対する満足度地方暮らしに感じた魅力※誘因カテゴリー10パターンを提示し選択後、具体的内容を抽出（次頁参照）今後もずっと地方で暮らしたいと考えるか <p>【移住喚起に向けたアドバイス】</p> <ul style="list-style-type: none">地方暮らしに興味を持った際にあたらよかったと思うコンテンツ移住に必要な条件移住検討者へのアドバイス・エール新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地域のリアクション・実態

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

アンケート調査におけるセグメント別の誘因カテゴリーの回答傾向分析_セグメント別の上位回答

対象者区分			誘因カテゴリー(%)				
UJ/Iターン区分	居住地区区分	性別	1位	2位	3位	4位	5位
UJターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(32.8)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(18.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(14.4)	地方ならではのアウトドア趣味中心で暮らし(10.4)	仕事やボランティアを通じて地域に貢献する暮らし(6.0)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(31.6)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(30.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(10.7)	親子にやさしい環境での暮らし(7.3)	地方ならではのアウトドア趣味中心で暮らし(6.3)
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(26.7)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(19.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(18.0)	地方ならではのアウトドア趣味中心で暮らし(9.2)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.8)
		女性	親や昔の友達の近くにいる暮らし(31.7)	自然も便利もある地方都市での暮らし(21.2)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(13.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(9.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.7)
Iターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(34.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(27.2)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.2)	街の趣きや情緒に触れる暮らし(6.4)	自分好みの快適で広い家での暮らし(5.6)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(37.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(12.6)	自然がすぐ近くにある暮らし(12.6)	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.4)	街の趣きや情緒に触れる暮らし(5.6)
	それ以外の市+町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(39.9)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(15.9)	地方ならではのアウトドア趣味中心で暮らし(8.0)※	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.0)※	自然がすぐ近くにある暮らし(6.5)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(29.5)	自然がすぐ近くにある暮らし(12.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(10.8)	親子にやさしい環境での暮らし(7.9)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(6.5)

※同率回答は選択肢番号が小さいものを上位に記載

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

アンケート調査におけるセグメント別の誘因カテゴリーの回答傾向分析_セグメント別の上位回答

（「趣味に生きたい」＝「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」＋「街の趣きや情緒に触れる暮らし」）

対象者区分			誘因カテゴリー(%)				
UJ/Iターン区分	居住地区分	性別	1位	2位	3位	4位	5位
UJターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(32.8)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(18.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(14.4)	「趣味に生きたい」カテゴリー(12.9)	仕事やボランティアを通じて地域に貢献する暮らし(6.0)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(31.6)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(30.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(10.7)	「趣味に生きたい」カテゴリー(7.3)※	親子にやさしい環境での暮らし(7.3)※
	それ以外の市＋町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(26.7)	親や昔の友達の近くにいる暮らし(19.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(18.0)	「趣味に生きたい」カテゴリー(13.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.8)
		女性	親や昔の友達の近くにいる暮らし(31.7)	自然も便利もある地方都市での暮らし(21.2)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(13.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(9.1)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.7)
Iターン者	都道府県庁所在地	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(34.4)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(27.2)	「趣味に生きたい」カテゴリー(10.4)	自然がすぐ近くにある暮らし(7.2)	自分好みの快適で広い家での暮らし(5.6)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(37.1)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(12.6)※	自然がすぐ近くにある暮らし(12.6)※	「趣味に生きたい」カテゴリー(8.4)※	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.4)※
	それ以外の市＋町村	男性	自然も便利もある地方都市での暮らし(39.9)	ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし(15.9)	「趣味に生きたい」カテゴリー(13.1)	自分好みの快適で広い家での暮らし(8.0)	自然がすぐ近くにある暮らし(6.5)
		女性	自然も便利もある地方都市での暮らし(29.5)	自然がすぐ近くにある暮らし(12.9)	自分好みの快適で広い家での暮らし(10.8)	親子にやさしい環境での暮らし(7.9)	「趣味に生きたい」カテゴリー(7.2)

※同率回答は選択肢番号が小さいものを上位に記載

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

誘因カテゴリーの傾向分析_UJターン×男性（Gr.1、Gr.4）

■ UJターン男性では、全体の傾向と同じく、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(29.7%)、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(18.9%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(16.2%)等が上位に挙がる。「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」(9.8%)は他セグメントと比べ高い。

- UJターン男性（都道府県庁所在地）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(32.8%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(18.4%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(14.4%)と続く。UJターン男性（その他市町村）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(26.7%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(19.4%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(18.0%)と続く。
- 地方移住者全体の傾向を1.00とした相対指数では、「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」（都道府県庁所在地：1.60、その他市町村：1.41）が高い。また、UJターン男性（都道府県庁所在地）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(1.11)が、UJターン男性（その他市町村）では、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(1.24)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(1.13)がそれぞれ高い。

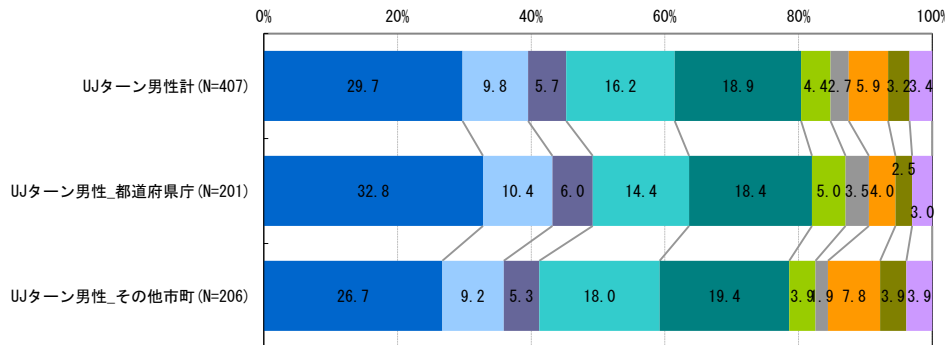
■ FGI調査においては、下記のような意見が挙がっている。

- （移住先である札幌市は）街が集約されてすごくコンパクトで、自然も近くにありつつ、家から街中まで自転車で15分あれば行ける。自然も便利も両方あるのが札幌。 (Gr.1_B)
- ワークライフバランスのライフが劇的に改善された。今は歩いて10-15分のところに勤めていて、博多の都市部に家を借りているが、東京に住んでいた家より安い。通勤が短くなった分資格取得の勉強、テレビを見るなどダラダラしたりぼーっとできる時間が増えた。寝る時間も単純に増えた。自分の中で余裕が生まれてくる感じがあった。(Gr.1_D)
- 地元愛はそんなに強くないが、親と近いことのありがたさはあるので、「やっぱり地元が好き！（親や昔の友達の近くにいる暮らし）」も気持ちに近いところがある。 (Gr.4_D)

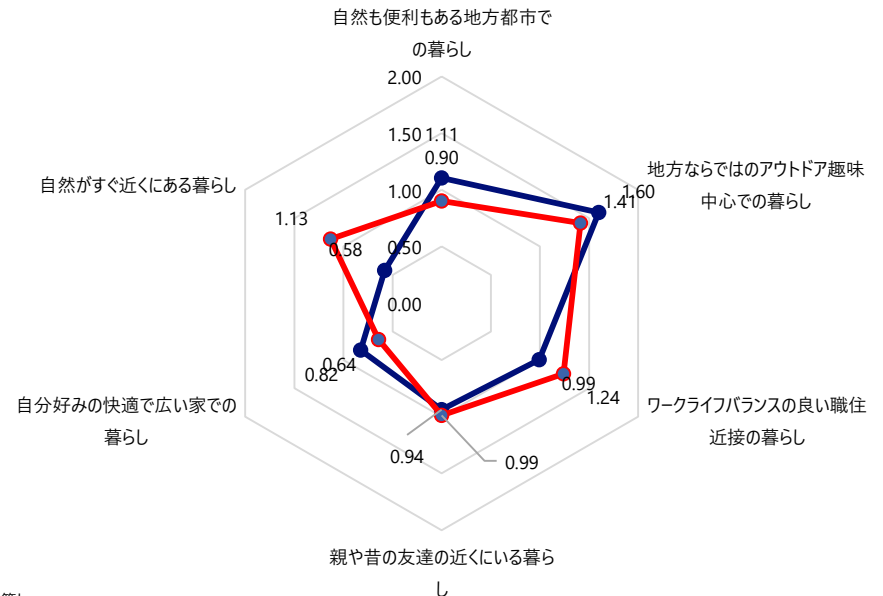
UJターン男性 都道府県庁所在地（青）+その他市町村（赤）

UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値=1.00とした回答率の相対指数

UJターン男性 都道府県庁所在地+その他市町村
100%棒グラフ



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他



※相対指数のレーダーチャートについては、「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」における回答率が5%超の選択肢について分析
 ※「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」は、既存統計より地方移住者全体における（東京圏からの）UJターン者：Iターン者の構成比を試算し、本調査の標本の回答率にウェイトバックして算出した。

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×男性（Gr.1、Gr.4）_①地方移住に関心を持ったきっかけ_FGI調査結果

	A	B	C	D
年齢	28歳	36歳	35歳	27歳
居住地	岩手県盛岡市	北海道札幌市	大阪府大阪市北区	福岡県福岡市博多区
未婚婚	未婚	既婚	既婚	未婚
本人職業	正社員 福祉業・介護士	正社員 地方自治体・一般事務	正社員 金融業・営業	正社員 情報処理業・システムエンジニア
親住所は実家と同じ市町村か	岩手県 Uターン	北海道 Iターン	大阪府 Iターン	長崎県 Iターン
移り住むことを意識したきっかけ	07.就職活動（新卒）	01.将来のライフプランを考えた	08.転職・求職活動（新卒以外）	01.将来のライフプランを考えた

UJターン×男性×都道府県庁所在地在住（Gr.1）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「地元が好き！」、盛岡の中心地にあつて自転車で10分も漕げば大きな商業施設に行ける利便性、コンパクトにまとまっていて便利な地元が住み慣れていることもあって好き。（A）
- 「自然も便利も両方欲しい！」、街が集約されてすごくコンパクトで、自然も近くにありつつ、家から街中まで自転車で15分あれば行ける。自然も便利も両方あるのが札幌。（B）
- 「自分の時間をもっと持ちたい！」、ワークライフバランスを充実させたかった。（C）
- 「自分の時間をもっと持ちたい！」、仕事重視で上京したが、実際住んでみて、やはりライフの充実があつてこそワークもメリハリ持てるんだなと気づくことができました。移住して自分の時間を持ったことで、仕事と遊びをうまく両立して両輪で楽しく生きることができている。そこが今充実している理由。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 東京は家もすごく高いので、相当稼いでいる人じゃないと快適な暮らしは難しいのかなとだんだん痛感してきた。災害リスクに関しては、スーパーで商品がなくなるとか電車が止まり帰宅者で道路が埋め尽くされるのを体験して、地震の被害ではなく生活に対する二次災害、三次災害がイヤだとすごく思った。帰るなら若いうちに帰った方がスマートな生活ができるし、リタイヤしてからは大変。子育ても東京は待機児童の問題もあるので、札幌でできるならいいかなと考えた。（B）
- 長時間働くのが当たり前で風土に疲れたのと、地価が高い東京で不動産を購入するのはなかなかしんどいと思った。30後半になってそろそろ住居を構えたいと思ったときに、東京を出るのもアリだなと思った。災害リスクは、住んでいた江戸川区が埋立地で海拔0メートルで直下型地震が来たら液化化するし津波も来ると言われていたので気にしていた。首都直下型地震が起きたら帰宅難民になるのだろうと思つたし、富士山の噴火もあつて、首都圏は災害のリスクがすごく多いと思つていた。（C）

地方への移住を決定した理由（背中を押した要因）

- 一押しというのはなかったが、同じように前の職場を転職した同期に相談し、経済面で天秤にかけてもやっつけそうと判断して転職を決めた。（C）
- 背中を押したのは自分の中で一番大事な家族やパートナーで、自分が思っている以上に明るく「大丈夫」と言ってくれたことがきっかけになった。ちょっと仕事や遊びが少なくなつても、家族やパートナーと楽しく過ごせる時間があつた方がいいと思つた。（D）

	A	B	C	D
年齢	38歳	24歳	27歳	34歳
居住地	岐阜県大垣市	長野県須坂市	山口県府中市	大阪府羽曳野市
未婚婚	既婚	未婚	既婚	未婚
本人職業	正職員 地方自治体・事務	正社員 情報通信業・営業	正社員 運輸サービス業・営業	自営業 フリーライター
親住所は実家と同じ市町村か	岐阜県 Iターン	長野県 Iターン	広島県 Iターン	大阪府 Uターン
移り住むことを意識したきっかけ	01.将来のライフプランを考えた	07.就職活動（新卒）	07.就職活動（新卒）	01.将来のライフプランを考えた

UJターン×男性×その他市町村在住（Gr.4）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「自分の時間をもっと持ちたい！」、今回は仕事の面で考え始めたので、その結果、ワークライフバランスが良くなったわけではないが、仕事のあり方みたいなものを変えられたのは一番大きい。（A）
- 「自然も便利も両方欲しい！」。「やっぱり地元が好き！」もあるが、利便性を考えて住む場所を決めたので、一番近いのは「自然も便利も両方欲しい！」。（B）
- 「やっぱり地元が好き！」に近い。友達がいるし、慣れた場所でもあるから。（C）
- 「自分の時間をもっと持ちたい！」。地元愛はそんなに強くないが、親と近いことのありがたさはあるので、「やっぱり地元が好き！」も気持ちに近いところがある。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 大学を卒業したら広島に戻ろうと前から決めていた。老人になってもずっと東京にいることはあまり考えられなかったというのがある。東京は東京でストレスがありそう。人が多いし、満員電車も大変。（C）
- 地元に残っている友達が多くて、休みができればすぐに飲みにも遊びにも行けることが大きかった。大学にも友達はいるが、大学の友達も実家に戻っている人がいて、東京にいても会えるという感覚はなかったので、自分も地元に戻ってきたという感じ。大学の友達は就職したらバラバラになったが、地元の友達とは幼稚園の頃から付き合いがある人もあるので長い。一生の友達という感覚でもないが、この先もたぶん付き合っていくのではないかなと思う。（B）

地方への移住を決定した理由（背中を押した要因）

- 東京を離れるというよりも転職しようかなという思いが先。今後、仕事面でどンドン居づらくなってくるのではないかなと思ひ、転職しようと思つた。今後のことを考えると東京に住み続けても、老後のことや、どこに住むとか、家が建てられるのかなど、未来が見えてこなかったの、思い切って転職と地元に戻るのを一緒にやろうと思つた。（A）
- いずれは親の面倒を見ようと思つたら、東京と地元は遠いので、近くにいた方がいいと思ひ、地元で就職活動をした。（C）
- 進学も視野に入れて勉強を続けるつもりだったが、よく相談に乗ってもらっていた教授から「進路をどうするか、一度考えろ」と言われて、一旦は実家に帰って考える時間を取る形に戻つた。（D）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×男性（Gr.1、Gr.4） __②地方暮らしの満足度とその理由_FGI調査結果

UJターン×男性×都道府県庁所在地在住（Gr.1）

地方暮らしの満足点

- 物価が安いし、去年家を買ったのだが価格は東京より全然安い。人混みも全然ない。（B）
- ワークライフバランスのライフが劇的に改善された。今は歩いて10-15分のところに勤めていて、博多の都市部に家を借りているが、東京に住んでいた家より安い。通勤が短くなった分資格取得の勉強、テレビを見るなどダラダラしたりぼーっとできる時間が増えた。寝る時間も単純に増えた。自分の中で余裕が生まれてくる感じがあった。（D）

地方暮らしの不満点

- 東京と比べると人との出会いやチャンス、あと歴史が全然ない。（B）
- 東京は仕事の面で同僚も優秀な人が集まってくるので、すごく刺激を受けていた。（D）

今後の居住意向／市町村部への移住意向

- （より郊外部は）仕事の選択肢も少ないし、芸能人のライブ、買い物環境、予備校など子供の学習環境を考えても札幌が一番。道内でも札幌以外にはいい店がほとんどない。映画が好きなのだが、映画館もないぐらい。日高とかの田舎だったら、妻について行かなかったと言われた。（B）
- 福岡だったら選んでいたかもしれない（大阪市に移住）。妻が福岡出身で自分も8年間住んでいたの、福岡で転職するのは今でもアリ。ただ住んだことのない町だったらあまり進んで行くとは思わない。基盤がないので、馴染めるかわからない。（C）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化 東京圏への移住意向がない点に変化はない。

UJターン×男性×その他市町村在住（Gr.4）

地方暮らしの満足点

- 東京のような満員電車はないし、スーパーやCD/DVDのレンタルショップなど、生活に必要なお店は全部揃っている。あとは温泉が好きなので温泉地があるし、有名スポットもあるので、それはそれでいい。（C）
- 自分が大阪に戻ってからは近場にスーパーなどが次々建って、買い物がしやすくなった。大阪の中でもわりと郊外に住んでいるが、急に田んぼを潰して大型スーパーが建ち、買い物がしやすくなったことで行きやすくなったり安い食料品が買やすくなったりして、店に行くのが楽しくなった。（D）

地方暮らしの不満点

- 東京圏では動物園や博物館によく行っていたが、どこかに行くことに関しては何もなくなってしまった。（A）
- 映画が好きだが、映画館まで行くのに時間がかかるので不便だと感じる。（D）
- 田舎は遊びに行くところのバリエーションがない。（C）
- 今の職場はほとんど地元の人しか就職しないところなので、今の職場に来た当初はよそよそしさを感じた。違うところから来たというようなよそよそしさ、話しづらさを感じた。（A）

今後の居住意向／市町村部への移住意向

- 広島県はそれでもまだ、電車などの交通網があり、街もあるが、欲を言えばもっと都会の方がいいと思う。（C）
- 一人暮らしを続けたいので、実家には戻っていない。車で1時間ぐらいなので、たまに帰るぐらいがちょうどいいと思う。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

- コロナが流行ったことでより東京に行きたくないと思うようになった。この状況が続くなら遊びに行くのもためらうぐらい。（A）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×男性（Gr.1、Gr.4） __ ③移住喚起に向けたアドバイス_FGI調査結果

UJターン×男性×都道府県庁所在地在住（Gr.1）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 地元が好きなら来て暮らしてみたらいいんじゃない？と言いたい。（A）
- 地方移住や転職を考えているのであれば、心がそっちを向いているのだと思うので始めどきだと思う。実際に自分がそうで、そう思っているときに妻と出会ってトントン拍子に話が進んだ。最後の一押しは仕事が大きく、こっちでの仕事が決まって、妻も「それだったら安心して移住と転職ができるね」と言ってくれたので来られた。とにかく考え始めたら準備をした方がいいと思う。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

- （移住を控えてほしいという雰囲気）岩手はある。関東圏の人はコロナを持っているんじゃないかという偏見を感じる。（A）
- 地元（北海道の日高）はそんな雰囲気でもないが、東京に住む弟は帰省して60歳過ぎの父親に無症状でうつしたらイヤだということで自分から帰省をやめていた。移住するのは全然ウェルカムだと思う。（B）
- 去年の8月に福岡に来たが、正直言うと早いうちに移住して良かったと思う。ただ博多ではもう流行ってしまっているので、現状特段差別するというのはない。地方に行くと高齢者が増えるので、田舎に行くほど「来ないで」というのは多いのではないかと思います。（D）

UJターン×男性×その他市町村在住（Gr.4）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 地方で暮らせば慣れていくので、重く考えずにいてもいいのではないかと思います。田舎暮らしは人付き合いが面倒くさいと言われるが、断ろうと思えば断られる。重く考えず、自分のやりたい仕事があれば移住して生活してもいいと思う。（B）
- 地域で溶け込めるかなど、不安を考え始めると次々出てくるので、どこでも暮らせるという自信を持って移住すればどこでも暮らせると思う。（D）
- 人が少なくてのびのびできるし、土地も安いので、ぜひ来ていただけたらと思う。移住者に対して税を優遇するなど、いろいろな施策をやっているので調べてもらいたいと思う。（A）
- なるべく交通網の便利なところで過ごした方がいいと思う。（C）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

- 営業で各家庭を回っているが、東京から引っ越して来た人に対しては会社の中で注意した方がいいぞと言われるし、前に走っている車が県外ナンバーだったが、わざわざシールで長野県在住と貼っていた。個人的にはそんなに気にならないが、息苦しさを感じているのだろうなと思った。（B）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

誘因カテゴリーの傾向分析_UJターン×女性（Gr.2、Gr.3、Gr.5、Gr.6）

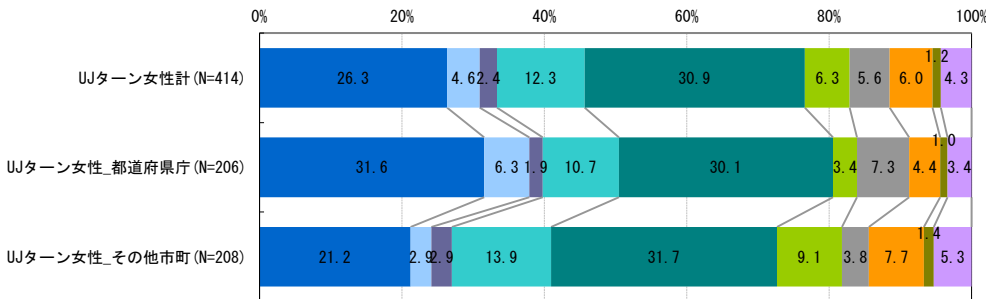
■ UJターン女性では、全体の傾向と同じく、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(26.3%)、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(30.9%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(12.3%)等が上位に挙がる。とりわけ、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(30.9%)は他セグメントと比べ顕著に高い。

- UJターン女性（都道府県庁所在地）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(31.6%)が最も高く、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(30.1%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(10.7%)と続く。UJターン女性（その他市町村）では、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(31.7%)が最も高く、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(21.2%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(13.9%)と続く。
- 地方移住者全体の傾向を1.00とした相対指数では、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」（都道府県庁所在地：1.53、その他市町村：1.61）が顕著に高い。また、UJターン女性（その他市町村）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」（0.71）や「地方ならではのアウトドア趣味中心の暮らし」（0.45）が低く、「自分好みの快適で広い家での暮らし」（1.50）が高い。

■ FGI調査においては、下記のような意見が挙がっている。

- 話し方や間合い、雰囲気、耳から入ってくる感じが違う。慣れ親しんだ地元という感覚。住んでみて、大阪、京都にしかないものが多いと感じた。関西に帰ると、古いものが多いので、その古さが自分には性に合っていると思い関西への転勤を希望した。(Gr.2_D)
- 一番強いのは家。東京で住んでいた家は1Kで、コンロが1口しかなく、調理台もなかったため、後ろにある洗濯機の上になな板を置いて料理をしていた。その生活に耐えられなくて、今の家はキッチンを重視して決め、4～5倍ぐらいの広さになった。(Gr.2_C)
- 「やっぱり地元が好き！」の「親や昔の地元の友達の近くにいる暮らし」というのが大きなきっかけになった。(Gr.6_B)

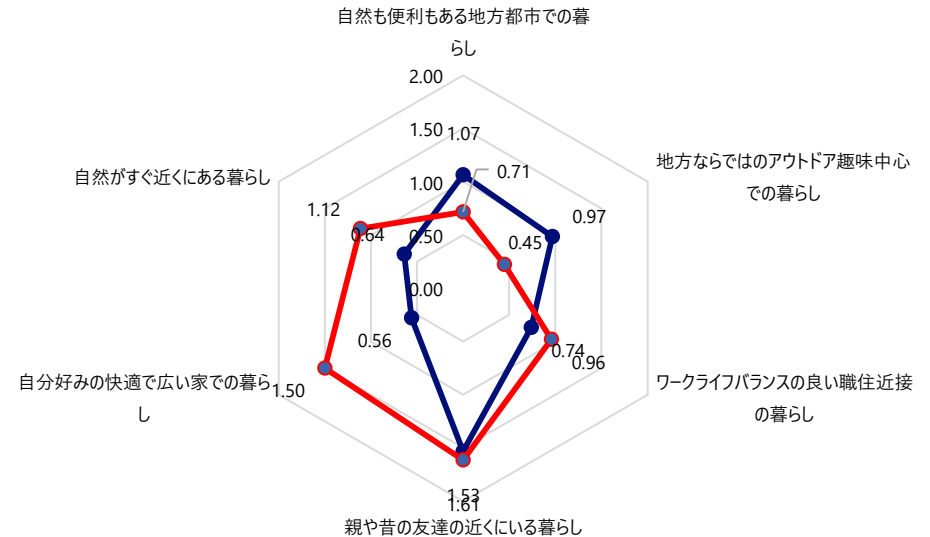
UJターン女性 都道府県庁所在地+その他市町村
100%棒グラフ



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

UJターン女性 都道府県庁所在地（青）+その他市町村（赤）

UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値=1.00とした回答率の相対指数



※相対指数のレーダーチャートについては、「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」における回答率が5%超の選択肢について分析

※「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」は、既存統計より地方移住者全体における（東京圏からの）UJターン者：Iターン者の構成比を試算し、本調査の標本の回答率にウェイトバックして算出した。

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×女性（未婚）（Gr.2、Gr.5）_①地方移住に関心を持ったきっかけ_FGI調査結果

	A	B	C	D
年齢	37歳	33歳	25歳	34歳
居住地	愛知県名古屋	奈良県奈良市	北海道札幌市	大阪府大阪市淀川区
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 内装業・技術職	正社員 ITソフトウェア・エンジニア	パート ITサービス・テスター	正社員 旅行業・企画販売
現住所は実家と同じ市町村か	愛知県 Uターン	奈良県 Uターン	北海道 Uターン	京都府 Uターン
移り住むことを意識したきっかけ	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	03.旅行

	A	B	C	D
年齢	28歳	33歳	30歳	32歳
居住地	福島県会津美里町	熊本県玉名郡南関町	大阪府吹田市	福岡県福津市
未婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 農業関係の団体職員・事務、営業	自由業 音楽・ピアニスト	正社員 金融業・営業	正職員 教育関係・大学教員
現住所は実家と同じ市町村か	福島県 Uターン	熊本県 Uターン	石川県 Uターン	栃木県 Uターン
移り住むことを意識したきっかけ	07.就職活動（新卒）	05.帰省	01.将来のライフプランを考えた	07.就職活動（新卒）

UJターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住（Gr.2）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「やっぱり地元が好き！」、仕事に疲れ、実家に戻る一択でしか考えていなかったから。（A）
- 「自然も便利も両方欲しい！」、ネットがしっかり通っているところという意味での良さ。（B）
- 「広く快適な家に住みたい！」、「やっぱり地元が好き！」、「自然も便利も両方欲しい！」の3つを選択。一番強いのは家。東京で住んでいた家は1Kで、コンロが1口しかなく、調理台もなかった。後ろにある洗濯機の上になんか板を置いて料理していた。その生活に耐えられなくて、今は家はキッチンを重視して決め、4〜5倍ぐらいの広さになった。（C）
- 「自然も便利も両方欲しい！」、「やっぱり地元が好き！」、「歴史・文化を感じたい！」の3つを選択。話方や間合い、雰囲気、耳から入ってくる感じが違う。慣れ親しんだ地元という感覚。住んでみて、大阪、京都にしかないものが多いと感じた。関西に帰ると、古いものが多いので、その古さが自分には性に合っていると思いい関西への転勤を希望した。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 地元は田舎だし、札幌もそこまで人がいないので、あそこまで過密した場所に行くのは人生で初めてで、毎日やっていたら耐えられなかった。仕事で疲れて適量ご飯を食べることも多かったし、人に揉まれ、仕事に揉まれて、1人でポツンと暮らすのは楽しいのかな？と帰省したときに思い、それなら一人暮らしでも美味しいものが食べられる地元で楽しく暮らした方がいいかも、帰りたいかもという気持ちになった。（C）
- 東京は大きいビルがすぐにできるが、どの駅にもあるようなお店しか入っていないし、開拓しようという気にもならなかった。プライベートも最初は良かったが段々飽きてきた。新しいものは1回行けば満足する。災害リスクとしては地震が多いし電車もすぐ止まるので何かあったときに止まったら辛いし、人が多いので自分である程度の予備が必要と思って防災バッグを買って備えていたが怖かった。東京を離れる決定的な理由ではないが、数%ぐらいそういう気持ちがあった。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

- 1年で辞めるのはどうかと感じて我慢しようと思ったが、やはり無理だった。何かきっかけで爆発したわけではなく、関西でも仕事があるし、通勤に2時間もかけたくはない。大阪市内に出れば仕事は結構ある。仕事を見つけてから奈良に戻った。（B）
- 関西に限られた日数だけ帰ったとき大阪に買い物に行ったり、神戸や奈良、和歌山に行ったりする中で、やはり自分には関西が合っていると思った。その頃には会社の事業も後退していたので、人員を減らすとなったときに「自分を出たい」と言って出させてもらった。（D）

UJターン×女性（未婚）×その他市町村在住（Gr.5）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「広く快適な家に住みたい！」、「自分の時間をもっと持ちたい！」、仕事場までの移動時間は15分ぐらいで近いし、自分の家で好きなことをして、帰ってからの時間もたくさんあるから。（A）
- 「社会の役に立ちたい！」、（ピアニストとして）社会の役に立つことは東京圏よりも地元の方ができると思う。人とのつながりは東京よりも強い気がする。（B）
- 「自分の時間をもっと持ちたい！」、勤務先と住んでいるところをなるべく近くして、ワークライフバランスを保ちたいと思った。（C）
- 「『あの人』についていきたい！」、あの人というよりは、やりたい仕事をやりたい。地方にやりたい仕事（大学のポスト）があったから地方に戻ったという感じ。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 仕事で悩んでいると、大阪はすぐ「どうした？何に困っているの？」とザ・関西人みたいな人が現れるが、東京の会社は全然助けてもらえない。異動してすぐに関西圏に戻りたいと思った。（C）
- 都会だと通勤の満員電車がキツイと思ったので、地元がいいかなと思っていた。毎朝通勤電車に乗っていくのはツライと思った。（A）
- 神奈川がすごくイヤだったわけではない、それなりに楽しく生活していたので、プライベートはそのまま良かったが、福岡時代の大学の恩師に「空気が出たから」と言われた。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

- 就職活動中に体調を崩してしまい、こういうときに知っている人が近くにいる方が良かったので、地元に戻って就職活動をした。（A）
- 安定した生活ができる場所で両親もいるので、おそらく地元（熊本）に帰ることしか考えていなかったと思う。（B）
- 辞めてもう1回大阪で仕事を探そうかと思ったが、会社から職種を変えるという提案があり、確かに制度としてはもともとあったので、面接を受けて合格した。（C）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×女性（未婚）（Gr.2、Gr.5） __②地方暮らしの満足度とその理由_FGI調査結果

UJターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住（Gr.2）

地方暮らしの満足点

- 満足しているのは利便性の部分。家の立地条件がいいので、主要な駅に出やすい。歩いて数分のところに飲食店もスーパーも図書館もあるので便利。適度な人の多さと、今住んでいるところは車で少し走れば自然があるから。（A）
- 住みやすい。東京にいた時よりも好条件だが家賃は1万円以上安くなった。通勤や買い物は便利だし、実家にも何かあればすぐ行ける。ちょっとした商店街があり、ゴチャゴチャしてなくて、都心にも出られる。仕事面でも本社は顔色を窺っている印象だが、支社ならある程度は自分たちで決めていけるので、気楽な雰囲気がある。（D）

地方暮らしの不満点

- 周りにゆっくりお茶ができるカフェがあると良かった。今は昭和の喫茶店みたいなお店しかない。おしゃれでなくていいので、ゆっくり静かに、少し小綺麗なところでお茶ができればいいが、今は住宅地というもあり、そういうお店がない。（D）
- 今の生活に不満はないが、1回は山奥に住んでみたいという憧れがあるから、それがマイナス。木をゆっくり見たり、フカフカの土を踏んで歩いたり、道に生えているものを取って食べてみたり、焚き火を焚いてみたい。ただ、仕事ができないと生活できないかもしれないので、そこまでの勇気が出ない。永住は70～80歳になったら厳しいと思うので、今のうちに早く移住して、体が無理になった時点で都心に戻るしかないのかなと思っている。（A）

今後の居住意向／市町村部への移住意向

- 北海道に限って言うなら札幌がいい。正直なところ、札幌以外はどの街も田舎だから札幌以外は無理だと思った。仕事がないし、土地勘もないし、親戚がいるわけでもない。それなら札幌の方がよく行っているし、大学も札幌でよく行っていたので、住みやすさ的にも札幌を選んだ。（C）
- 基本的に人混みはイヤなので、地方で働きたい。ただし、ネットが繋がるところ。私の仕事はネットがかりうじて繋がるぐらいの僻地に行ってしまうと致命的。ITも仕事のやり方がだいぶ変わってきて、クラウドありきになってきているし、落とすデータが100ギガというのが普通にあるので、細い回線では死ぬ。リモートの環境さえ整っていれば、利便性が多少下がったとしても、もう少し田舎や別の県に移住してもいい。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

- 咳や喘息を持っているので、肺炎になったらダメだろうなという恐怖心がある。東京は好きな街ではあるが、気軽に遊びに行ける街ではなくなったかなという印象はある。（C）

UJターン×女性（未婚）×その他市町村在住（Gr.5）

地方暮らしの満足点

- 水や空気という点では熊本は10点をあげたい。熊本の99%は地下水でホテルの水も飲める水。（B）
- 一番は人と友達が多いこと。同じ家賃でも住みやすいところに住めるので、会社以外のプライベートの時間がとても楽しい。（C）
- 物価の安さ。洋服は都会と変わらないが、食べ物は今のほうが安い。（D）
- 実家に暮らしているというもあるが、家事をやらなくてもいいこと。（A）

地方暮らしの不満点

- 刺激や文化的なことの水準の高さは明らかに東京が高い。もっと人を呼べるようなアクティビティというか、活気のある街・地域だったらいいと思う。（B）
- 東京に住んでいた頃は一切運転をしていなかったが、3月末に移動して、いきなり4月1日から運転することになり、車がないと生きていけないんだと痛感させられた。周りから福岡は私鉄やバスが多いと聞いていたが、本数が少ない。職場以外にもいろいろなところに行くので、そうすると車があった方が便利だと思いつつも、自分で運転しなければいけないとか、維持費がかかるので、そこで満足度が上がらなかった。（D）

今後の居住意向／市町村部への移住意向

- どれぐらい、どこでオファーがあるかによるので、それによっては違うところに移住するかもしれない。関西での仕事のオファーが多くなれば移るかもしれない。今九州でやっていることよりも他の地域での仕事が増えたら、そちらに移動することになると思う。（B）
- 今後、東京圏でポストがあれば異動するかもしれない。（D）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

- コロナが流行ったときは東京が最初に影響を受けた。人が密集していないところで、比較的自分のペースで生活できるところが地方暮らしのいいところかなと思う。東京は地震が頻発しているみたいだし、私が住んでいたのも東日本大震災前後だったので、災害のリスクは少し心配している。（D）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×女性（未婚）（Gr.2、Gr.5）_③移住喚起に向けたアドバイス_FGI調査結果

UJターン×女性（未婚）×都道府県庁所在地在住（Gr.2）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 住んだらなんとかなるという感じ。北海道は雪があるが、最近あまり降らないので、意外と悪くないと言いたい。免許は持っているが運転はできない状態でも生活はできているので、車社会はそんなに気にしなくてもいいと思う。海鮮は安くておいしい。都会に疲れた人の札幌移住はいい感じに自然が多いから合っていると思う。（C）
- 最低限の生活ができる仕事があるかどうかを調べてから来た方がいいと言いたい。今の時代ならオンラインで相談もできるはず。自分でネットを使って下調べをしつつ、いろいろな移住相談を活用した方がいい。自給自足にも限界があるので、自分で生きていけるように。私は移住相談などは利用していない。市役所に行けばあったのかもしれないが、行かないと思う。役所は対応が柔軟ではないし、オンライン相談なんて以ての外。ただ、今ならコロナが後押ししてできるかもしれない。実際に会うべき段階もあるだろうが、まずはオンラインでという方が移動時間の無駄がない。オンラインで話してみても、信用できるかどうかを見た上で現地に行く。3ステップあるうちの最初がオンライン相談。文書で質問できるものはメールでもいい。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

- 移住してこないでほしいという雰囲気はない。自分自身としても特に気にならない。（A）
- どこにいてもというのはあるが、観光地は不安が多い。それこそ海外のお客さんが戻ってくると怖い。この前、車で走っていたら足立ナンバーだったので、「足立や」と思った。ナンバーの下に「私は京都府民です」というステッカーを貼っていたので、お互いが大変だなと感じた。結構シビアで、わざわざ京都在住と貼って走っているの、かわいそうだなと思った。（D）

UJターン×女性（未婚）×その他市町村在住（Gr.5）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 住居近くに会社があれば、その分、時間が節約できるので、好きなことに時間を使える。趣味など、好きなことに時間を使えることはいいと思う。（A）
- 人が密集していないところで、比較的自分のペースで生活できるところが地方暮らしのいいところかなと思う。（D）
- 家賃相場はだいぶ違うので、家賃が安く住める方が他のことにお金を使えるし、物価も大都会より安いから、長い目で見て考えてほしいと思う。大学を卒業して就職となったら大都会の方がなんだかキラキラして良さそうだと思う人が多いと思うが、果たして60歳まで住みたいかというところまで1回考えて選んだ方がいい。（C）
- 新鮮な食べ物は豊富なので、健康にはいいと思う。熊本県の特産品はトマト、スイカ、栗があるし、新鮮な野菜も直売所で買えるので、健康志向の人にはお勧め。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

- 近くでコロナの感染者が出て、そのときSNSで個人情報などがどんどん流れていた。田舎だからすぐ広まるというのはあると思うので、今の時期に来るのはやめておいた方がいいと思う。（A）
- ほとんどのイベントがなくなっていることとか、子供達の行事もかわいそうぐらいキャンセルになっている。そういうのを見ると、感染している可能性が少しでもある人が入ってきたらかなり恐れられると思う。東京から来るだけで怖いイメージがあると思う。（B）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×女性（既婚）（Gr.3、Gr.6） ①地方移住に関心を持ったきっかけ_FGI調査結果

	A	B	C	D
年齢	29歳	26歳	27歳	28歳
前住地	愛知県名古屋市中千種区	福岡県福岡市	北海道札幌市	大阪府大阪市
未婚時	既婚	既婚	既婚	既婚
本人職業	専業主婦 (配達員アルバイト)	正社員 医療福祉関係・臨床開発モニター	正社員 人材サービス・営業	正社員 動物医薬品製造業・技術職
現住所は実家と同じ市町村か	島根県 Jターン	鹿児島県 Jターン	静岡県 Jターン	長野県 Jターン
移住することを意識したきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）	07.就職活動（新卒）	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	06.進学先・職業訓練先の検討

	A	B	C	D
年齢	32歳	30歳	26歳	36歳
前住地	兵庫県明石市	長野県塩尻市	茨城県つくば市	大阪府豊中市
未婚時	既婚	既婚	既婚	既婚
本人職業	正社員（医療業・事務）	専業主婦	正社員（総合商社・事務）	パート（大学・技術職）
現住所は実家と同じ市町村か	兵庫県 Jターン	山梨県 Jターン	宮城県 Jターン	富山県 Jターン
移住することを意識したきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）	08.転職・求職活動（新卒以外）	01.将来のライフプランを考えた	08.転職・求職活動（新卒以外）

UJターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住（Gr.3）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「自然も便利も両方欲しい！」東京では人に揉まれて過ごしていたから落ち着ける静かな住環境がいいのと、便利なお店はもちろん欲しかった。「自分の時間をもっと持ちたい！」東京では時間に追われて自分の気持ちもせかせかしていたが、移住してきて気持ちに余裕ができた。（A）
- 「自然も便利も両方欲しい！」今の家の片側はショッピングセンターで栄えていて、片側は緑豊かな山が見える。「広くて快適な家に住みたい！」家賃は3、4万上がっただけで㎡数では3倍のファミリー向けの間取りになったので、大分広がって満足している（B）
- 「自然も便利も両方欲しい！」街中でも大通公園があるし、電車に乗れば自然豊かな公園があるので満足。「自分の時間をもっと持ちたい！」東京にいても通勤時間で取られたのだが、今は歩いて行けるところなので通勤時の満員電車や通勤時間が取られるストレスが減った。（C）
- 「『あの人』についていきたい！」今の夫が大阪に行く予定だったのが一番大きい。「広くて快適な家に住みたい！」は、兄が東京にいたときの1Kと、今の家がほぼ同じくらいの家賃で、広さは3倍。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 東京に住むならマンションとかで、働くのが高層ビルになる可能性が高い、通勤で電車を使っているから帰宅困難とか、エレベーターが止まってしまうのはリスクだと思う。また人混み・満員電車で通勤すると家賃が高く狭い家が自分のライフスタイルと合わないのでは都会は好きではない。旅行の際に適度に便も良く自然があるのは住むのに魅力的だなとは以前思っていた（C）
- 大学で名古屋を受けていたのだが、名古屋で人の多さに圧倒されてしまって都心に住みたくなかった。旅行で福岡は交通の便も良く食べ物もおいしかったし人も優しいので、住みやすそうだった。（B）
- 異動前にUターンIターンを考えて、有楽町の支援団体に行って資料をもらったことがある。友人が町おこし協力隊をやり始めたこと聞いて、興味を持ったのがキッカケ。地方移住で、どういう仕組みで自治体が支援しているとか、そのときは実際に移住して活躍した人の話が聞けた。地方独特の定住者との付き合い方とか、メリットデメリットを話してくれたのが役立った。実際に暮らしている人の話は参考になる。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

- 仕事の上司とトラブルになったのが一番だが、2年同じ営業の中でやってきたので、そろそろ同じ社内で違う部署を体験したいと思って、チャレンジしたい仕事があった札幌に異動願いを出した。（C）
- 大学を決めたときは北海道一択だった。そのときに入学金も払ってしまっていて、次に神奈川の大学もあったのだが、親からももう入学金を払ったから北海道でお願いしますと言われた。（D）

UJターン×女性（既婚）×その他市町村在住（Gr.6）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「やっぱり地元が好き！」、親や昔の友達が近くにいる暮らしがよいと考え1回関西に戻った。実際に家庭を持って子供が生まれると「安心して子育てがしたい！」。（A）
- 「やっぱり地元が好き！」の“親や昔の地元や友達の近くにいる暮らし”というのが大きなきっかけになった。（B）
- 「自然も便利も両方欲しい！」、駅前はずごく発達しているが、ちょっと行くと住宅街がある場所がいい。自然というよりは便利さ重視。将来を考えると「安心して子育てがしたい！」。（C）
- 「安心して子育てがしたい！」、子育てのしやすさは、地方の方がいいのかなと感じる。都内だと保育園もビルの一室だったり、小学校も校庭が狭い。比べると地方は小さい子の子育てにはいいと思う。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 東京よりも地方都市の方が住みやすいという気持ちがあった。あまり人の多いところが得意ではなかった。もともと石巻市の田舎で人が多くないところの生まれなので、その方が慣れている。つくばのように生活するには困らない程度に買い物ができたりする場所の方が住みやすいと思っていた。（C）
- 東京で就職して働いている間に父が病気で倒れてしまい、母が会社を辞めて介護する形よりも、Uターン就職で長野か山梨にするかと思って帰ってきた。（B）
- 東京は地下鉄とかすごい。大江戸線とか「こんなに下まである」と衝撃だった。生活する中で、もし直下型とか大きな災害が起こったとき、人も多し土地動かないし、親戚や家族もいないので、完全に孤立し、助け合える人がいないというのが怖いと思った。地盤とかも大事だが、親戚や助け合える人達が近くにいる方が安心だなと思った記憶はある。（A）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

- 製薬会社の営業だったので首都高を車で走っているとき、大きな事故を起こしてしまった。そのときに命の危険を感じた。（B）
- 実家の母が病気で体調を崩したこともあって、関西に帰りたいたいと思って転職した。（A）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×女性（既婚）（Gr.3、Gr.6）_②地方暮らしの満足度とその理由_FGI調査結果

UJターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住（Gr.3）

地方暮らしの満足点

- 都会でありつつ自然もあるし、生活圏内でもの揃うし余暇もゆったりしているから点数が高い。札幌市内はイベントも多くて賑わっているのはいいところ。(C)
- 暮らしやすさ。愛知で不便な思いをしたことがなく、買い物もすぐ行けるし、交通網も充実しているし、好きなアーティストも愛知でライブをしてくれるから充実している。仕事もプライベートも充実させて休むときは休みたいたいと思っていて、仕事は通勤も便利だしご飯を食べるところも買い物するところも多く、充実した生活が送れている。(A)
- 東京の満員電車ほど身動きができないものに遭遇しないと、食べ物がとてもおいしい。周辺環境も整っていて大きな不満はない。(B)
- 東京より電車の人数が違って快適に通勤できるのがすごく満足。ものを買うのも、ご飯を食べるところも多くて満足。(D)

地方暮らしの不満点

- マイナス点は離島扱いで送料が高いことと、物理的な距離で、静岡出身だから帰省も友達に会うのも飛行機を使うというのが、体力的にも金銭的にもハードルになってしまうので、そこがマイナスポイント。(C)
- 強いて言えばレジャー関係で、遊ぶのはショッピングになってしまうから、遊園地とかレジャースポットがあったらいいと思う。あとは海外旅行に行くときは最寄りの空港は直行便がなく、ハブ空港に行かないと行きにくいので、もう少し交通の便が良くなったら嬉しいと思う。(B)
- 北海道や長野ではずっとヨットをやっていたので、その辺のレジャーが今はなくてそこがマイナス。(D)

今後の居住意向／市町村部への移住意向

- 田舎でもいい。あまり県庁所在地にはこだわってなくて、住む場所のまわりにスーパーやカフェなどがあって、日常生活に不便がなかったらどこでもいいと思っていた。ただ北海道の畑の真ん中みたいところは困る。(C)
- 通勤時間が1時間以内で、治安が良くて、買い物が便利なところであれば県庁所在地にはこだわらない。(B)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化 東京圏への移住意向がない点に変化はない。

UJターン×女性（既婚）×その他市町村在住（Gr.6）

地方暮らしの満足点

- 東京圏でこっちと同じ家を買って車を持つという、今気に入っている生活と同じ生活が東京でできたかと考えると、たぶん難しい。
子供も1学年10クラスもあるようなところで狭い校庭で過ごさせるよりは、車を走らせてどこかに行ったり、戸建てを構えて、のんびり過ごしたいので、今の生活はいいと思う。(A)
- 自然があるし過ごしやすい。普段の買い物や生活に困らないし、東京に行きたいと思えば2時間で行ける。まだ子供がいないので田舎独特の地域での付き合いとか、面倒くさいようなことにも関わっていない。自分の時間を過ごさせて満足している。(B)
- つくばだと車移動がメインになってしまうが、夫が車を持っているので、スーパーは歩いてすぐのところにあるが、ショッピングモールにもすぐ行ける。
友達とも東京で会おうとなったときもすぐに行けるし、通勤も基本的に座って行ける。そういう意味で住みやすい。東京だと毎週遊びに出かけていたらお金がなくなってしまうし、人が多い。(C)

地方暮らしの不満点

- 移住して2～3年過ごしたときに、同僚の中での関係しなくて、この中でいい人いないのではという気持ちになってきたが、長野県で婚活しようという気持ちにはちょっとなれなかった。長野県の方は結構地元主義で隣同士の市でもいさかいがあったり、人柄的にあまり好きじゃなかった。県外の人と結婚したいけど出会いがまったくない、どうしようという感じだった。(B)

今後の居住意向／市町村部への移住意向

- 田舎はプライバシーがないので、どこにお勤めで旦那さんどんなことをしていると、全部近所の方はご存じ。豊中市は通勤族の町と言われていて、小学校も1年で3分の1ぐらい入れ替わる。地元とはだいぶ違いがある。(D)
- 今住んでいるところは子育ての市の政策が上手くいっているので神戸とかいろいろなところから流れてきていて、この土地以外の人も多い。
明石で出会う人はそんなに狭い感覚ではないかなと思う。(A)

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化 東京圏への移住意向がない点に変化はない。

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

UJターン×女性（既婚）（Gr.3、Gr.6）_③移住喚起に向けたアドバイス_FGI調査結果

UJターン×女性（既婚）×都道府県庁所在地在住（Gr.3）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 思った以上にゆったりした生活で、ワークライフバランスが取れた生活が送れるので、迷っているなら一度体験してもらったらいいなと思う。人に対するストレスもないし、のびのび生活できる。（B）
- 交通の便とか災害とかその地域のデメリットもしっかり確認してそれに供えておけばそれほど心配はないのではと思う。東京に比べて、東京にある人気店でも混雑していない。カフェでも空いていたりするからゆったり過ごせるし、話題の店でも並ばずに買えるのがメリットではないか。（C）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

- このタイミングだと歓迎されなかったらと思う。露骨に冷たくされるかどうかはわからないけど、気持ち的に、今来るの？と思う。実際これから来ると言われたらちょっと心配になる。（A）
- 全然違ったと思う。札幌も出ているからなんとも言えないが、このタイミングではウェルカムだとは思わなかったらと思う。（C）
- 会社は出張も多いので、常に出張で東京から来ているし、この時期東京から異動されてきた人もいますが、みんな受け入れている。自分自身が東京に出張して持って帰る心配もあるので、特に疎外感を感じることもないと思う。ただ鹿児島は村社会なので今コロナを持って帰ったら家族で引越さなくてはならない感じだと思う（B）

UJターン×女性（既婚）×その他市町村在住（Gr.6）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 将来年を重ねたり子供ができたときに住みやすいのはやっぱり地方じゃないかと思う。家を集合住宅にするか一戸建てにするかという選択肢もあるし、教育面では選ぶ幅がないかもしれないが、のびのび育てたいのか教育に力を入れたところに進ませたいかぐらいの選択だったらある程度はあるんじゃないというイメージ。地方でもお出かけする場所があれば、お気に入りの場所になるんじゃないかと思う。（C）
- 今後子育てを考えているとしたら、移り住む先の市の政策は非常に重要なので、よく調べてくださいということに尽きる。（A）
- 地方だろうと都会だろうと、何らかの形で人とつながることは可能だと思う。自分は職場でいい人に恵まれて、同じ年齢の子育て世代の知り合いも増えたので、仕事関係で知り合いを増やした。どんな形であれ知り合いを増やせる努力をすれば、知らない土地でも大丈夫だと思う。どこに住んでも自分次第だと思う。（D）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

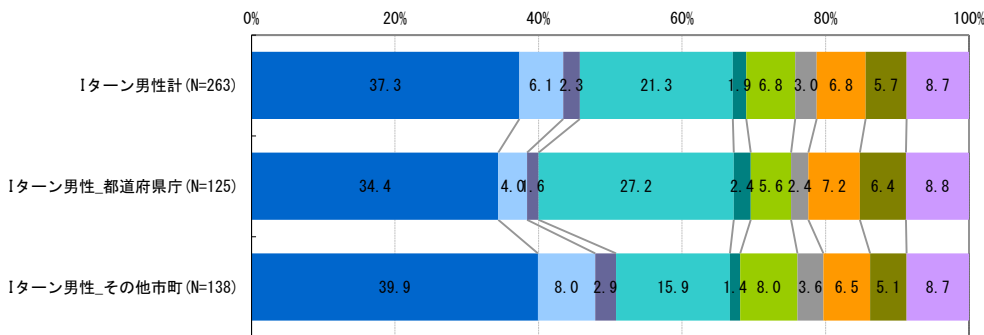
- コロナの感覚は田舎ほど厳しい。「県外ダメ」みたいな。神戸ナンバーでもダメ。感染が出ていない地域は守ることに必死なので、持ち込ませないという感覚が怖い。神戸や大阪とは違う。（A）
- 両親が、近所の目があるから帰ってこないでくれと言う。（D）
- つくばに住んでいる人はつくば市内で働くか東京方面に出る人のどちらかなので、あまり東京に対して警戒心はない気がする。（C）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

誘因カテゴリーの傾向分析_Iターン×男性（Gr.7、Gr.9）

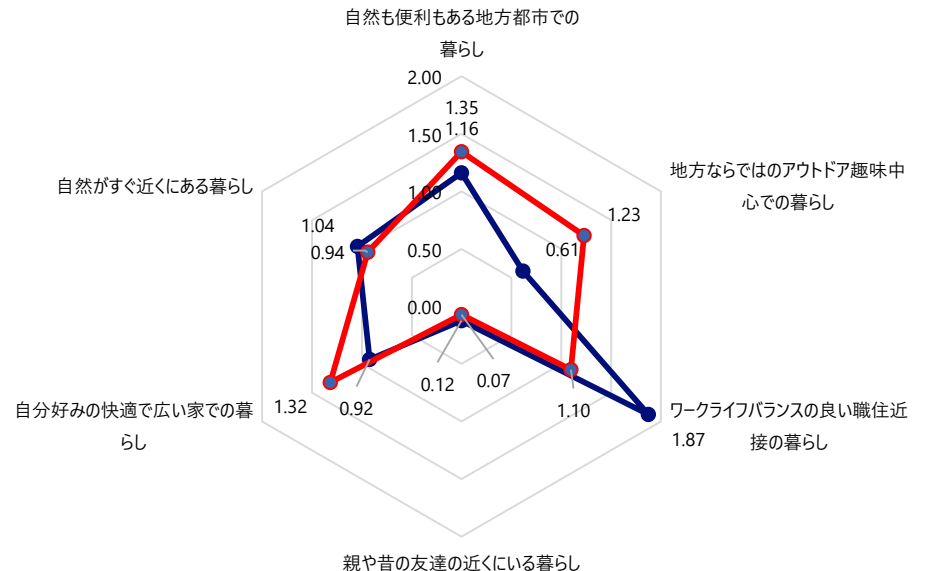
- Iターン男性では、全体の傾向と同じく、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(37.3%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(21.3%)等が上位に挙がる一方で、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(1.9%)については顕著に低い。
 - Iターン男性（都道府県庁所在地）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(34.4%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(27.2%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(7.2%)と続く。Iターン男性（その他市町村）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(39.9%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(15.9%)、「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」(8.0%)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(8.0%)と続く。
 - 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、Iターン男性（都道府県庁所在地）において、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(1.87)が顕著に高い。また、Iターン男性（その他市町村）においては、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(1.35)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(1.32)、「地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし」(1.23)が比較的高い。一方で、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」（都道府県庁所在地：0.12、その他市町村：0.07）は顕著に低い。
- FGI調査においては、下記のような意見が挙がっている。
 - 半年ほど石垣島でホテル派遣で働いてみて、やはり海がある生活がいいと思った。密集していないし、自然も多いし、沖縄がいいかなと思って今年から本島にきた。(Gr.7_A)
 - 神奈川や東京はコンクリートが熱を持ち暑かったが、今は田んぼや自然が豊かで、去年はエアコンなしで扇風機だけで過ごせた。(Gr.7_C)
 - 近くにスーパーがあると生活の便利もあるし、気軽に都会に出られる利便性、アクセスの良さも欲しい。でも公園とかも好きなので緑のあるところも欲しいので、結構じっくりくる。(Gr.9_A)

Iターン男性 都道府県庁所在地+その他市町村
100%棒グラフ



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

Iターン男性 都道府県庁所在地（青）+その他市町村（赤）
UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値=1.00とした回答率の相対指数



※相対指数のレーダーチャートについては、「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」における回答率が5%超の選択肢について分析
 ※「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」は、既存統計より地方移住者全体における（東京圏からの）UJターン者：Iターン者の構成比を試算し、本調査の標本の回答率にウェイトバックして算出した。

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

Iターン×男性（Gr.7、Gr.9）_①地方移住に関心を持ったきっかけ_FGI調査結果

	A	B	C	D
年齢	34歳	32歳	26歳	27歳
居住地	沖縄県那覇市	山形県山形市	大分県大分市	富山県富山市
未婚婚	未婚	未婚	未婚	既婚
本人職業	無職	正社員 教育業・技術職	大学4年生	正社員 服飾部製造業・事務
移り住むことを意識したきっかけ	11.独立して事業を行いたい	07.就職活動（新卒）	06.進学先・職業訓練先の検討	07.就職活動（新卒）

	A	B	C	D
年齢	27歳	28歳	25歳	23歳
居住地	茨城県守谷市	北海道帯広市	石川県野々市市	愛知県刈谷市
未婚婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	正社員 精密機器製造業・技術	正社員 運送業・運転手	正社員 薬品製造業・開発	正社員 電気回線・技術
移り住むことを意識したきっかけ	07.就職活動（新卒）	07.就職活動（新卒）	07.就職活動（新卒）	07.就職活動（新卒）

Iターン×男性×都道府県庁所在地在住（Gr.7）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「自分の時間をもっと持ちたい！」が一番近い。個人的には仕事3、プライベート7ぐらいでいいかなと思っているから。ざっくりだが楽しく生きたい。東京にいたときは仕事6、プライベート4ぐらいだった。（A）
- 「社会の役に立ちたい！」だが、やりたい仕事をしたという気持ちが大きかった。（B）
- 進学がきっかけなので少し違うが、大学を抜きで考えたら「自然も便利も両方欲しい！」。オーストラリアに4年近く住んでいて、ずっと自然に触れていたため、自然がある環境で過ごしたい。かといって利便性がなさすぎるのも過ごしづらいつ感じだったので、そういう意味では自然も便利も両方ほしい。（C）
- きっかけは就職だったが、「社会の役に立ちたい！」に書かれている地域貢献を目標にしていたわけではない。やりたい仕事ができる場所がそこだった。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 就職活動の結果として山形になった。就職活動は関東圏内メインでやっていて、内定ももらったが、あまり自分の希望したところではなかった。当時の研究室の教授から「山形で非常勤だけど仕事があるからチャレンジしてみないか」という提案を受け、面接を受けた。（B）
- 就職がきっかけ。商学系を専攻していたので、製造業で経理の仕事をしたと思って就職活動をしている中で今の会社に内定をもらった。（D）
- もともと新卒で7年ほど東京で働いたが、退職して、海外に3年ぐらい行っていた。日本に戻ってきたとき以前のような満員電車の生活には戻れないと思い、海がある生活がいいと思い沖縄に来た。（A）
- 首都直下型地震が来る来ると言われていて、それも含めて東京圏から離れたたいという気持ちがあった。（A）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

- 大学に編入学したので、試験で受かった大学から選んだ結果、大分になった。もう1つ受かった大学は滋賀だったが、やりたいことで選んだ。（C）
- 実家から通えない職場はあまり想像していなかったが、教授から「そんなことを言っていたら研究なんかできないよ」と厳しく言われて、自分に厳しくやってみようと思ったので決めた。（B）
- 半年ほど石垣島でホテル派遣で働いてみて、やはり海がある生活がいいと思った。密集していないし、自然も多いし、沖縄がいいかなと思って今年から本島に来た。石垣でもホテルで派遣として働きながら生活していた。（A）
- 最終面接のときに富山まで行き、「経理で入るならばしくは富山だぞ」と言われて、それを承諾した上で入社した。石川県に父方の実家があり、富山を通っていたので、まったく知らないわけではなかったし、関東圏でも利便性が高い場所にいたわけではないので、抵抗感なく受け入れられた。（D）

Iターン×男性×その他市町村在住（Gr.9）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「自然も便利も両方欲しい！」、近くにスーパーがあると生活の便利もあるし、気軽に都会に出られる利便性、アクセスの良さも欲しい。でも公園とかも好きなので緑のあるところも欲しいので、結構しっくりくる。（A）
- この中ではない。「人混みが少ない」「のんびりしている」「穏やかな感じ（時間も人も）」、混雑したところでぶつかって舌打ちされるのは好きじゃない。そういうのはこっちにはない。東京では多かった。（B）
- 強いと言うなら「自分の時間をもっと持ちたい！」。自分は職種で会社を絞ったので、それができていて、極端に仕事に縛られていなければ満足。（C）
- この中でコレとあてはまるものはない感じ。どこに住みたいとかよりも、職種で決めたので、住む場所はそんなに意識していなかった。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 東京圏に強いこだわりはなくて、むしろやってみたい仕事を優先して選んだ。大学にいる頃からいつかは実家を出たいと思っていたので、就職のときに地域はこだわらなかった。日本ならどこでも良かった。ずっと実家にいたので人生の経験として一人暮らしをしてみたいと思った。（B）
- もともと就職した段階では研修生という形で、2年間研修を終えて、そのタイミングで配属先として取り手の事業所に配属になった。（A）
- 大学で研究していた分野に関連した会社で、日本の中で上位を選んだ。分野は漢方。売上ベースで上から4社ぐらいを受けた。他に富山や茨城もあったが、内定をもらったのが今の会社。（C）
- 東京と愛知にある会社で、愛知だと自動車関係の仕事ができる。自分はずっと自動車関係をやりたかったので愛知を希望した。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

- 本州の会社を結構受けていたが、なかなか希望の業種の会社を受からなくて、最終的に残ったのが希望の業種の北海道と、そこまで希望ではない業種の東京圏の会社。（B）
- 新幹線が開通して以来（勉強のため）毎年行って、そんなに住みにくいという印象はなかった。東京のすぐ郊外にいるのと大差ないという印象は最初からあった。研究分野に強い先生が石川県にいて毎年何かしら社会人の漢方のお医者さんが参加したりする企画をしてくれていたので行っていた。（C）
- （妻が）ついて来ると二つ返事で言ってくれた。もともと研修が終わったらどこに行くかわからないという話をしていた、お互い覚悟はできていたというのが大きかった。（A）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

Iターン×男性（Gr.7、Gr.9）_②地方暮らしの満足度とその理由_FGI調査結果

Iターン×男性×都道府県庁所在地在住（Gr.7）

地方暮らしの満足点

- 神奈川や東京はコンクリートが熱を持ち暑かったが、今は田んぼや自然が豊かで、去年はエアコンなしで扇風機だけで過ごせた。東京圏から移ってきたので、そういう暑さの面ではだいぶ過ごしやすい。（C）
- 関東圏のように人がゴチャゴチャしているストレスがないというのは大きい。あとは自然が豊かで星が見えし、四季折々の自然も都会より目にしやすい。（D）

地方暮らしの不満点

- やりたい仕事ができているし、友達もいる中で趣味の卓球が毎週できているので満足しているが、将来的なことが決まっておらず満点にならない。両親が賛成していないし、結婚もまだ決まっていないから、10点には届いていない。（B）
- 文化的な活動や、自分がやっているオーケストラや合唱も関東ほど盛んではない。関東だと同じ世代だけで団体が構成できるようところがたくさんあるが、地方はその地区に1団体あるぐらい。同じ世代だけの方が気を遣わずに気安くできていいと思うときもある。（D）

今後の居住意向／市町村部への移住意向

- 何年か経つうちに山形での仲間が増えていったので、そういうことを考えると今後も住み続けたいと思う。とりあえず定年までは帰ることはないだろうというのが現在の見解。（B）
- ずっと地方でいいかなと思っている。知り合いも増えて、環境に慣れてきたので、家を建てて住むのもありかなと考えている。（D）
- 那覇は意外とゴチャゴチャしていたので、必要最低限のスーパーとドラッグストアが1軒ずつあればいいかなと思う。（A）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

- 定年後もできれば山形にいたいという気持ちが強いのではないかと予想しているが、長男なので、お墓や家を守ってほしいという親の意向もあり、そこをどうするかは問題になるかもしれない。（B）

Iターン×男性×その他市町村在住（Gr.9）

地方暮らしの満足点

- 守谷市のおいしいお店マップみたいな、市がまとめつついろいろな飲食店が共同で出しているマップがあった。スイーツ、和、洋食などいろいろなジャンルで出ていて、それが結構いい。休日にブラブラ散歩がてらおいしいお店を開拓しに行ったりしている。市役所のページでは、ほぼ全部わからないことがわかった。役所手続き全般、どこかのガスや水道と契約したらいいか、ゴミ出し等。また、守谷市はアプリで居住地域の不燃ゴミやコロナの情報を毎日通知してくれるのですごく便利。（A）
- 夏は湿度が高くなって涼しいこと。帯広で食べた方が食事はおいしくて安いと思う。あと通勤電車のストレスから解放された。人混みも少ない。ほどよい混雑感。こっちに来て、人混みすぎていいストレスだったんだなと思った。（B）
- 移動距離が短くなったことが大きい。千葉では友達と遊ぶときや家電購入等いろいろな移動に1時間かかっていた。今は全部20分以内で行けてしまう。徒歩圏内に家具屋さんも家電屋さんもあるので、評価がすごく高い。通勤も30分で前に比べたらだいぶ短くて、満員電車でもない。移動関係がすごく良くなったのが大きい。寝る時間にするにしても自分の時間が増えるというのがすごく大きい。（C）
- 駐車場代が安くて満員電車もないのは結構いい。（D）

地方暮らしの不満点

- 友達とのコミュニケーション。友達は関東に残っているのでLINEのグループで「飲み会やるよ」と来ても自分だけ行けない。情報交換するのでグループを抜けるつもりはないが、行きたいなと思っても気軽に行ける距離じゃない。実家に帰るにしても飛行機がそれなりに高いので、なかなか帰りづらい。（B）
- 知人や親戚がいる場所ではないので、会いに行くとなると遠くて1泊ぐらい考えないといけない。（C）
- 流行やテレビで見ているというものにタイムラグがある。通販も他の地域なら1日で届くが、北海道は絶対に2日かかる。送料も北海道は別。送料が高いから買うのをやめようかなと思うこともある。ちょっと災害があると止まってしまう、漫画雑誌も届かなくなる。（B）

今後の居住意向／市町村部への移住意向

- 東京に帰りたい。子育てのときに実家に近い方がいいかなと思っている。具体的には考えていないが。（A）
- 北海道でなくてもいいが、東京圏で週5日、何時間も通勤電車で揺られるのは無理かなと思っている。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

- 感染リスクを考えると都内じゃなくて良かったなと思う。人が多いところだとそういうことがあるんだなと気づかされた。千葉、埼玉、神奈川も大都市なので、大都市全般かな。（A）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

Iターン×男性（Gr.7、Gr.9）_③移住喚起に向けたアドバイス_FGI調査結果

Iターン×男性×都道府県庁所在地在住（Gr.7）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 自分が所属するコミュニティは複数あった方がラクかなと思う。職場の人だけだとマンネリ化したり、プライベートでは職場の話がしにくかったりもするので、趣味を持って地方に行った方が、地方がイヤになりにくいのではないかと気がする。（D）
- 独身で地方に住む場合、結婚を考えたときに婚活が大変かもしれない。婚活環境としては、地方は不利。出会いの数が少ない。普通の生活でもそうだし、アプリにしても結婚相談所にしても街コンにしても絶対的な人数が少ないので、不利になりやすい。しかも地元の人を探す場合に地元トークができない。いろいろ不利になる点があるので、そこは覚悟しておいた方がいいと言いたい。（B）
- 持病や身体的に不安がある人は専門医がいるかを調べた上で移住した方がいい。病院自体も関東圏に比べてすぐに行ける場所が少ないので、事前に調べておいた方がいいと思う。（C）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

- アルバイトをしている場所が駅ビルの商業施設なので、お盆などで帰省されて感染者が出てしまうと休館すると施設側から言われている。そういうことが起きてしまうのであれば、正直戻ってきてほしくない。そういうリスクがなく、予防をちゃんとしてくれるなら構わない。要するに自分に影響がなければいいかなと考えている。（C）
- 移住に関してはそんなに…。コロナと多少関係あるかもしれないが、最初の段階で感染を広げなければ、それ以降は関係ない。ただ、山形などに住んでいる人は警戒している面があり、第1号が出たときはその人の家に石が投げられた。田舎は世間が狭い分、判明してしまうと痛い目に遭う。地元への反応は厳しい。（B）

Iターン×男性×その他市町村在住（Gr.9）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 土地の広さとか。あまりゴミゴミしていないので、適切な距離をもてる。都会だと密集するし電車も満員電車だが、地方はそういうのがあまりないので、それがストレスフリーなのかなと思う。あとは物価の安さ。地方の方が全体的に安めだと思う。地価も安い。（A）
- 北海道なので、一番はおいしいものがいっぱいあるよということ。札幌と帯広の満足度は正直変わらない。おしゃれに気を使う人やブランドものが好きな人は札幌の方が買い物しやすいだろう。（B）
- あまり不便じゃないと伝えたい。地方は不便でしょと言われるが、平日の生活に関しては全く変わらないと思う。会社に行ってスーパーに寄って帰るだけだと思うので。土日に毎週渋谷で遊びたいという人には向かないが、本が好きで本屋さんに行ってカフェで読みたいという人なら、地方でも全然事足りる。（C）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

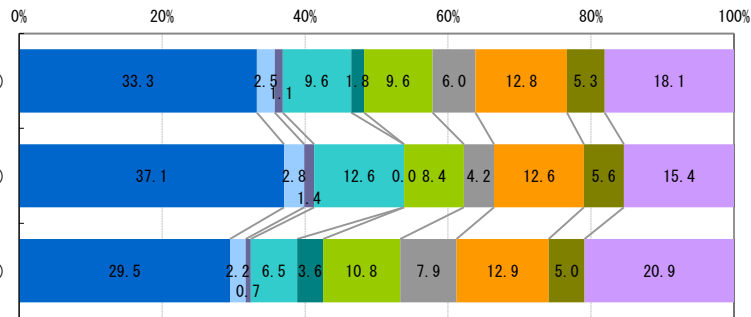
- コロナが流行り始めたときに中国などの外国人をイヤがる傾向があったので、それよりは全然気にしていないと思う。もともと東京や札幌から来る人があるので、どこから来ても特に言われないう。（B）
- 会社は地元の人がほとんどなので、正直今移住して来たらちょっとイヤがられると思う。他県から来ている人が多い大きな会社なら違うと思うが。（C）

3.2.地方移住者（UJ／Iターン者）の意識調査_調査結果

誘因カテゴリーの傾向分析_Iターン×女性（Gr.8、Gr.10）

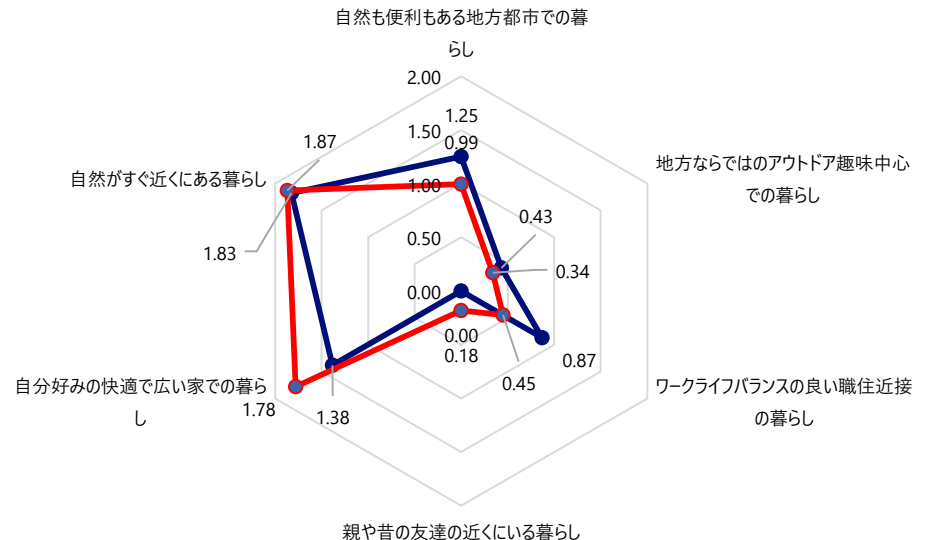
- Iターン女性では、全体の傾向と同じく、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(33.3%)、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(9.6%)等が上位に挙がる一方で、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」(1.8%)については顕著に低い。また、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(9.6%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(12.8%)が他セグメントと比べ高い。
 - Iターン女性（都道府県庁所在地）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(37.1%)が最も高く、「ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし」(12.6%)、「自然がすぐ近くにある暮らし」(12.6%)と続く。Iターン女性（その他市町村）では、「自然も便利もある地方都市での暮らし」(29.5%)が最も高く、「自然がすぐ近くにある暮らし」(12.9%)、「自分好みの快適で広い家での暮らし」(10.8%)と続く。
 - 回答者全体の回答割合を1.00とした相対指数では、「自分好みの快適で広い家での暮らし」（都道府県庁所在地：1.38、その他市町村：1.78）や「自然がすぐ近くにある暮らし」（都道府県庁所在地：1.83、その他市町村：1.87）で高い。一方で、「親や昔の友達の近くにいる暮らし」（都道府県庁所在地：0.00、その他市町村：0.18）は顕著に低い。
- FGI調査においては、下記のような意見が挙がっている。
 - そこまでアウトドアなタイプではないが、大学の敷地が広すぎて地元の人に公園だと思われるぐらいで、小川や森がある。大学に行っているだけでも今の時期は新緑がきれいだなと思う。関東にずっといたらできなかった体験だと思う。(Gr.8_C)
 - 住宅環境は2LDKでトイレ風呂別対面キッチン、駐車場2台付、新築で駅から徒歩10分で8万円。この辺では高い方だが、東京に比べると全然安い。(Gr.10_A)
 - あまり東京にこだわる必要がないと感じていて、ここ数年ネット通販も進化しているので物流面の不便さが減って、山梨も移住して店をやる人と古民家カフェみたいなものが増えている。時代の流行りもあるが、前ほどの不便さ・つまらなさがなくなってきていると思う。そういう情報はSNSで個々に発信しているから情報が得やすいと思う。(Gr.10_A)

Iターン女性 都道府県庁所在地+その他市町村
100%棒グラフ



- 自然も便利もある地方都市での暮らし
- 地方ならではのアウトドア趣味中心での暮らし
- 仕事やボランティアを通して地域に貢献する暮らし
- ワークライフバランスの良い職住近接の暮らし
- 親や昔の友達の近くにいる暮らし
- 自分好みの快適で広い家での暮らし
- 親子にやさしい環境での暮らし
- 自然がすぐ近くにある暮らし
- 街の趣きや情緒に触れる暮らし
- その他

Iターン女性 都道府県庁所在地（青）+その他市町村（赤）
UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値=1.00とした回答率の相対指数



※相対指数のレーダーチャートについては、「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」における回答率が5%超の選択肢について分析
 ※「UJ/Iターン者の出現率に基づく地方移住者全体の傾向値」は、既存統計より地方移住者全体における（東京圏からの）UJターン者：Iターン者の構成比を試算し、本調査の標本の回答率にウェイトバックして算出した。

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

Iターン×女性（Gr.8、Gr.10）_①地方移住に関心を持ったきっかけ_FGI調査結果

	A	B	C	D
年齢	24歳	25歳	26歳	30歳
居住地	栃木県宇都宮市	愛知県名古屋	北海道札幌市	京都府京都市中京区
未婚婚	未婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	アルバイト 飲食業・接客	正社員 医療業・営業	大学院生博士課程1年	正社員 精密機器製造・研究開発職
移り住むことを意識したきっかけ	08.転職・求職活動（新卒以外）	07.就職活動（新卒）	06.進学先・職業訓練先の検討	01.将来のライフプランを考えた

	A	B	C	D
年齢	29歳	21歳	25歳	25歳
居住地	山梨県甲斐市	青森県広前氏	広島県福山市	福岡県太宰府市
未婚婚	既婚	未婚	未婚	未婚
本人職業	専業主婦	大学生 (イベントの案内のアルバイトをしている)	無職	自由業・ブロガー
移り住むことを意識したきっかけ	07.就職活動（新卒）	06.進学先・職業訓練先の検討	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた	02.現在の生活や仕事に違和感や限界を感じた

Iターン×女性×都道府県庁所在地在住（Gr.8）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「社会の役に立ちたい！」、最初は地域に貢献しようというのではありませんでしたが、内定者会のときに聞いたのが、未開拓の土地がいっぱいあったり私有地が大きい会社で、まだ未完全な遊園地というところに魅力を感じた。この土地で自分ができることはいっぱいありそうだなと思った。そういう視点で当てはまると思った。（A）
- 「自分の時間をもっと持たたい！」、友達がいなくて、自分の時間をゆくり持てるかなと思った。（B）
- あえて選ぶなら「自然も便利も両方欲しい！」、そこまでアウトドアなタイプではないが、大学の敷地が広すぎて地元の人に公園だと思われているくらいで、小川や森がある。大学に行っているだけでも今の時期は新緑がきれいだなと思う。関東にずっといたらできなかった体験だと思う。（C）
- 「歴史・文化を感じたい！」、実家も東京近辺も気に入っていたが、長期間過ごすのが飽きてしまう。大学時代から華道など日本文化を習ったりして歴史や文化に興味があったので、そういうものを身近に感じられることもあって京都を選んだ。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 就活のときにレジャー関係の仕事に就きたいと思った。人を楽しませる仕事で社風が合えば全国どこでも行くぐらいの気持ちでいた。でもレジャー関係の求人はなかなか少なかったので、遊園地のHPを見て良さそうなところを片っ端から受けた。（A）
- 勉強したい分野が高校のときに決まっていたので、その分野の研究室がある、理系の学部のある大学を選んでいった。そうすると首都圏にはあまりなかった。（C）
- ずっと実家で暮らしていて、一人っ子なので、東京の大学に行くときも実家から通いなさいと言われていた。首都圏の企業に勤めてしまうと、もう一生家から出ることができなくなるのではないかと思った。ここで少し関東圏から離れてしまえば一人暮らしをするいい機会になると思って、あえて遠くを選んだ。家から出たかった。友人達はみんな一人暮らしをして社会人生活をしていたので、すごく憧れていた。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

- 第一志望と第二志望を受けたが、第一志望は落ちて第二志望に受かったので北海道に来た。（C）
- 内定をいくつかもらった中で、社風が合っていて、やりたいことを反映できそうだったので、たまたま栃木に就職した。（A）
- 第一希望の会社が全国転勤という契約でいつでもどこに行くかわからないということだった。最初東京で営業してあとで地方というよりは、最初に地方に出てしまえば東京に戻る方がいいなと思ったので、東京以外の配属を希望したら、名古屋になった。（B）

Iターン×女性×その他市町村在住（Gr.10）

地方で暮らすことを考えたきっかけとなる地方への気持ち（誘因カテゴリーの選択傾向）

- 「自然も便利も両方欲しい」「広くて快適な家に住みたい」住宅環境は2LDKでトイレ風呂別対面キッチン、駐車場2台付、新築で駅から徒歩10分で8万円。この辺では高い方だが、東京に比べると全然安い。車は、この辺りは一人1台が当たり前。（A）
- 「趣味」ということでアウトドアが好きで高校時代、大学と山岳部に入っていて山が多くて行きやすい。「広くて快適な家に住みたい」、関東近郊で家賃が安い。親もそれはいってよかった。（B）
- あくまできっかけという話であれば、「何はともあれ自然が一番」。結果的には満員電車に乗らない、実家から離れたという希望だけだったから、きっかけでしかないが。（C）
- 「自然と便利も両方欲しい！」理想は隠居生活だが、現実的に考えると買い物ができる方がいいので、自然と便利のバランスが取れた地方が現実的だと思う。買い物も近場でできたらいいので、都市である必要はない。日用品、食糧品が買えて、都市に行く人間じゃないので地方都市じゃなくていい。買い物するところだけ近くに欲しい。（D）

地方での暮らしに関心を持ったきっかけ

- 大学の学部の関係で地方に就職する人が多かった。農学部だったから、地方に行く子はどちらにしる多くて自分もそうなると思っていた。自分が都会以外に行きたいと思い始めたのは満員電車の通学が体力的にきつくなった。それで電車を降りたことが何回かあったので都会、東京で働くのは向いていないと思い始めた。（C）
- 移住サイトというか、地域おこし協力隊みたいなことは学生時代に興味があった。実際に行動には移さなかったが、サイトを見た。サイトには移住という期間限定で行った先で何をしたいのか、どういうおもてなしという生活費の市の負担がどれだけかが書いてあったと思う。（A）
- 家からすぐ離れたかった。母親と性格が合わなくて、家の雰囲気も冷め切っていたので出たかった。あまり近いと...、父親が来ちゃいそうなので避けたかった。中部から西を考えた。北は雪国育ちじゃないから生きていけないから暖かいところだと思った。関西もありだった。（D）

地方への移住を決断した理由（背中を押した要因）

- 就活がうまくいなくて、東京が好きじゃない、人混みが苦手、家も出たいということもあった。夏休みが終わって就活をやめて就活以外で検索して地方移住があるとわかった。福岡が暮らしやすいとわかって地方移住しようと思った。（D）
- 就職がきっかけで移住した。地方を意識したというより食品メーカーに就職したくて東京の大手から関東圏の企業をあたっていく中でたまたま前の会社があった。大手は惨敗だったので、決まった会社がある山梨に移住した。（A）
- 地方も考えて結局就活してうまくいなくて、友人がいるところにほぼ居候のような形で行って、それで仕事をしながら、頃合いを見て就活をして、福山に決まったので行くことになった。（C）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

Iターン×女性（Gr.8、Gr.10）_②地方暮らしの満足度とその理由_FGI調査結果

Iターン×女性×都道府県庁所在地在住（Gr.8）

地方暮らしの満足点

- 東京のときは自転車以最寄り駅まで行ってそこから電車だったので、暑い日や雨の日に自転車ですぐに坂道を漕ぐのが大変だった。雨の日でも車で行き来できるのは満足度が高い。（A）
- 札幌は適度な都会さが自分に合っているのだと思う。コンパクトで欲しいものは手が届いて、ちょっと遠出して郊外にも行けるし、実家に帰ろうと思ったら飛行機代はかかるが乗ってしまえば1時間半なので、便利でいいなと思っている。（C）
- 友達が京都観光で泊めてと言って遊びに来てくれるので、寂しさは感じない。交友関係も充実しているので満足。（D）

地方暮らしの不満点

- 東京圏では自分と同じようなバリバリした人が多かったが、栃木に来たら、バリバリした感じを出すちょっと疎まれるというか。「もう少しのんびりやろうよ」という感じがある。東京だとパーソナルスペースがあって、あまりお互い失礼なことはいわないように、親しき仲にも礼儀ありという部分があったが、結構栃木の田舎に来たらぐいぐい来る部分があって、東京に戻りたいなど最初は思った。（A）
- 名古屋人気質とよく言われるが、買い物や美容室、営業先の人などに出身の話をするとき、「あ、東京の方なんですわ」と一歩引かれる感じがすごくあり、2年経っても慣れない。「東京の方がいらっしやっ」みたいな、皮肉っぽい感じに捉えられることが多い。（B）

今後の居住意向/市町村部への移住意向

- 宇都宮は那須より買物の面では便利だが、結構家にいるだけでも近所の騒音が聞こえてくる。主婦の怒鳴り声とかがいろいろなところから。そういうストレスと、あと渋滞やラッシュがすごいので、20分圏内でも1時間前に出ている。（A）
- いつか東京に戻りたい、名古屋は一時的なものと思っていて「東京に比べると」と思うことが多いので、距離ができてしまう。「東京と言っても田舎の方なんですけどね」という謎のフォローをいつも入れている。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

- 本当は那須から東京に行きたかったが、コロナの影響もあるので、中間地点にしようと同居人と話した。同居人の実家が宇都宮なので、宇都宮になった。（A）

Iターン×女性×その他市町村在住（Gr.10）

地方暮らしの満足点

- 大学の進学を機にだったが、今の生活に満足している。決めた当初は振り返ると都会の方がキラキラした生活ができると思った時期があった。でも学校生活やバイトはどこでも同じような生活だと思う。遊びに行くのは休日になるから、交通手段も発達しているのどこにいても変わらないと思う。キラキラした女子大生みたいにブランドのこたなどを気にしないでいい。いろいろな人がいるから、周りと比べて浮かないようにということを考えないで好きなようにできる。かわいくしている人もいるけど、それもありだし、気を抜けるところもいい。（B）
- 年齢を重ねて人混みがイヤになってきて、アウトドアに興味を持つと山などがいっぱいあるから今は満足している。（A）
- 人口密度の低さ。外を歩いているとき、電車に乗るとき、買い物をするとき。人っ子一人いないとまではいかないが、夜に歩くとき一人二人歩いているかなぐらいで。以前は人混みがストレスだったので天国のよう。（D）

地方暮らしの不満点

- 服を買ったり、週末にどこかのショッピングモールで遊ぶようなことはない。電車が1時間に何本もないから1本逃すと間に合わないこともあるから朝早い電車に乗る。方言の津軽弁が強いので1年生の頃にコミュニケーションが大変だった。（B）
- 電車が少ないから、車などの費用がかかる。台風で高速道路が途絶えてしまう。ショッピングモールが少なく1つに集中してしまう。同僚と買い物先で顔を合わすのもイヤ。仲がいい人ならいいが、同僚に「いたよね」と言われるのがイヤ。（A）

今後の居住意向/市町村部への移住意向

- いずれ東京圏に戻りたい。子供の進路を考えると、東京だと大学の選択肢が多いから、それまでには地元じゃなくてもいいが、近い方に行けたらいい。（A）
- 両親が住んでいる近くに行きたい。環境的にも便利なのでいつか戻りたい気持ちは少しある。（B）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた東京圏への移住に対する意識変化

- 子育てを考えると、都心まではいかなくても、神奈川の外れならいいが、コロナの状況次第。（A）

3.2.地方移住者（UJ/Iターン者）の意識調査_調査結果

Iターン×女性（Gr.8、Gr.10）_③移住喚起に向けたアドバイス_FGI調査結果

Iターン×女性×都道府県庁所在地在住（Gr.8）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- 意外と住んじゃったら、住めば都みたいな感じ。周りからは「そんな田舎に住んで」と言われたが、田舎に住んでみたら空気がきれいだったり、環境ストレスがなくて過ごしやすかった。人によっては都会の煌びやかなところから移住すると周りに何もないと不便さを感じる人もいると思うので、下調べ、実際に行ってみるか、近くの情報をリサーチするといいと思う。（A）
- 住むところがアクセスがあまり良くないところだったら、自転車か車があった方がいいと思う。名古屋は地下鉄の初乗りが200円で高い。休日も遠くに行くなら車だが、徒歩でもどこでも行けるので徒歩の方が多い。そうした街のアクセスや交通の便は下調べしておくといいと思う。それ以外はどうとでもなる。（B）
- どうとでもなります。（C）
- 不安は伴っても慣れてしまえば住めば都かなと思っている。もし心配ならば、地域の情報をガイドマップで見るよりは、時間が許す限り自分の目で見て確かめてみるのがいい。観光のホテルよりも住宅街にあるゲストハウスなど生活の場に密着したところに1週間ぐらいショートステイで滞在して、近くのスーパーを見てみたりして納得してから住むと満足度が高くなるのではないかなと思う。（D）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

※当該Gr.においては未聴取。

Iターン×女性×その他市町村在住（Gr.10）

地方移住を考えている人へのアドバイス・エール

- あまり東京にこだわる必要がないと感じていて、ここ数年ネット通販も進化しているので物流面の不便さが減って、山梨も移住して店をやる人とか古民家カフェみたいなものが増えている。時代の流行りもあるが、前ほどの不便さ・つまらなさがなくなってきていると思う。そういう情報はSNSで個々に発信しているから情報が得やすいと思う。（A）
- 地方は都会みたいな遊びが少ないというデメリットはあるが、自然が多いとかメリットもあるし、それは東京も一緒。物流面とか、東京でしか見られない番組も配信で好きな時に見られるので東京と変わらない部分も結構ある。都会がいいと最初から思っている人も地方がどうなのかというのを見て、その上で都会がいいのかと判断した方が最終的に後悔しないと思う。（C）
- 東京だけでなく地方の暮らしという道があって、仕事も探せばあるから、普通に東京と同じレベルでライフラインも整っているし東京に固執しなくていいと思う。（D）

新型コロナウイルス感染症拡大を受けた地方への移動／移住者への気持ち

- ニュースでも青森の玄関先に誹謗中傷の手紙があったようだが、学生は近所づきあいはないものの、地元に住んでいるとご近所同士で話が早いし個人名まで特定されて噂話が共通の話題になる。地方の閉鎖的な怖さがある。周りではそういうことはないがバイト先の大人の人の会話を聞くと、来てほしくないと言っている。（B）
- 移住自体はウェルカムだと思う。田舎暮らしを山梨でも推奨しているが、コロナの状況下では、あそこ人が帰ってきて感染が広がるという噂が広がるので、観光客が来ると県民はイヤだなと思う。コロナが関係なければ、移住はウェルカム。今の急な移住はどうか、場所によるかな。田舎じゃなく甲府ならいいかな。人が少ないところだと、噂になって警戒されそう。（A）